

527-Sa85r

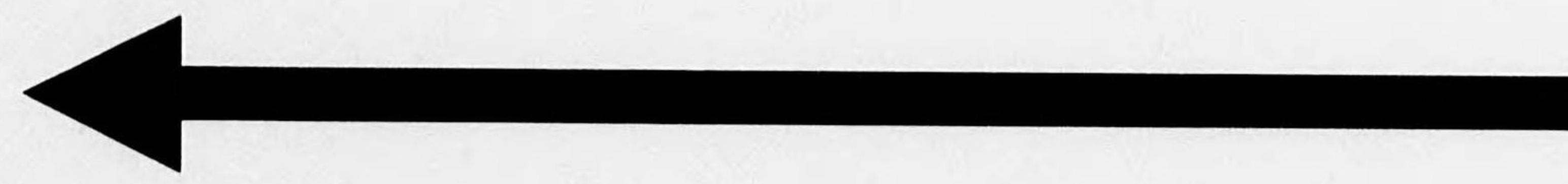


1200500745385

527
85



始



527
SA85

佐藤巳之吉著



再建
日本の

住宅建築設計圖



中
村
書
店

はしがり

終戦第三年目の春を迎へたのにもかゝらず住宅の復舊は遅々として進捗を見ないのが甚だ遺憾である。これが原因は色々ある事でしょうが一時も早く隘路を打開せねばならない。

當局も相當骨をば折つて居る様であるが、實質は伴ふて居りましょうか、はつきり言つたならば昔ながらの官僚式で押してをるから、何事も面倒で簡単に出來得ない失陥があるではなからうか。事實は資材入手難ではある。それには資材不足もあるが高騰して居るので容易に買へない。木材の如きは、生産地に行けば腐る程ある。山に滞貨して居る出貨手續の簡素化と輸送の圓滑さえも計つたならば、資材不足の解消は何んでもない。資材があれば闇がなくなる當局が闇をやかましく言つて居る勿論それは結好ではあるが、同時に住宅復興の資材供給に最善の協力をしたならば、闇もなくなる、復興もする平和な社會となる。

戦災によつて家屋を失ふた者は誰しも一日も早く我家を慾して居る。又復興を御互に祈つて居るのである。

中には住は慾いが食生活に追はれて居るので住までは手は届かないと言はれる方もある。食糧問題に關しては、政府も配給方法に手を打つて遂次良好になりつゝある事は喜ばしい。戦前は衣食住

の三大要素中住は第三位に見て居つた私共、人間界としては衣食に次ぐ住は絶対に必要である事は論を待たない。扱て衣食は足りた資材がある経済力が伴ふたとなれば次に來る復興建設である。その建設計畫の指針となる可き参考書が必要となる。

今日尙ほ、適當な参考書を見出し得ない事を遺憾と思ひ著者の淺學非才な事をも顧ないで、考案の一部を茲に公開したのである。

本書は住むに家のない人の爲に、すぐ参考となる様小さいのは六坪から三十坪前後、最も坪數の多いのは今日やかましい建築制限の拾五坪以内の住宅、及商店の間取り、並に郵便局舎、事務所等にも併用される設計である。最近當局の方針は、又々坪數を拾參坪半以内に制限されて居るのである。本圖中には既に完成したものの施工中のもの計畫中のもの等色々ある。

戦災の爲めに住む家を失ふた方は一日も早く住良し住宅の御建設を祈る。
新築の参考ともなれば、著者の欣幸此の上もないのである。

昭和二十二年一月五日

東京都蒲田の戦災地於 著者識

再建の住宅建築設計圖

圖番目次

第一	圖	洋式の住宅	二
第二	圖	外觀洋式内部日本式の住宅	三
第三	圖	和洋折衷式住宅	五
第四	圖	復興住宅 其の(一)	七
第五	圖	同	九
第六	圖	同	三
第七	圖	同	三
第八	圖	同	五
第九	圖	同	七
第十	圖	同	七

第十一圖	同	(八)	元
第十二圖	同	(九)	三
第十三圖	上流の復興日本趣味の小住宅	三
第十四圖	小料理店又は高等下宿屋向建築	三
第十五圖	引揚者の應急住宅	三
第十六圖	燒跡の假設住宅	七
第十七圖	建坪拾四坪五合の社宅	元
第十八圖	戰災復興の最小住宅	四
第十九圖	圖の(一) 同	四
第十九圖	圖の(二) 同	四
第二十圖	小規模の工場建築	四
第二十一圖	マンサード屋根の工場建築	四
第二十二圖	同	詳細圖	五
第二十三圖	小住宅の間取圖其の(一)	五
第二十四圖	同	(二)	五

第二十五圖	小住宅の間取圖其の(三)	五
第二十六圖	同	(四)	六
第二十七圖	同	(五)	六
第二十八圖	同	(六)	六
第二十九圖	同	(七)	六
第三十圖	同	(八)	六
第三十一圖	圖の(一) 六疊を主とした小住宅	七
第三十一圖	圖の(二) 同	七
第三十一圖	圖の(三) 同	七
第三十二圖	圖の(一) 戰災復興小住宅各種	七
第三十二圖	圖の(二) 同	七
第三十三圖	戰災復興小住宅設計圖	八
第三十四圖	圖の(一) 同	八
第三十四圖	圖の(二) 同	八
第三十四圖	圖の(三) 同	八

第三十五圖の(一)	郊外の簡易小住宅	九
第三十五圖の(二)	同	九
第三十五圖の(三)	同	九
第三十六圖の(一)	住み良い小住宅	九
第三十六圖の(二)	同	九
第三十七圖の(一)	同	九
第三十七圖の(二)	同	九
第三十八圖の(一)	同	一〇
第三十八圖の(二)	同	一〇
第三十八圖の(三)	同	一〇
第三十九圖の(一)	同	一〇
第三十九圖の(二)	同	一一
第四十圖の(一)	同	一一
第四十圖の(二)	同	一一
第四十一圖の(一)	戦災復興郵便局舎(會社工場の事務所)	一七
第四十一圖の(二)	戦災復興郵便局舎(會社工場の事務所)	一七

第四十二圖の(一)	戦災復興郵便局舎(會社工場の事務所)透視圖	一三
第四十二圖の(二)	同	一三
第四十二圖の(三)	同	一三
第四十三圖	郵便局舎設計圖式種	一五
第四十四圖	戦災復興郵便局舎	一七
第四十五圖	郵便局舎設計圖	一七
第四十六圖	同	一七
第四十七圖	戦災復興特定郵便局舎設計圖	一七
第四十八圖の(一)	郵便局舎設計圖	一七
第四十八圖の(二)	同	一七
第四十九圖	同	一七
第五十圖	某ビル内の一部を局舎に改造した圖	一四
第五十一圖	某ビル内郵便局舎	一四
第五十二圖	郵便局舎設計圖	一四
第五十三圖	参戸續の商店	一四



再建
日本の住宅建築設計圖

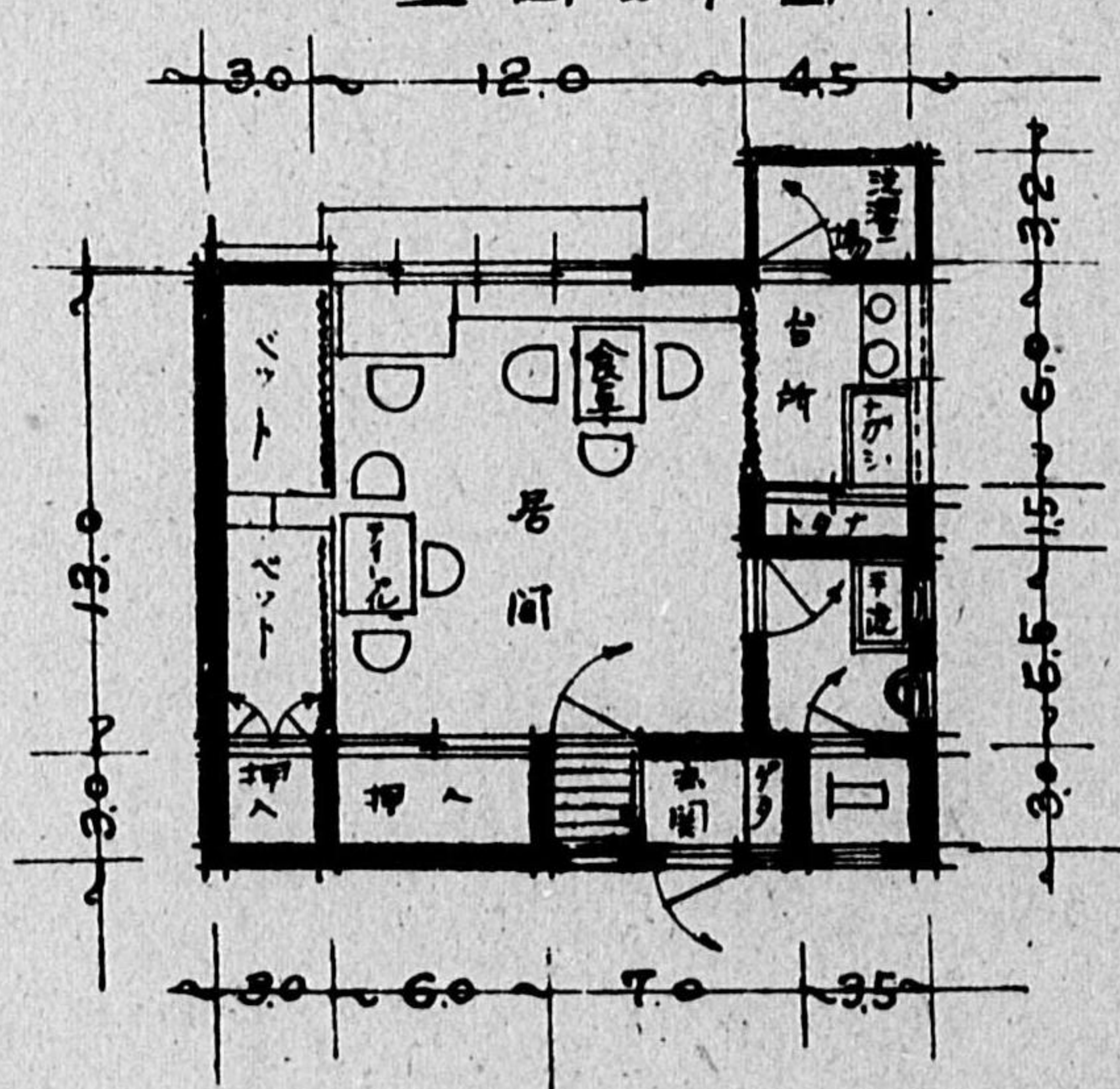
第五十四圖	貳間々口と九尺間口の商店	一四
第五十五圖	貳間々口五戸續の商店	一五
第五十六圖	貳間々口四戸建商店	一五
第五十七圖	貳間半間口參戸建商店	一五
第五十八圖	六間半間口の敷地へ參戸建の商店	一五
第五十九圖	硝子入建具の既製品標準の寸法	一五

目次終り

① 洋式の住宅



正面平面



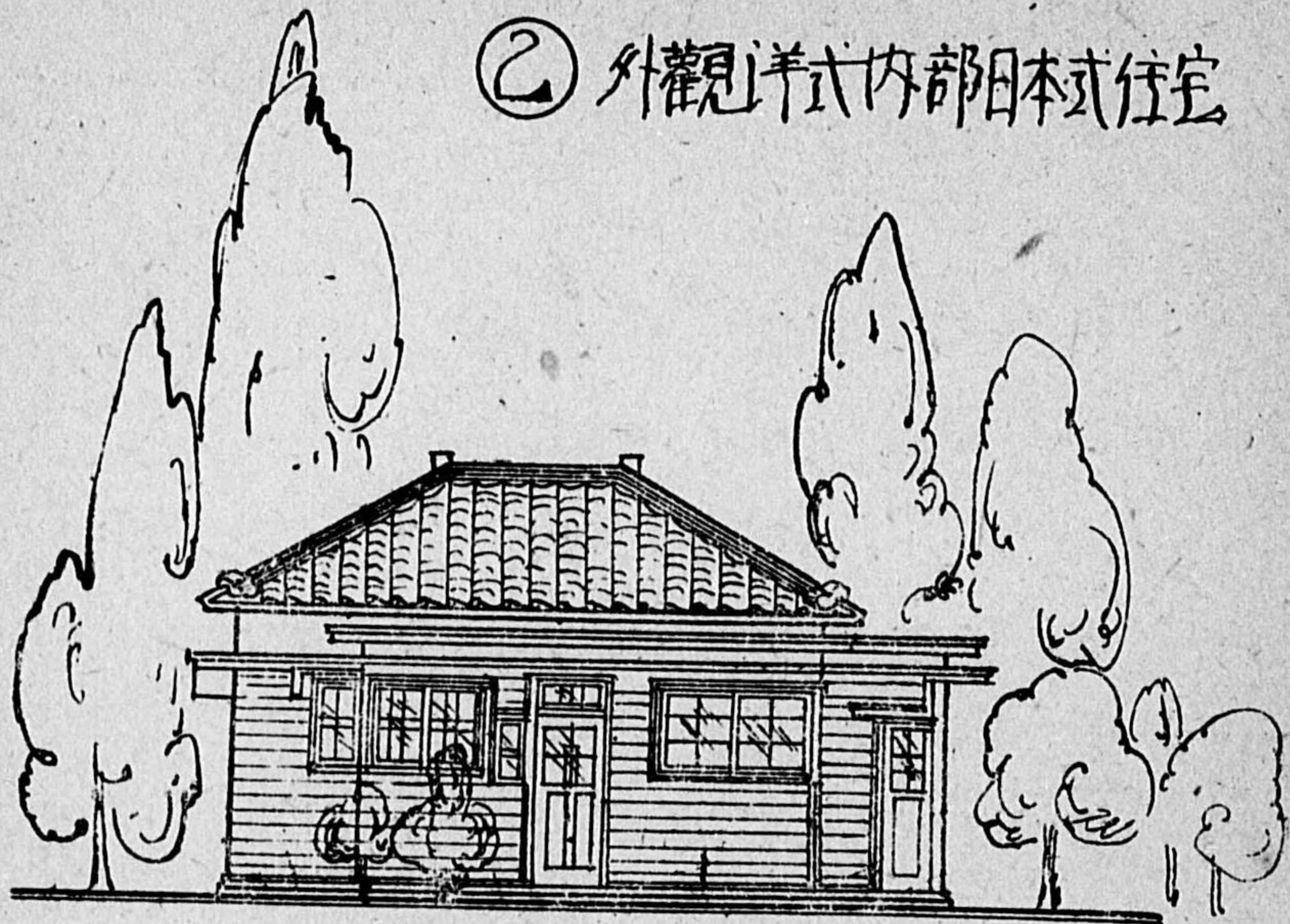
第一圖 洋式の住宅

建坪 八坪六合六勺餘
工費 約四萬圓餘

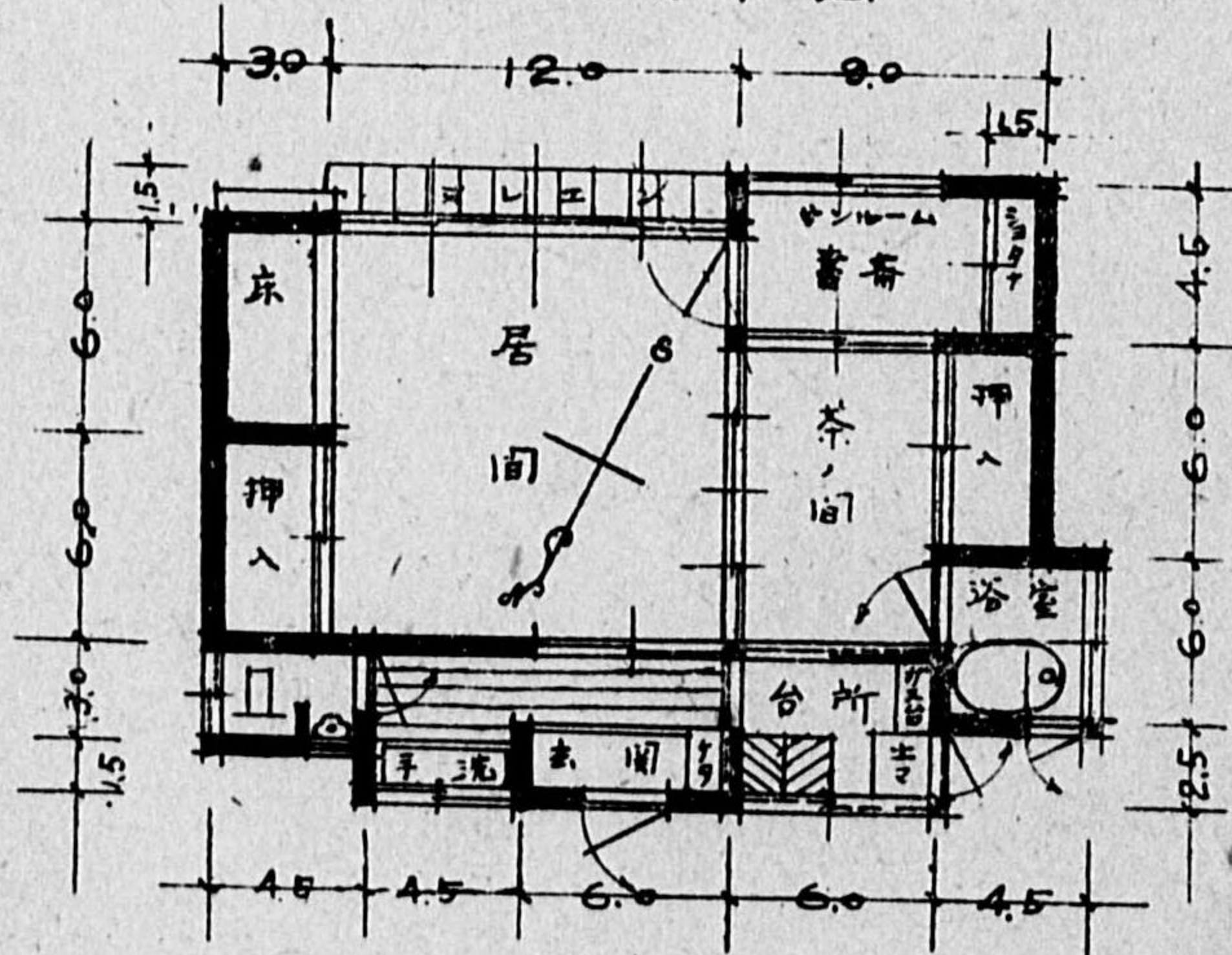
正面向の小住宅、居間を中心とし周圍に各用途別の室を構へた最小限度の住宅である。

居間は綺麗な然もふつくらとした絨氈でも敷詰めてあつたら來客も喜ぶ事であらう。疊敷とするならば、花蒔の上御座でも敷けば和洋兩用ともなる。

② 外觀洋式内部日本式住宅



正面及平面

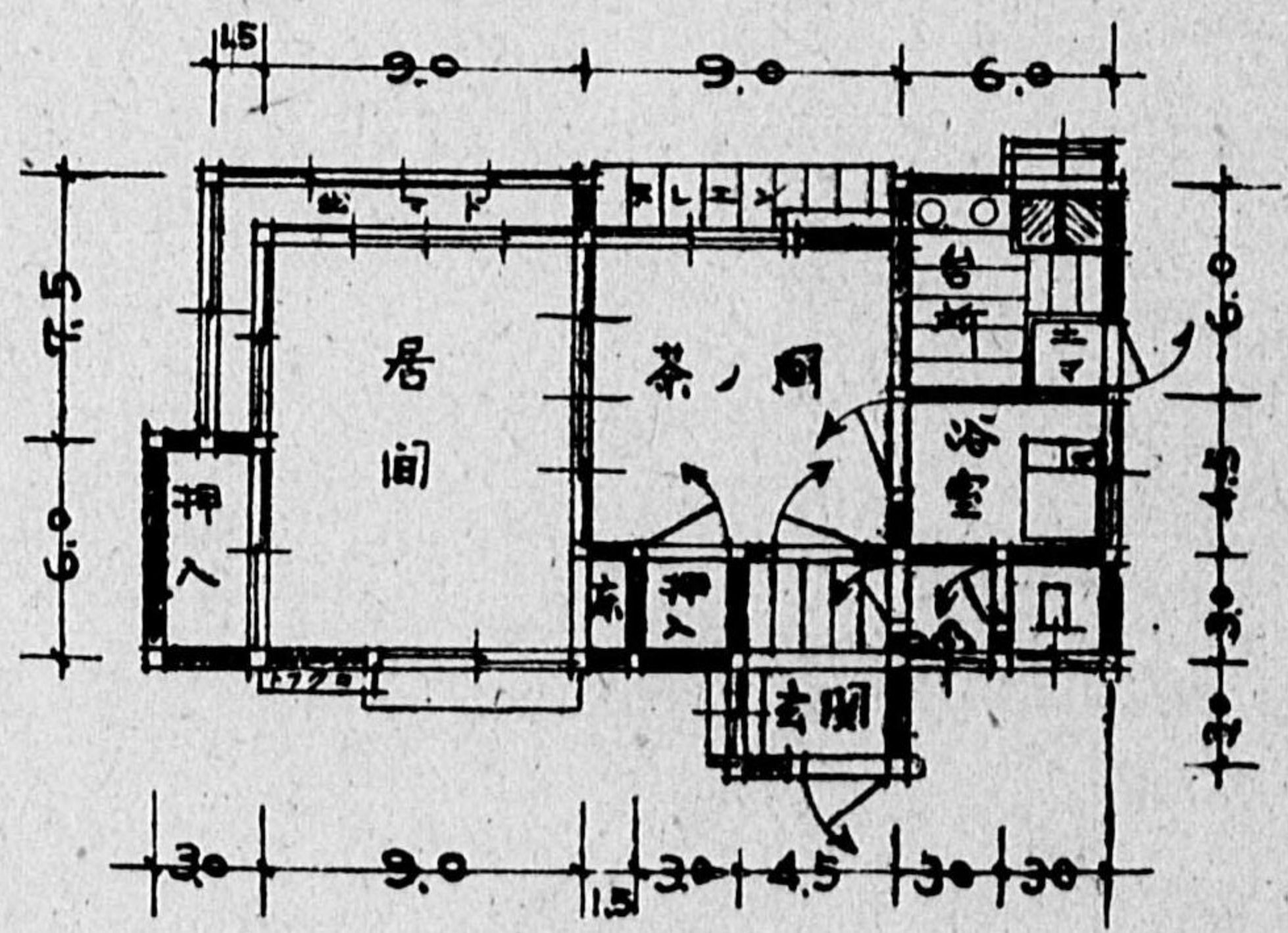
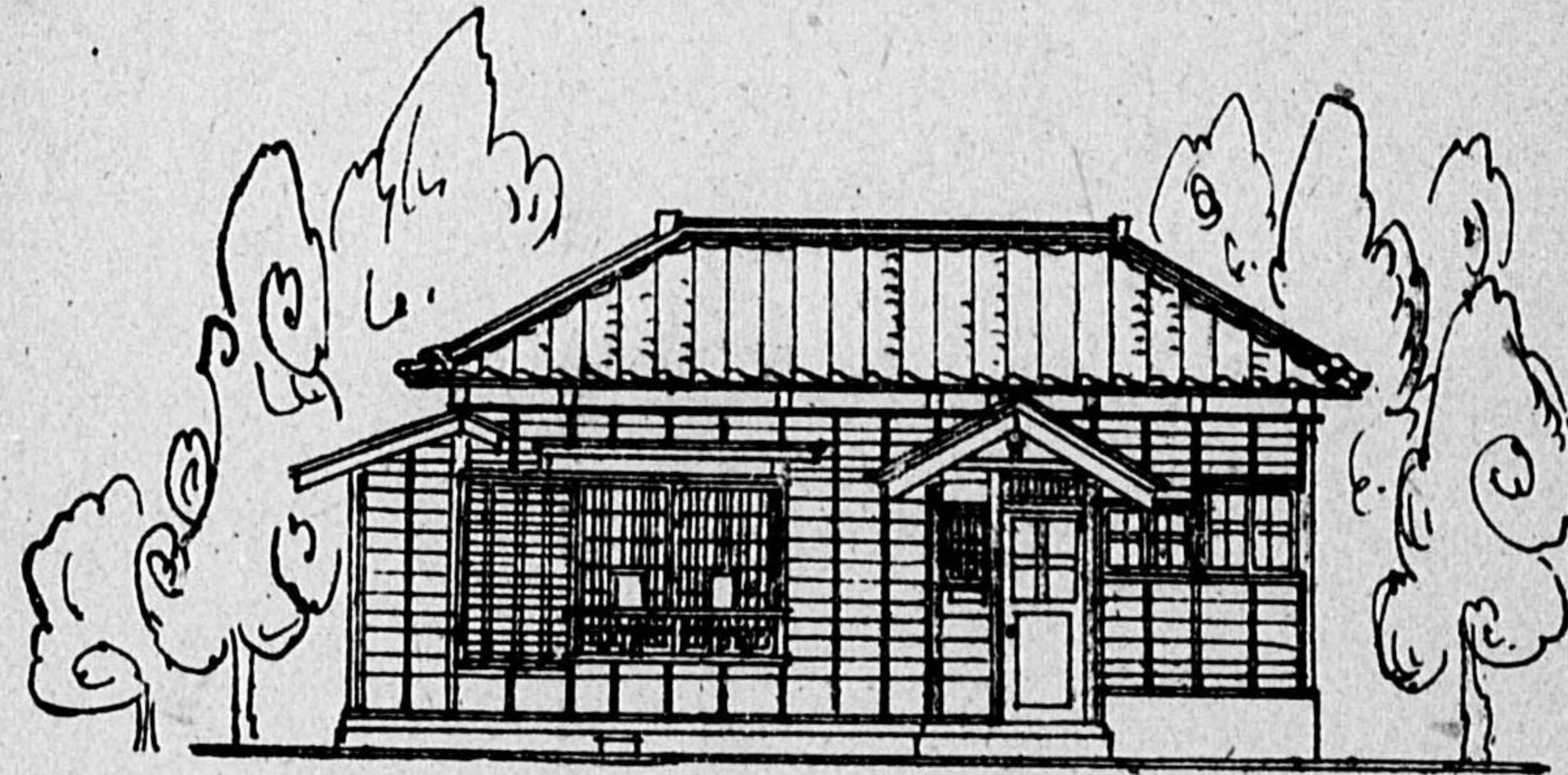


第二圖 外觀洋風内部日本風の住宅

建坪 拾壹坪餘
工費 相當氣張つても七八萬圓で出來上る。

今日の様に物騒な世の中では本圖の様な建築とすれば理想である。
御金持で小人数の家庭向の設計である。

③ 和洋折衷式住宅



第三圖 和洋折衷式住宅

建坪 八坪七合五勺
工費 約四萬圓餘

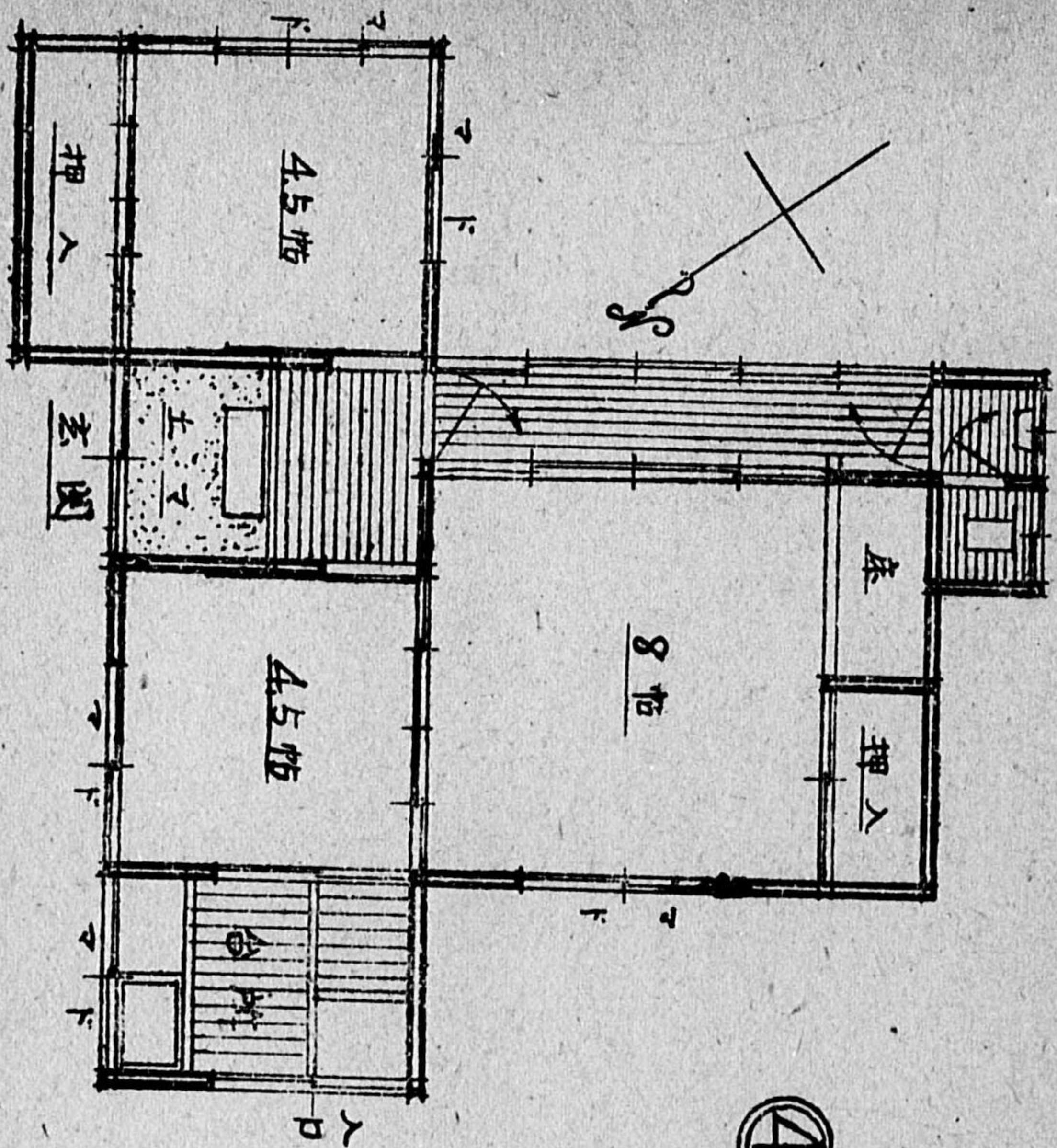
居室以外の他の室も設けられてあるから切縮つた室の大きさの割合に使用の上には頗る便利である。

第四圖 復興住宅 其の(一)

建坪 十五坪

工費 約七萬圓

老人一人に若夫婦と子供二三人向郊外小住宅湯殿があれば理想的な住宅の間取りとなる。



④ 復興住宅 其の(一)

第五圖 復興住宅 其の(二)

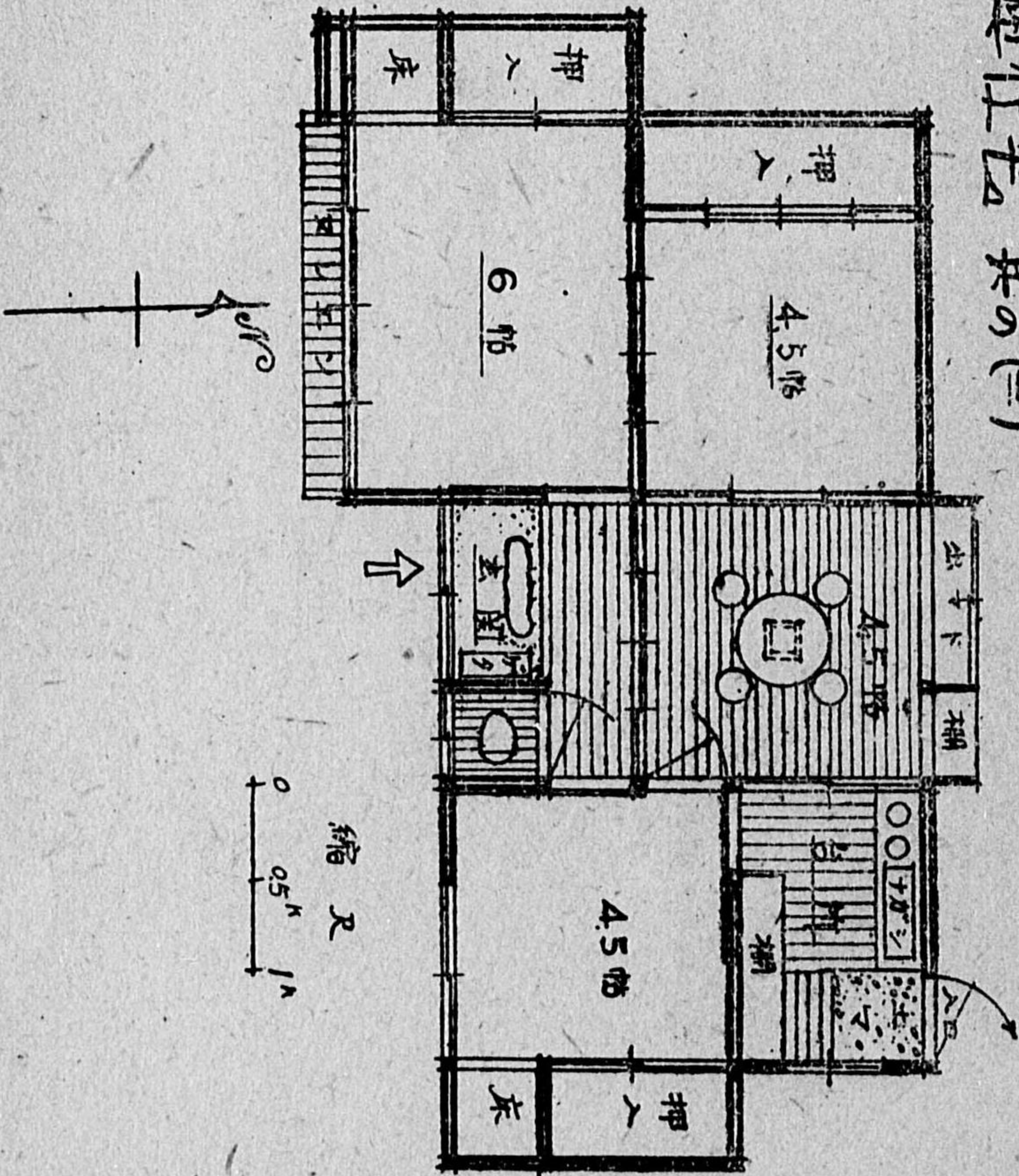
建坪 十五坪

工費 約八萬圓 (應接用の家具ワンセットを含む)

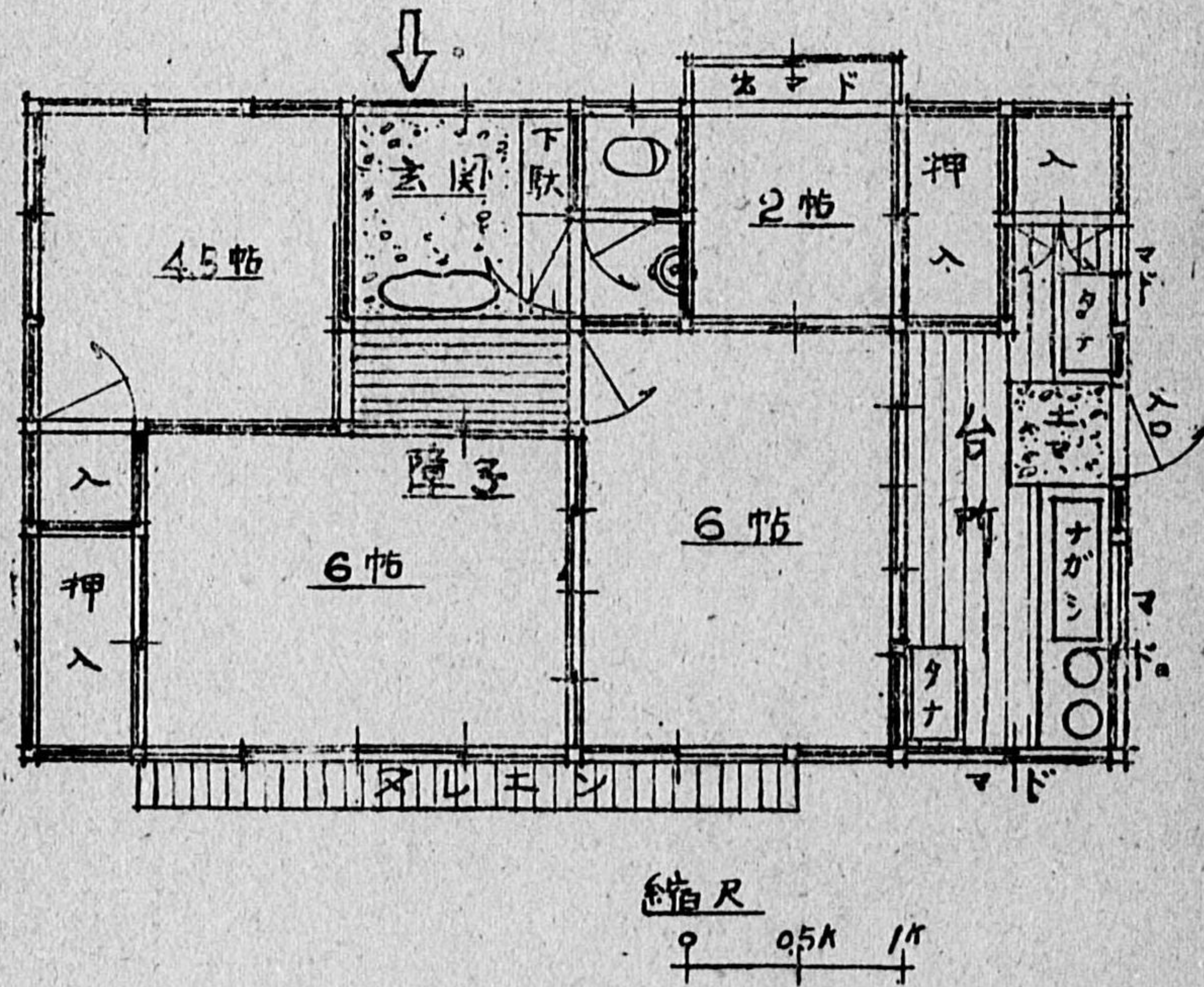
中央の四疊半は食堂兼應接室ともなる。

勤人向今日の様な御時勢であるから會社の重役の社宅ともなる。

⑤ 復興住宅 其の(一)



⑥ 復興住宅 其の三



第六圖 復興住宅 其の(三)

建坪 十五坪

工費 六、七萬圓程度

北玄關東臺所で六疊二間續が便利である。

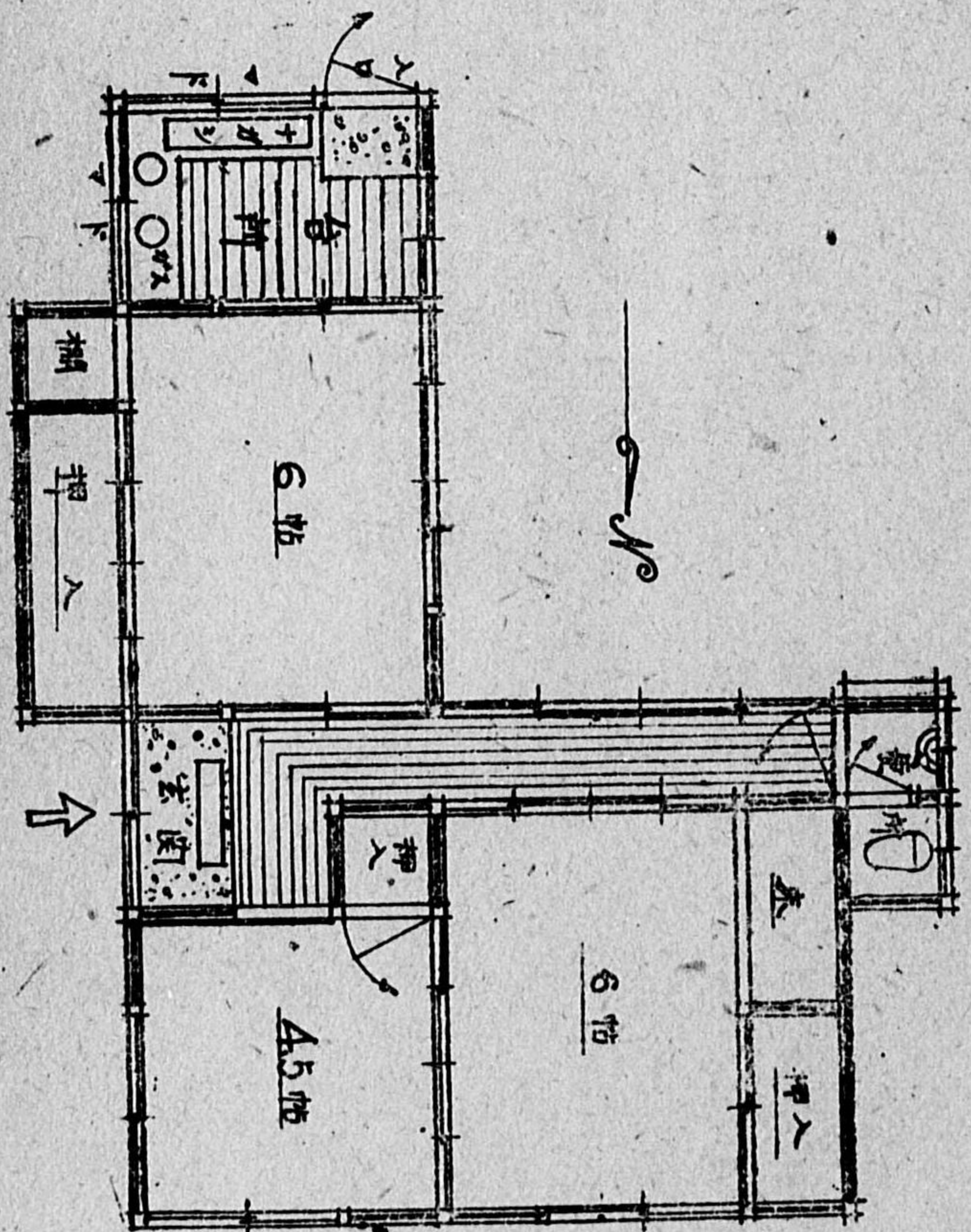
玄關の脇四疊半が「ハイスクール」學生の勉強室、二疊は女中部屋ともなる。臺所を文化式に裝備したならば便利である。

第七圖 復興住宅 其の(四)

建坪 十五坪
工費 約六、七萬圓

東玄關西南に空地廣く取つて食糧増産でもやつたならば今日の様に運配給に困らなくなる計でなく、新鮮なビタミンC野菜を頂けば増血して、一舉兩得楽しい家庭「ホーム」子供等は青森林檎の様な頬ともなる事であらう。

① 復興住宅 其の(四)

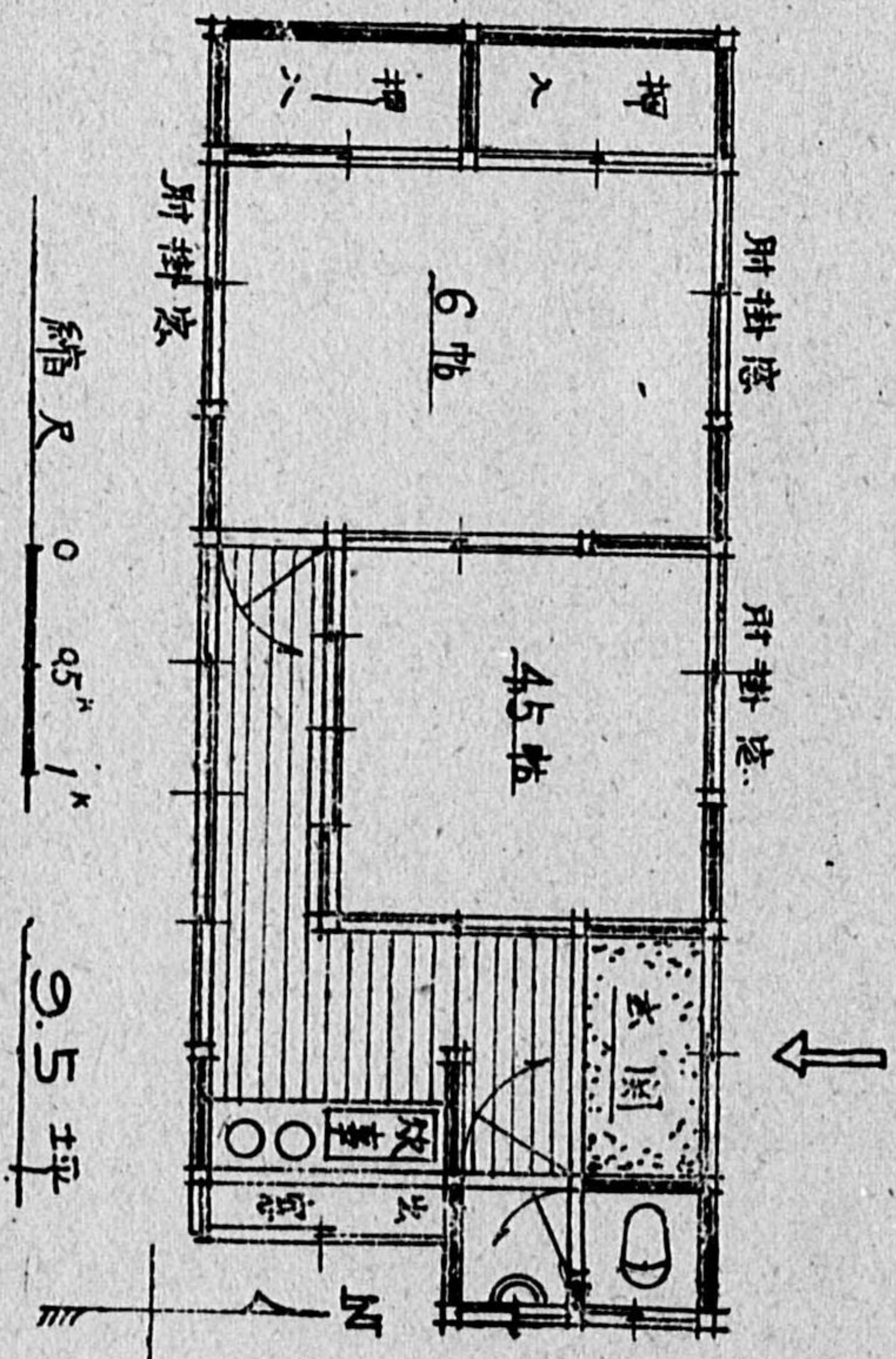


第八圖 復興住宅 其の(五)

建坪 九坪五合 (出窓二合五勺)
 工費 約三萬五、六千圓

北玄関ホールは炊事室を兼ね居る所に妙味がある。六疊と四疊半との間仕切と縁側の仕切建具を外せば、廣い部屋ともなるから多勢の人の寄合等にでも使つたなら便利である。

⑤ 復興住宅 其の(五)



第九圖 復興住宅 其の(六)

建坪 六坪
工費 約二萬圓位

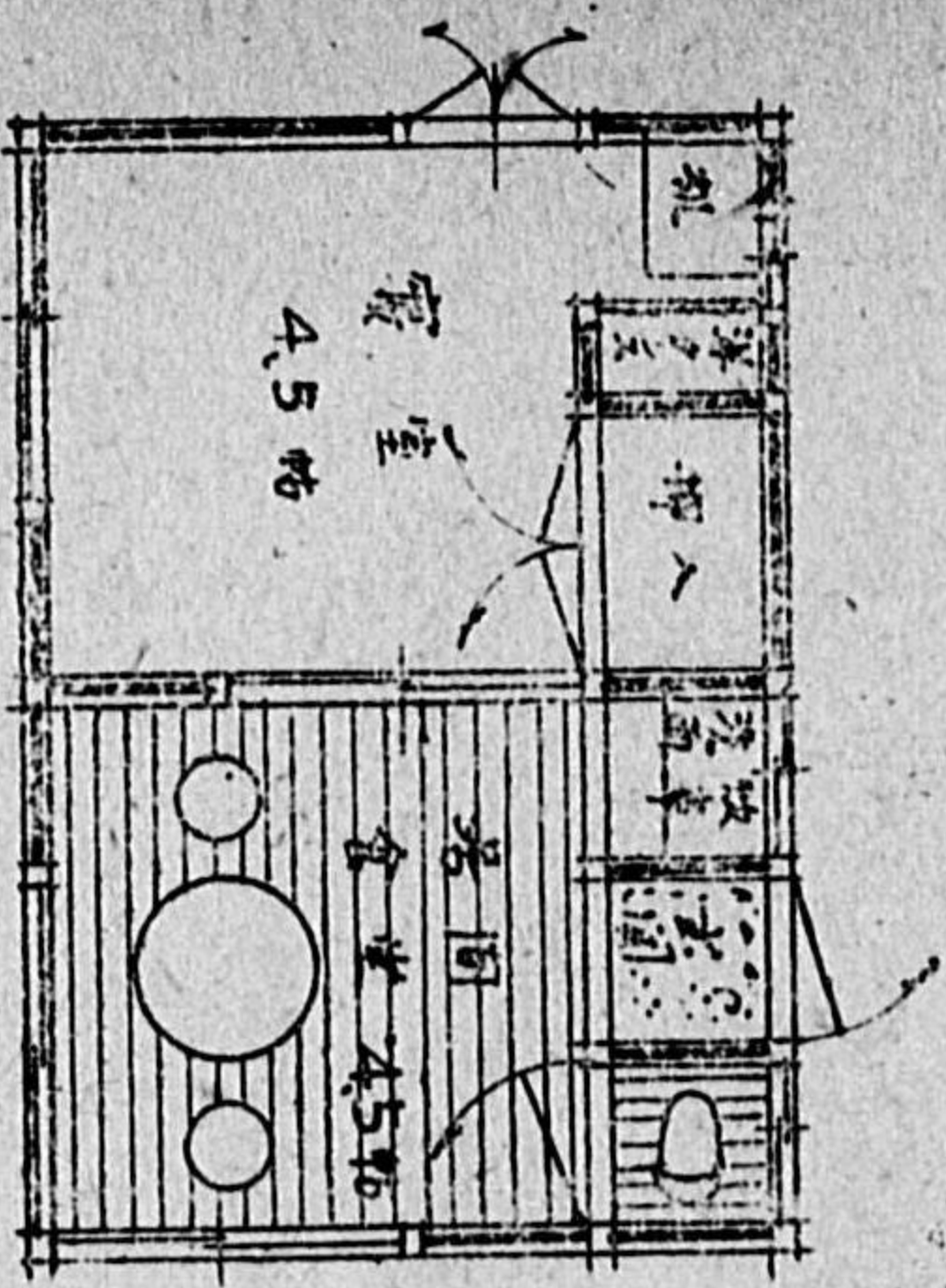
六疊一間で、床の間付南縁側、外食者給料採りか或は大學生向、兄弟二人が都住居として建てられた建物。

第十圖 復興住宅 其の(七)

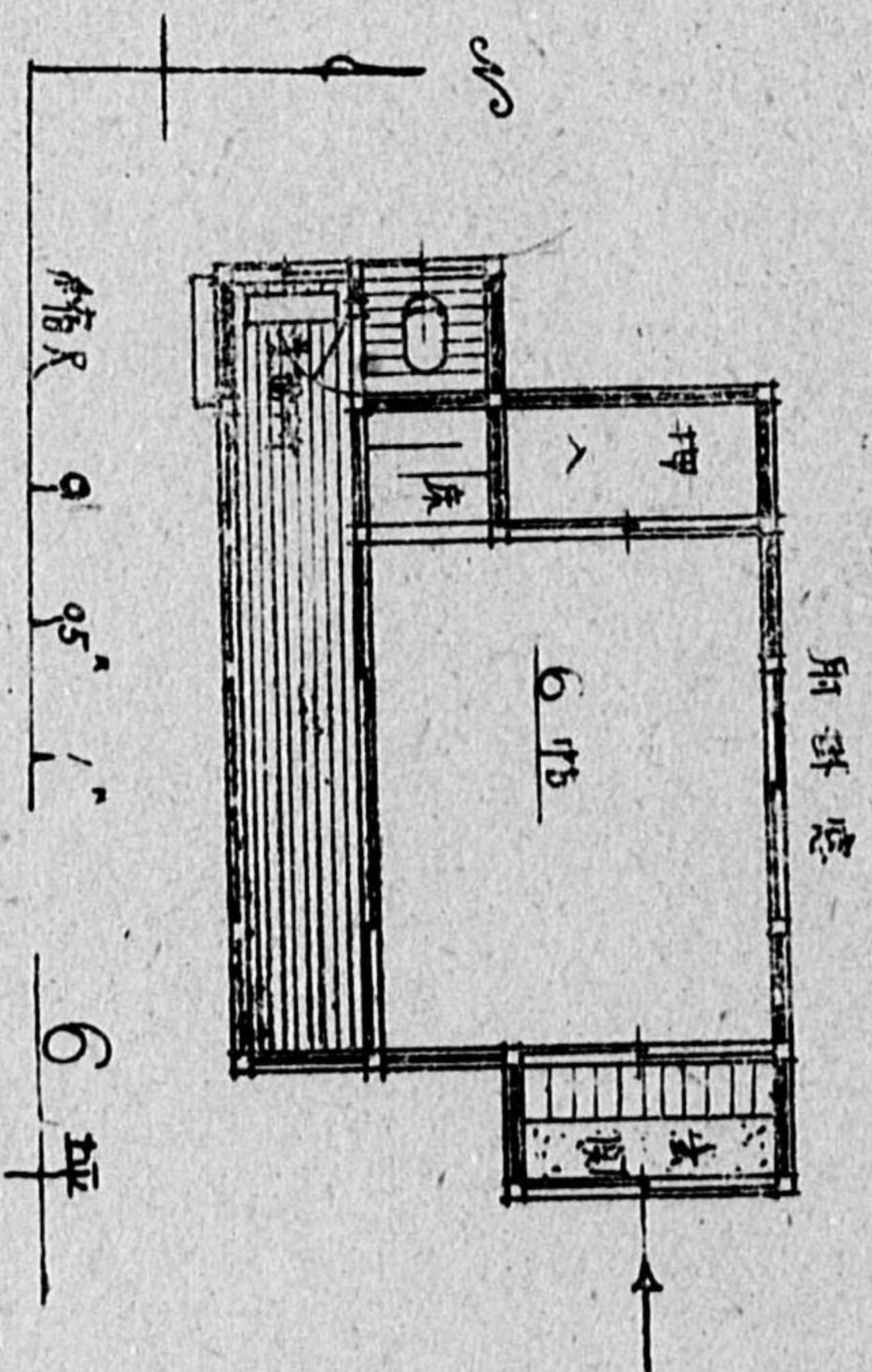
建坪 六坪
工費 約三萬圓位

女子大學生向、居間兼食堂は來客の應接間ともなる炊事場を最小限度に利用する様、裝備する所に本圖の妙味がある。

⑩ 復興住宅 其の(七)



⑨ 復興住宅 其の(六)

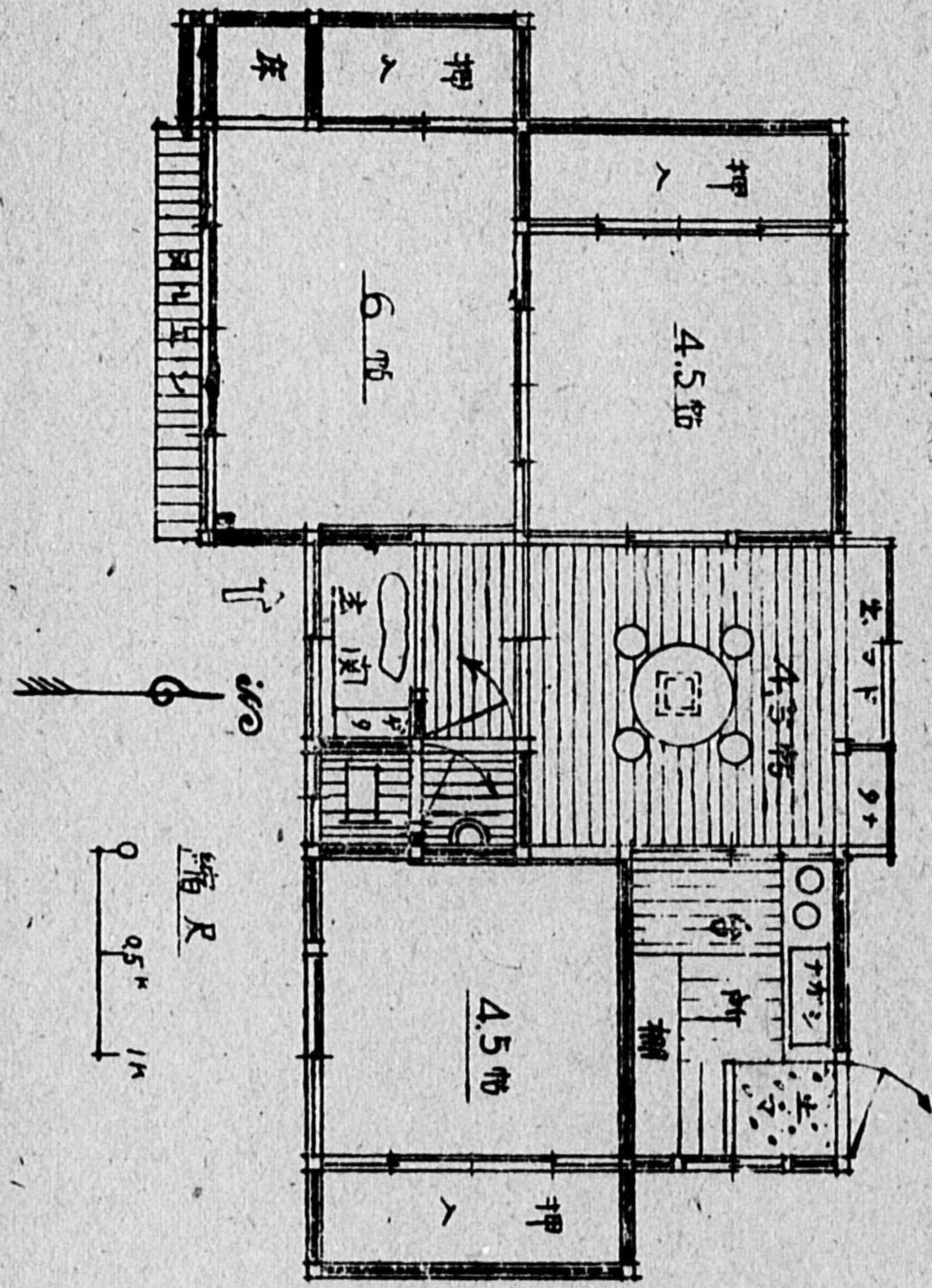


第十一圖 復興住宅 其の(八)

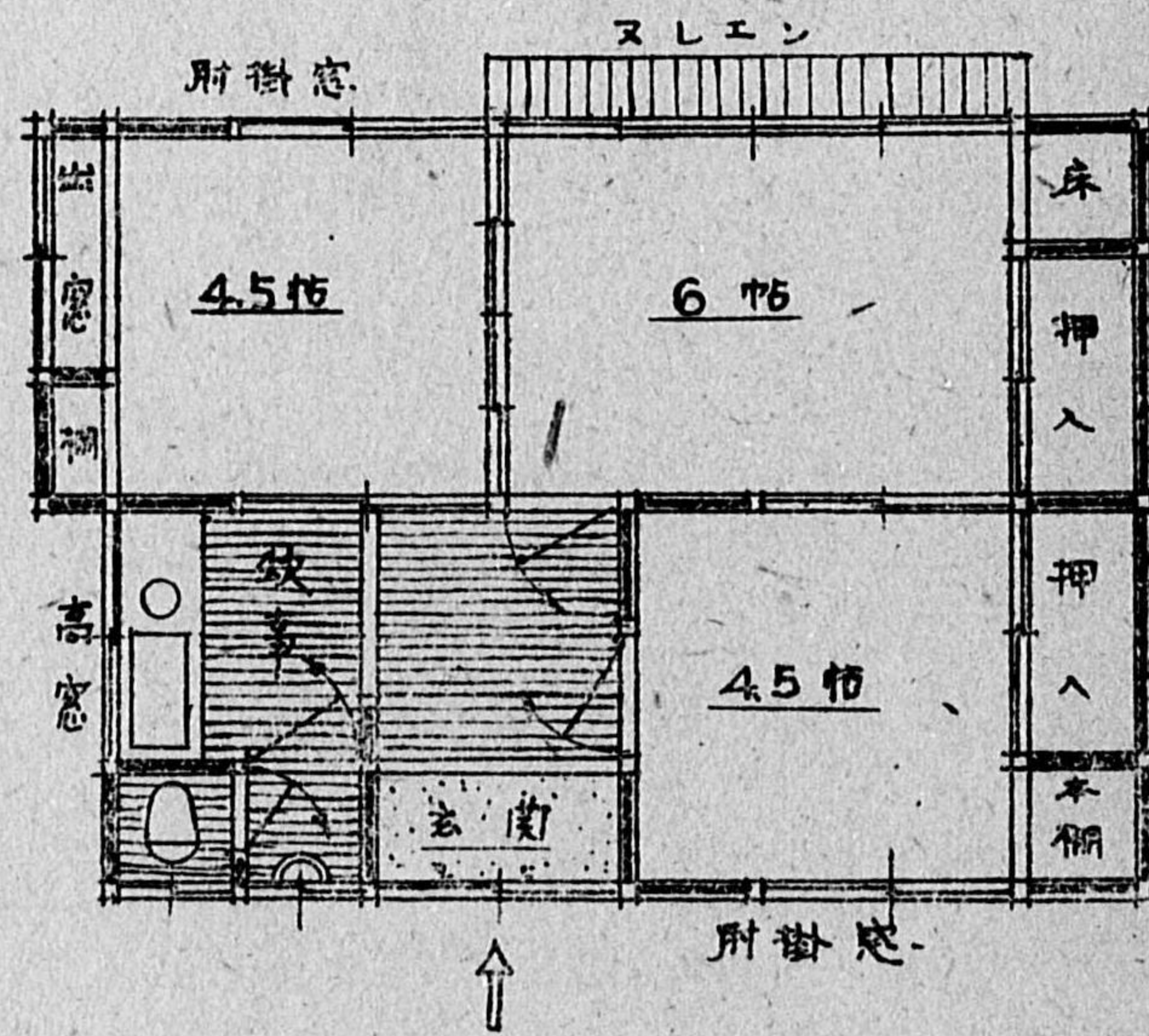
建坪 拾五坪
工費 約七、八萬圓

簡易小住宅としては理想的である。
南玄關、中央の四疊半は食堂兼應接室ともなる各部屋の利用價值は100%である。

⑪ 復興住宅 其の(八)



⑫ 復興住宅 其の(九)



縮尺

0 0.5m 1m

第十二圖 復興住宅 其の(九)

建坪 十三坪
工費 約六萬圓

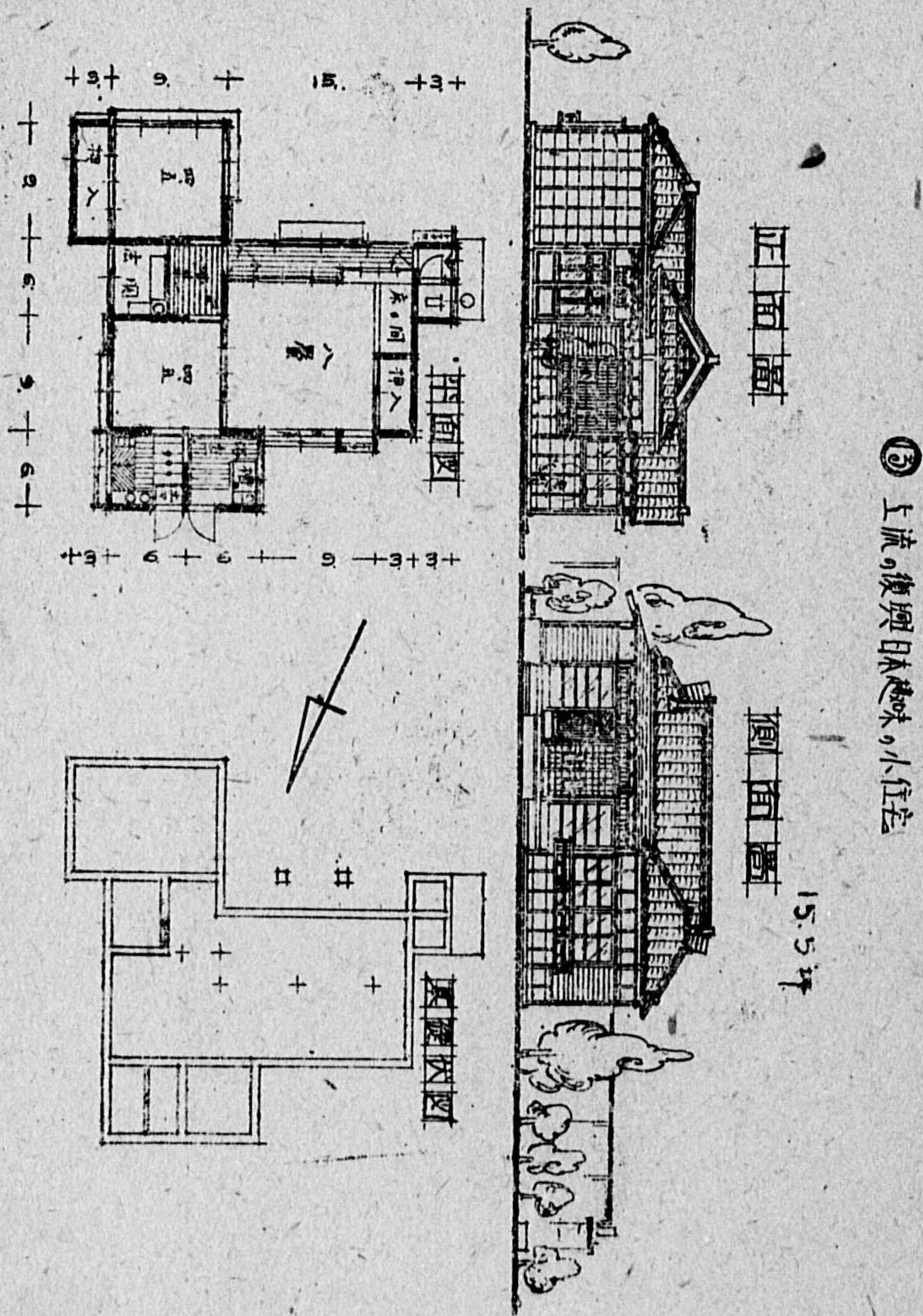
夫婦に子供二、三人向無駄なく出来上つた建物である。
玄關の取次と炊事場との仕切には、カーテンを取付け、必要に応じて開閉したならば
狭い炊事場も廣く使用し得る所に妙味がある。
炊事室からの兩便所は、下町向の住宅の感がある。

第十三圖 上流の復興日本趣味の小住宅

建坪 十五坪五合

工費 約拾五萬圓(諸附帶工事を含む)

屋根を入母屋造りとし、無節の赤味勝秋田杉の下見板張りとして日本建築趣味を十二分に採入れ瓦も三州の面取り釉薬一等品とす。



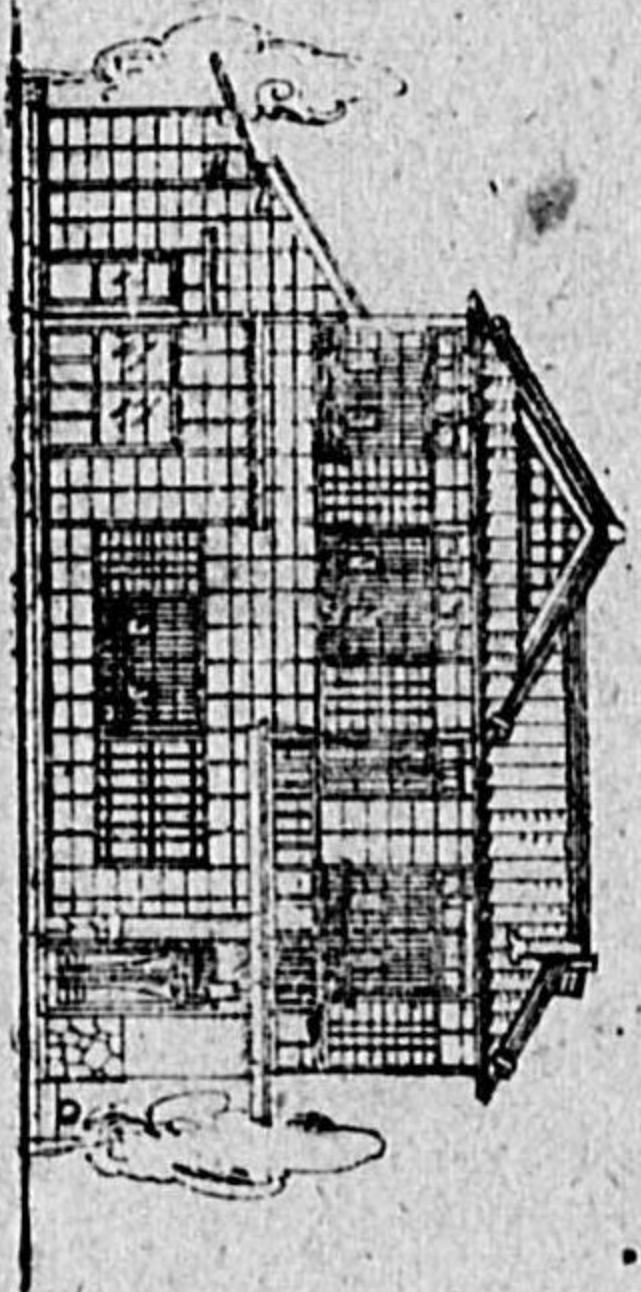
第十四圖 小料理店又は高等下宿屋向建築

建坪 三十坪六合五勺餘、階上十八坪六合二勺五
 延坪 四十九坪二合七勺五
 工費 坪當り約千圓總工費三十九萬四千圓附帶工事費を含めれば、四十四、
 五萬圓を要するのである。

階上の各部屋は單一に使用し得る様設計されて居るから、徒合或は高等下宿屋向として理想的である。

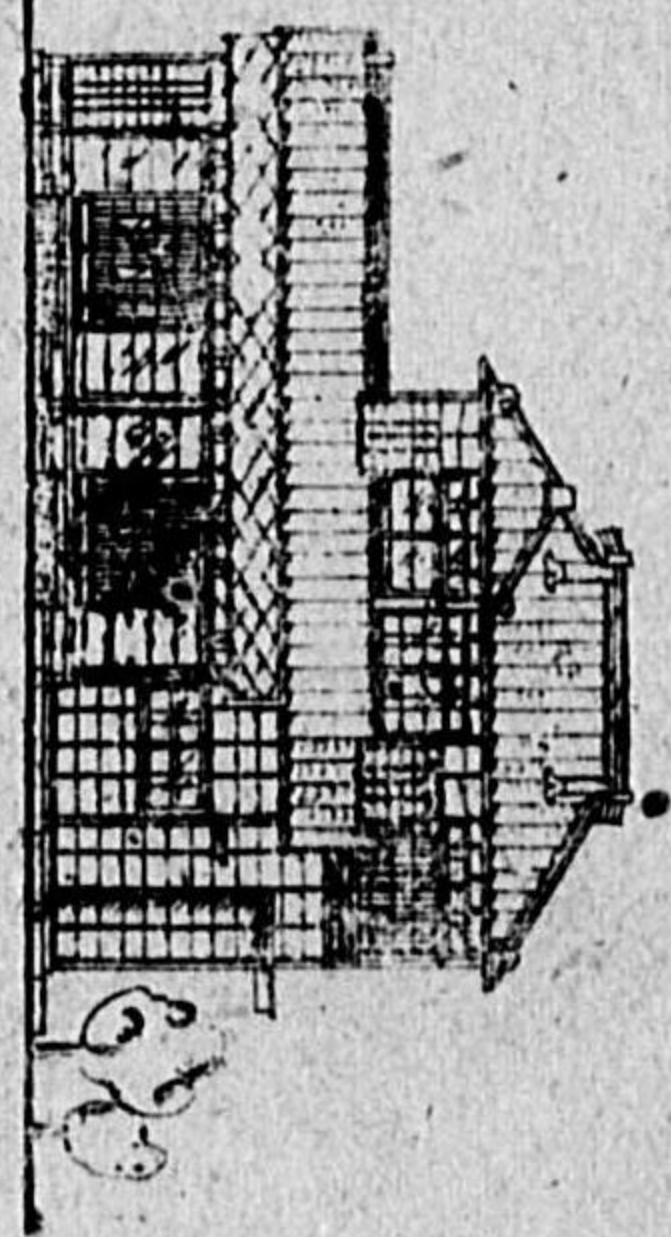
建物の様式は玄關を洋風とし他は純日本趣味の建築である。

西面圖

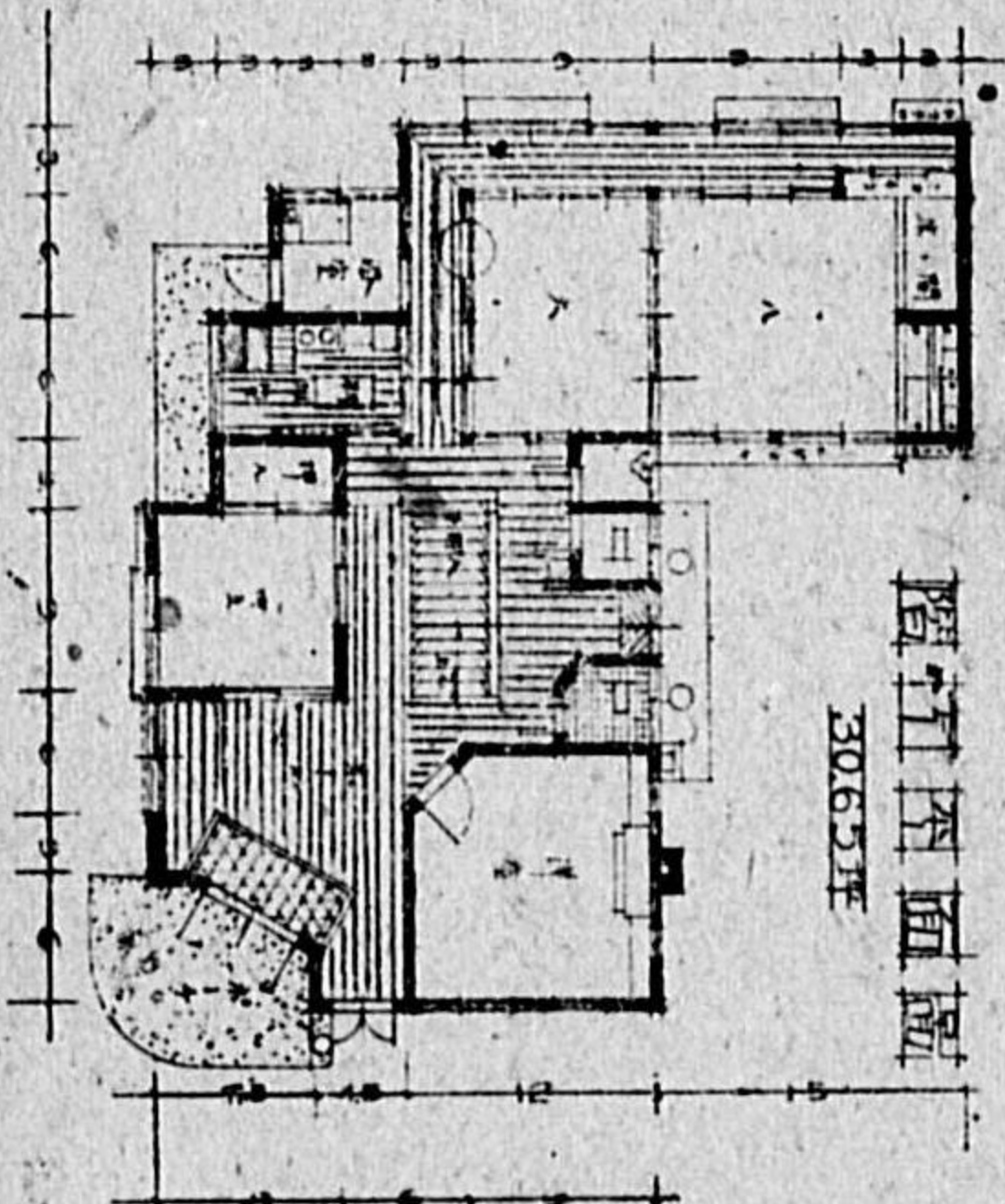


⊕ 小料理店又は高等下宿屋

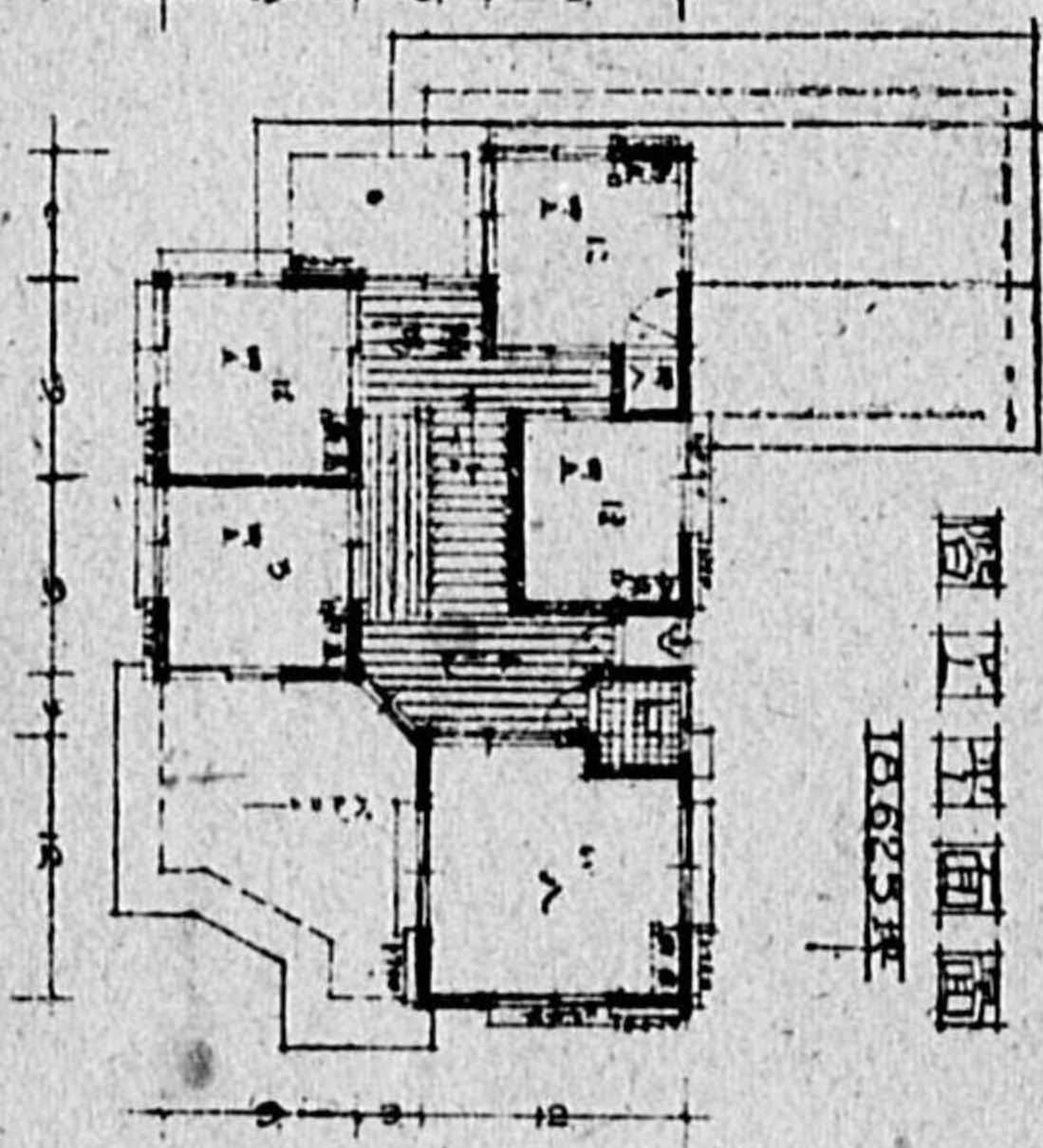
西面圖



西面圖
30.65坪



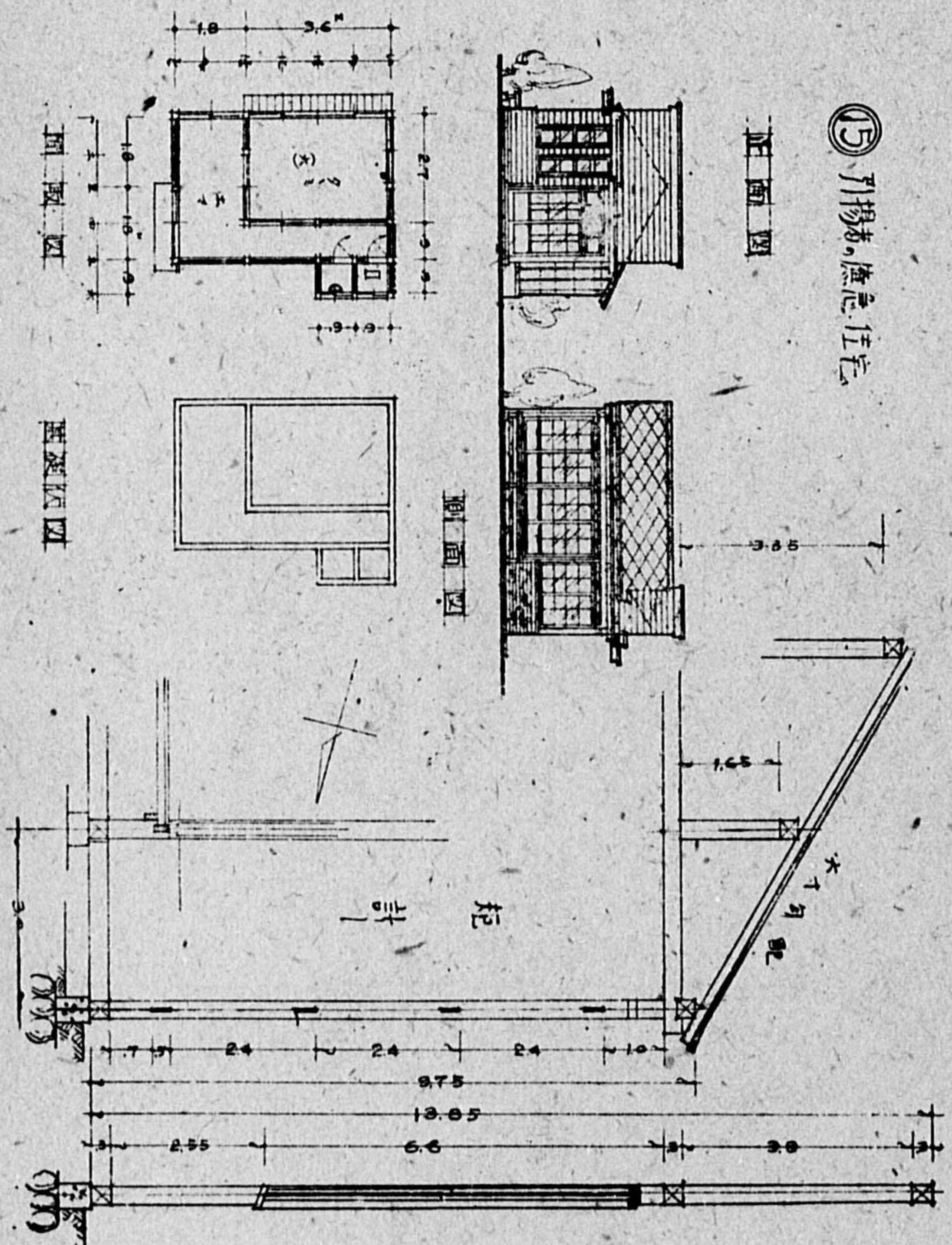
西面圖
16.625坪



第十五圖 引揚者の應急住宅

建坪 六坪五合
工費 壹萬貳千圓

引揚者で手に職のある者は別である。無職の者は差向食生活の爲めに小商賣向に土間を採入れたのである。工費を壹萬圓程度で仕上げ様としたが年末で諸物價が騰貴したので、貳千圓超過したのである。



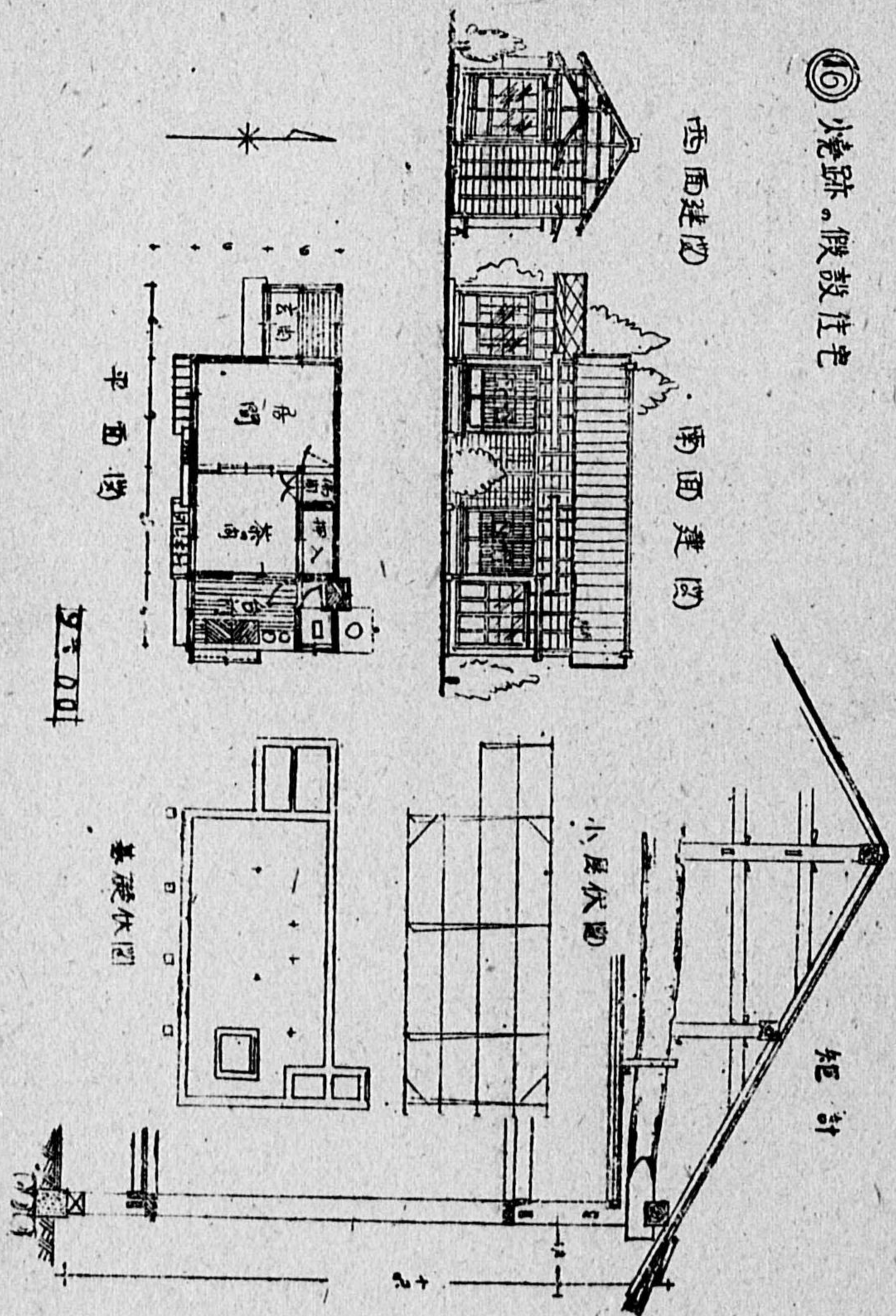
第十六圖 燒跡の假設住宅

建坪 九坪

工費 約壹萬七、八千圓（古材を多少混用）

南向東臺所旭日をあびて、榮養なつぶりの調理が自由に出来、茶の間の佛間は、上半分下半分は居間からの押入とする。
 玄関を二方口としたのは、將來増築に便じたのである。

⑩ 燒跡。假設住宅



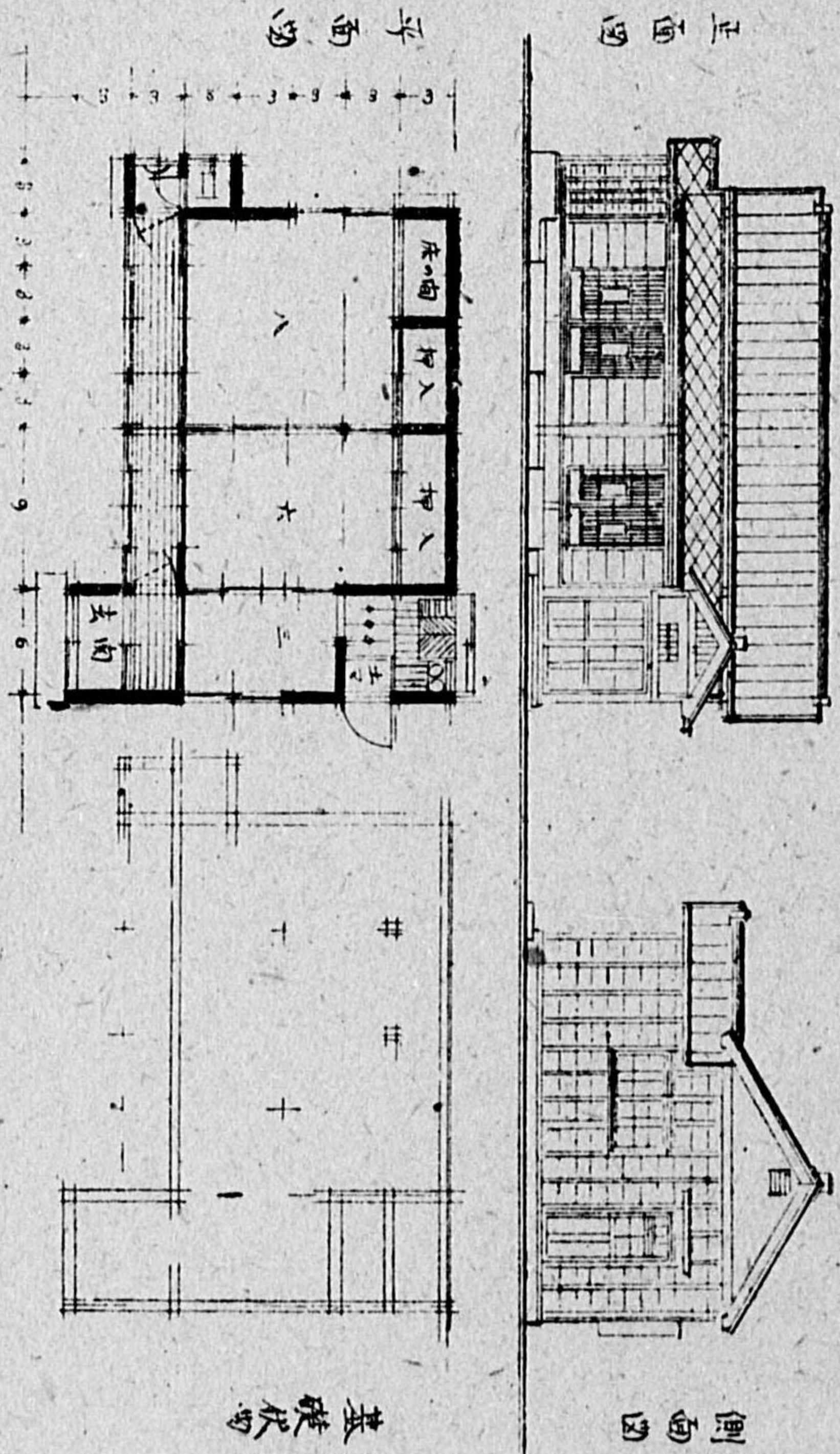
第十七圖 建坪拾四坪五合の社宅

工 費 約五萬圓

南向玄関 坪數の少ない割合に疊の部屋數のある所に本圖の特徴がある。

社宅向として喜ばれる計りでなく、普通住宅ともなる。大屋根は瓦葺椽側及兩便所屋根は亜鉛引鐵板葺としたのである。

⑩ 建坪拾四坪五合の社宅

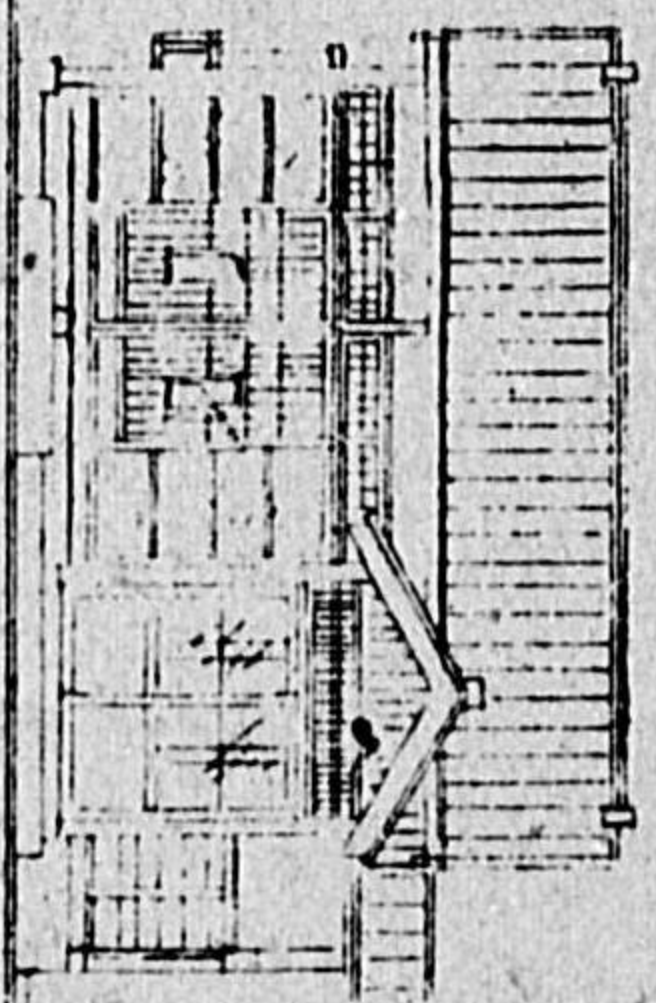


第十八圖 戦災復興の最小住宅

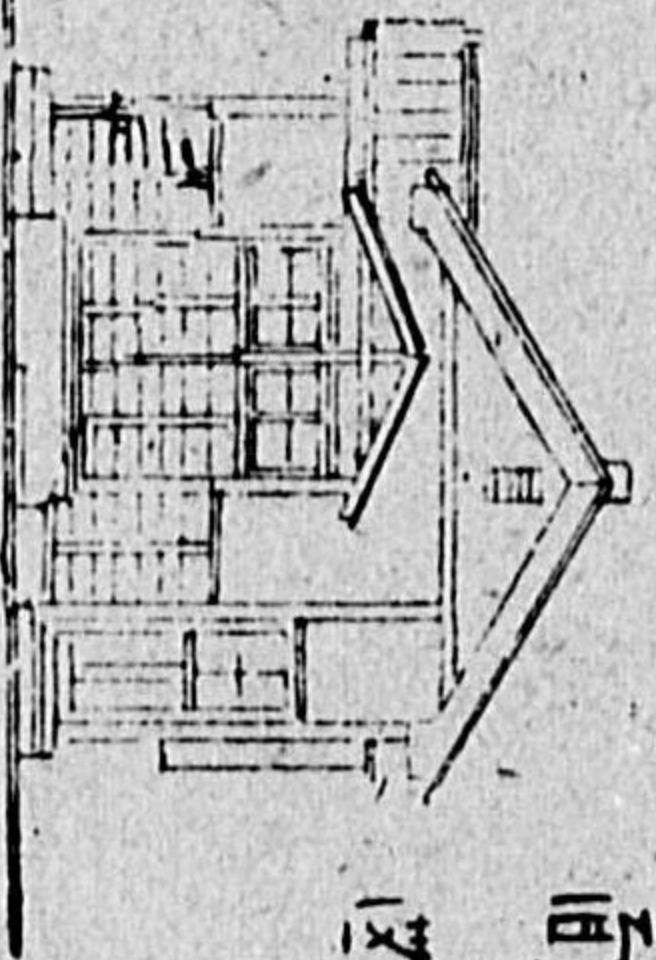
建坪 八坪
工費 約三萬圓

若夫婦向六疊一間で、椽側付茶の間兼用は物足りないが、最小限度の坪數で一戸を構へた所に味がある。

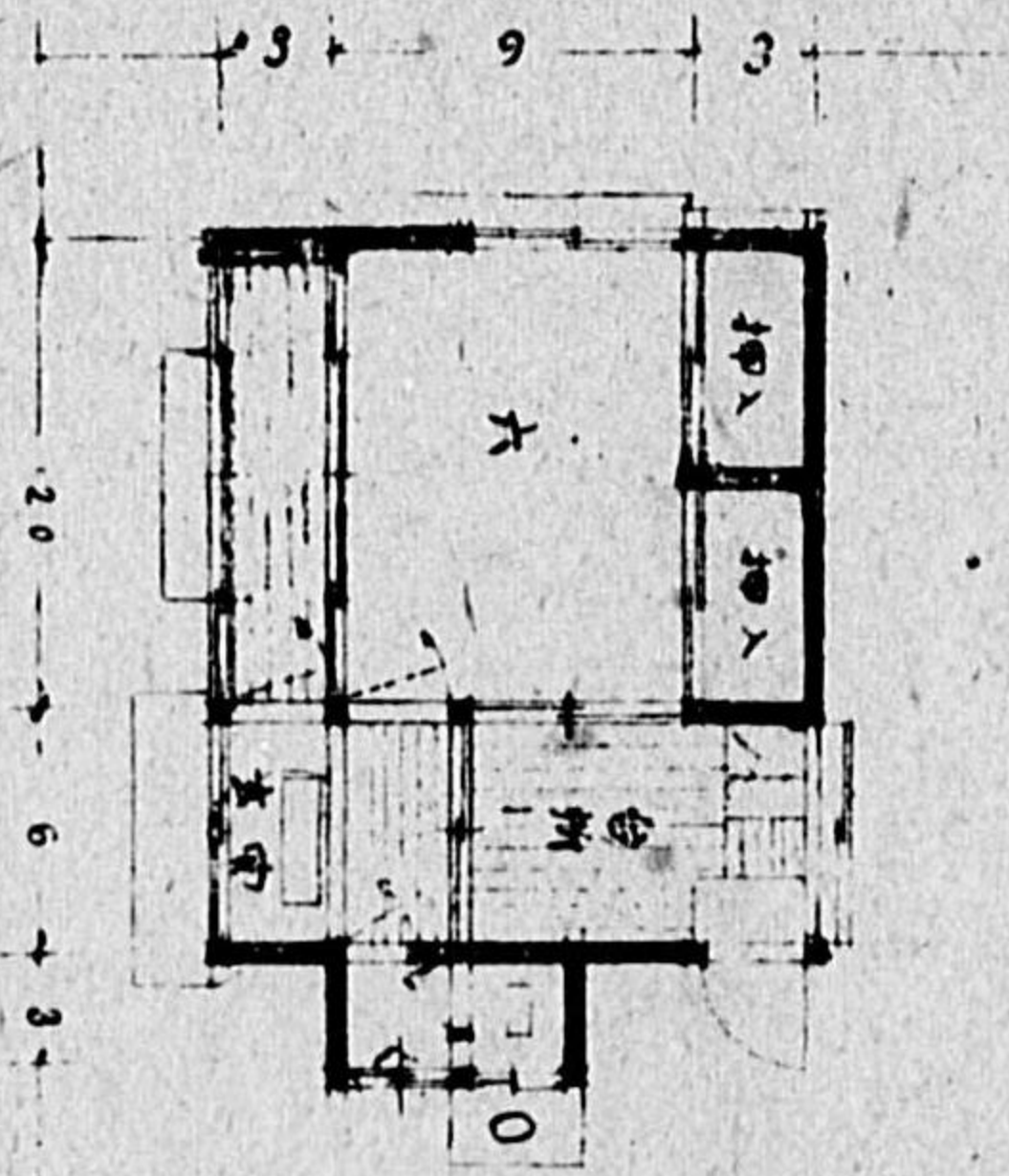
㊦ 戦災復興、最小住宅



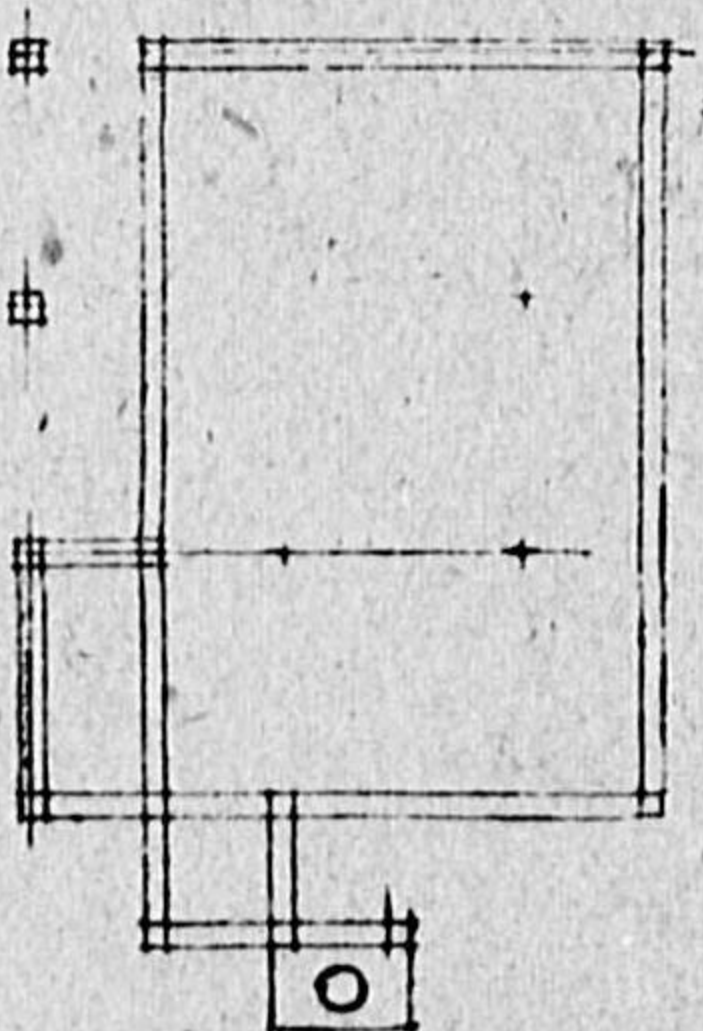
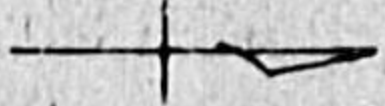
正面図



側面図



平面図



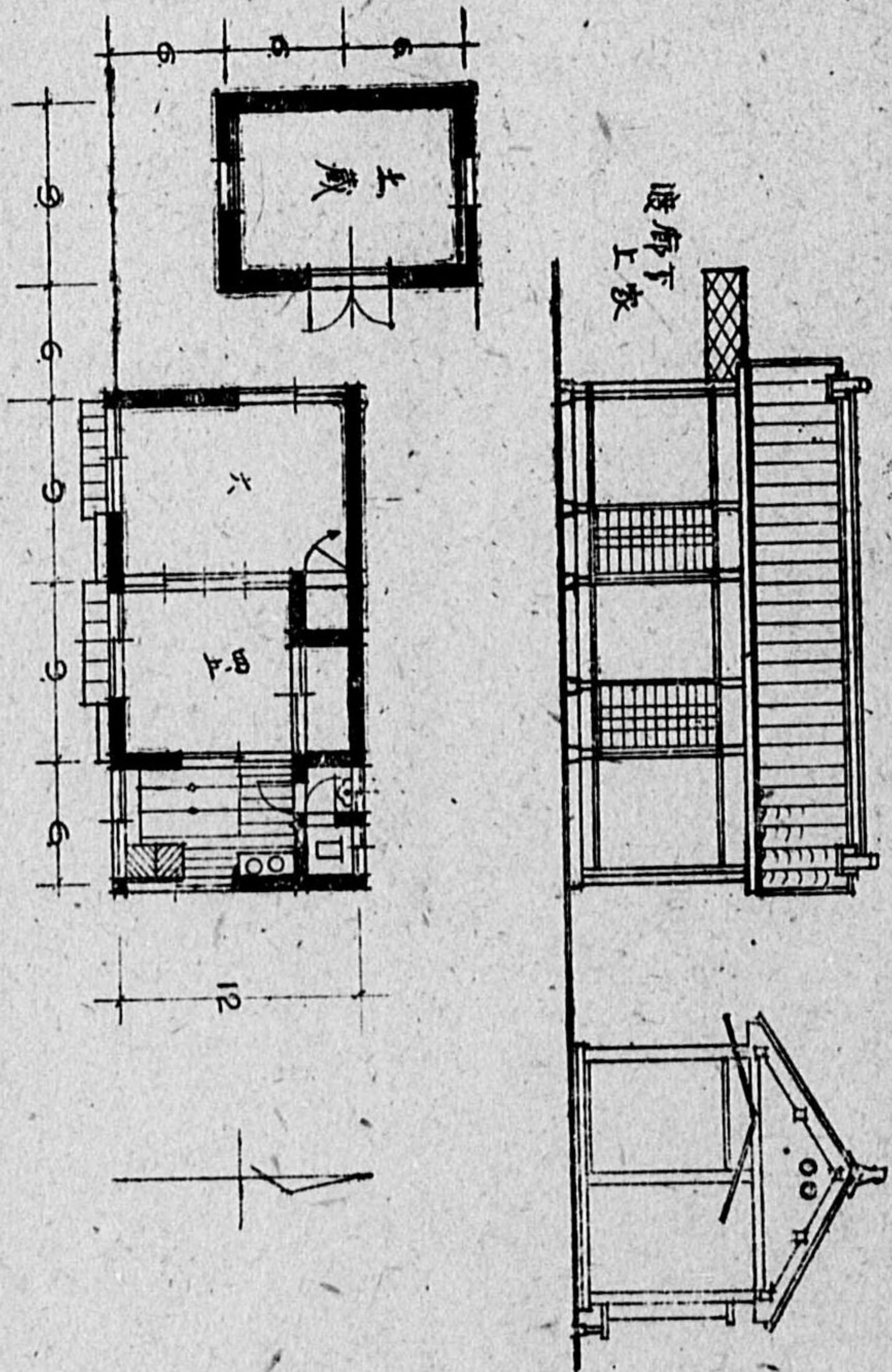
基礎伏図

第十九圖の(一) 戦災復興の小住宅

建坪 八坪
工費 約二萬圓

土蔵が焼残つたので、八坪の住宅と渡廊下で土蔵と連絡する様設計したのである。

⑨ 戦災復興小住宅



第十九圖の(二) 戦災復興の小住宅

建坪 右圖 八坪

左圖 九坪五合

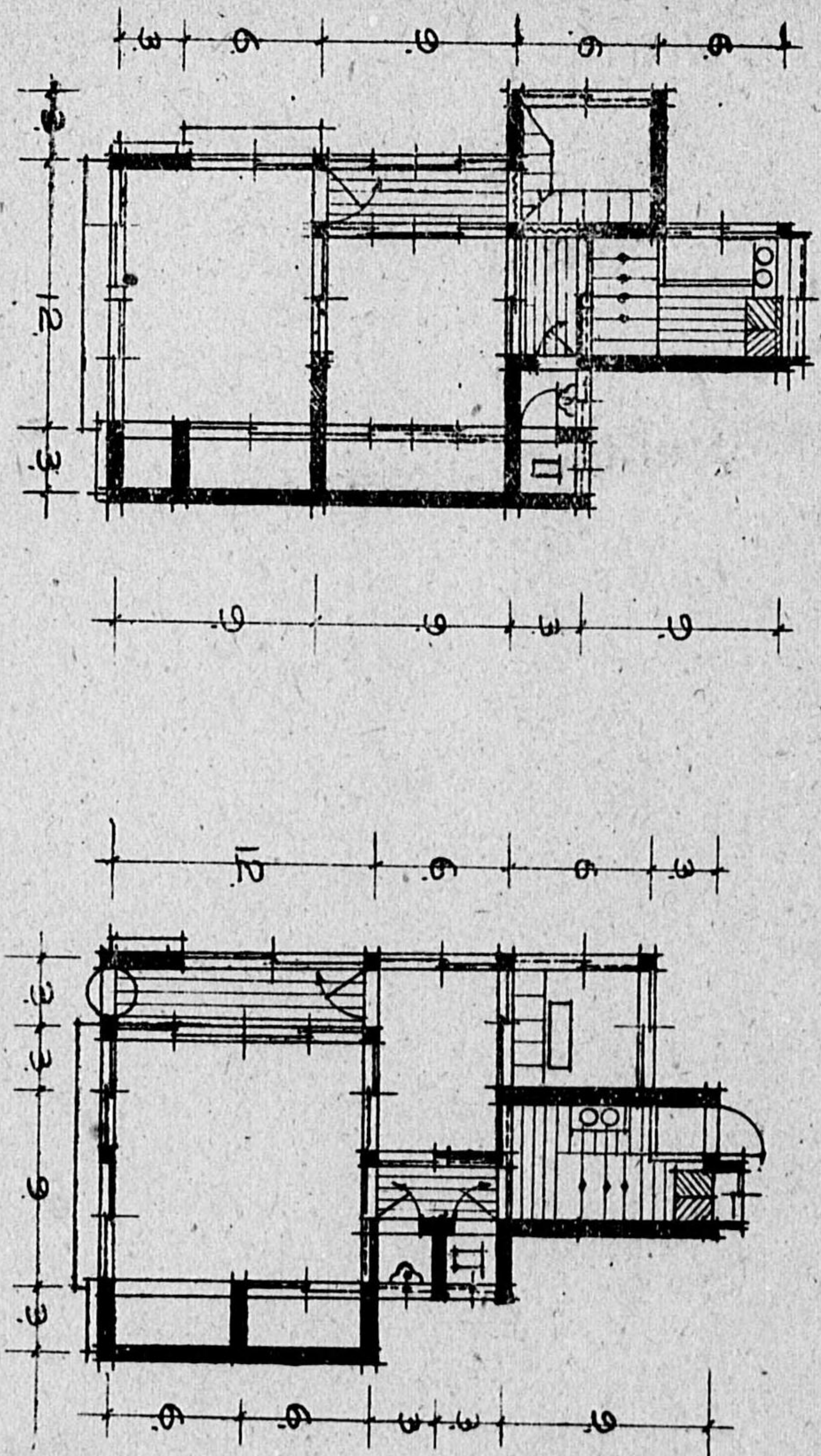
工費 約坪當四千圓とすれば、右圖は三萬二千圓

左圖は三萬八千圓

右圖は西玄關三疊の取次、八疊の御座敷

左圖は南玄關一疊半の椽側と一疊の中廊下でもつて、各室との連絡が出来るから使用上便利である。

⑫ 戦災復興小住宅



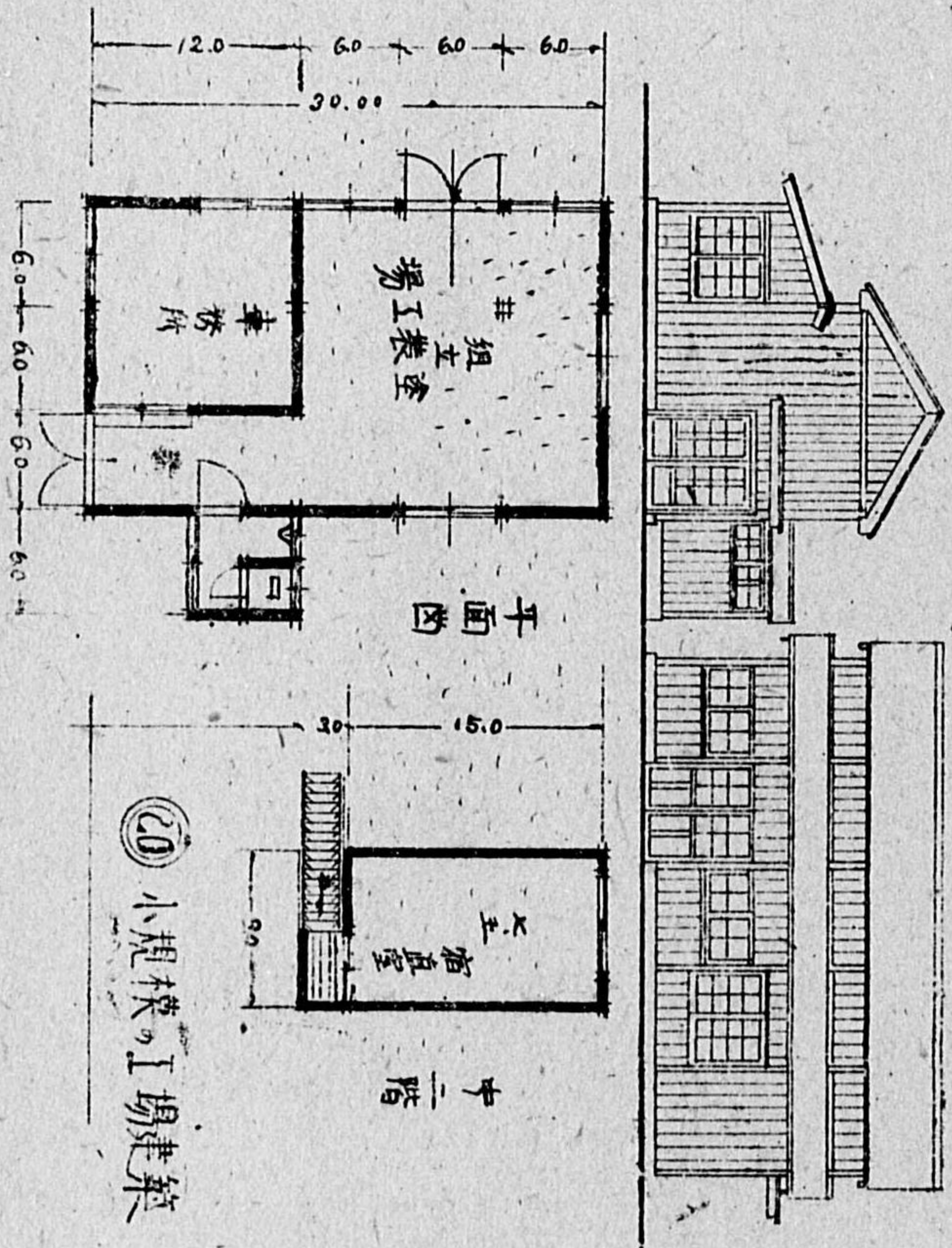
第二十圖 小規模の工場建築

建坪 十六坪
工費

坪當二千八百圓程度の極粗末な事務所付工場建築である。
中二階造りとし、七疊半の室直室を増設すれば總工費六萬圓位である。

正面図

側面図



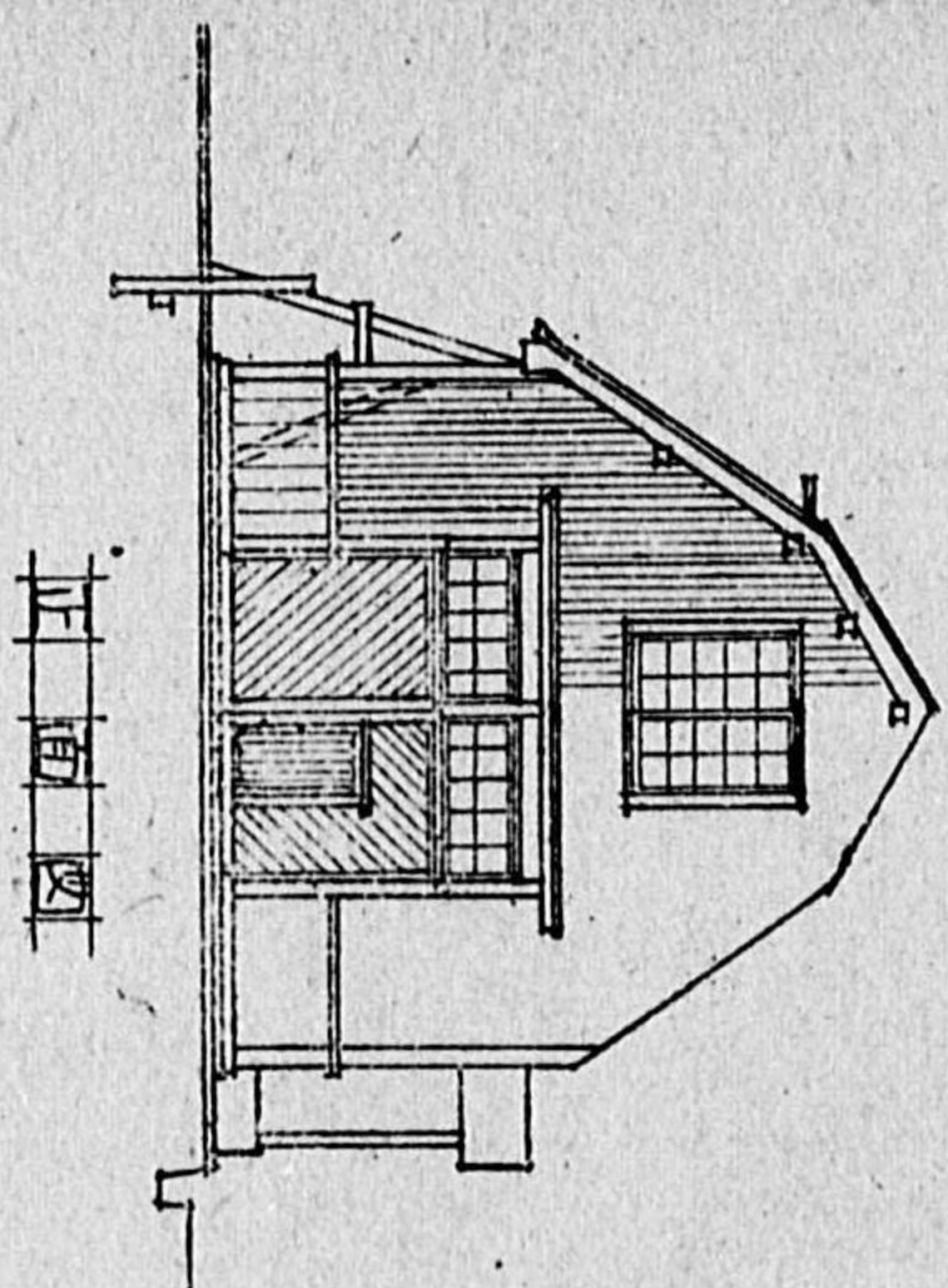
第二十一圖 マンサード屋根の工場建築

建坪 二十五坪五合、間口四間、奥行六間、下屋（兩便所）

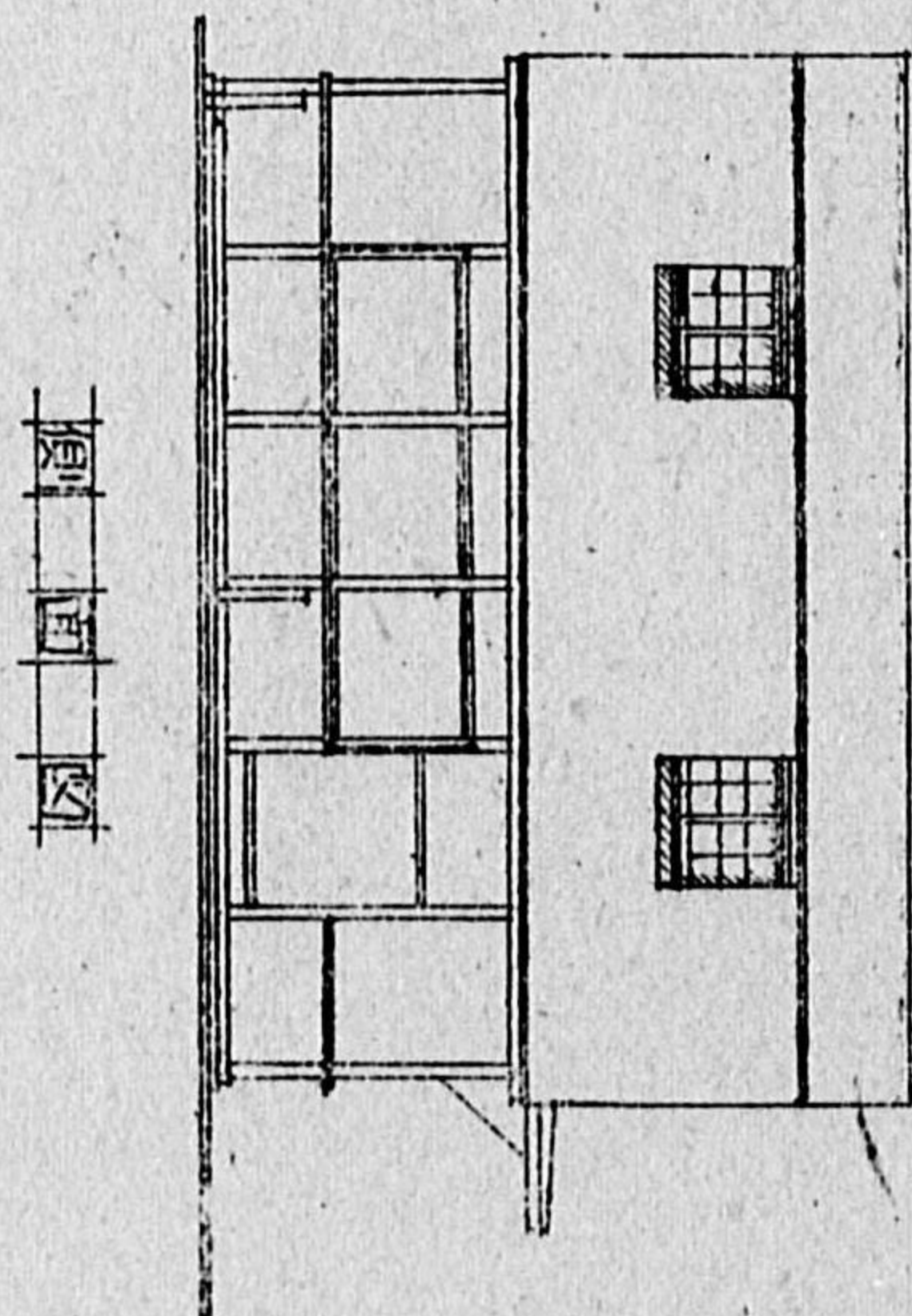
屋根裏「アチック」二間の六間拾貳坪

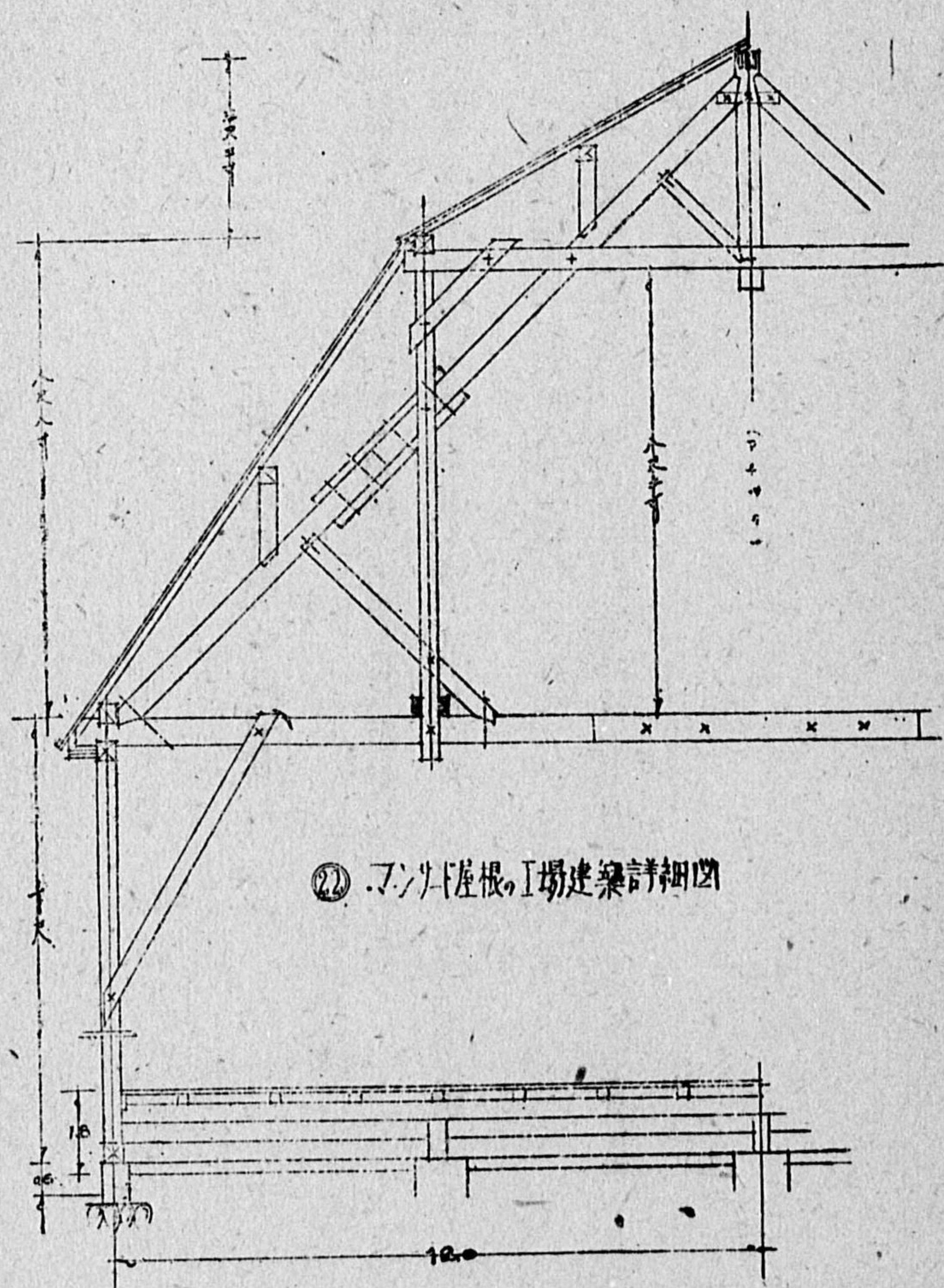
小屋組を第二十二圖の如く構らつたならば居室が出来るから居室としての利用價值がある。

工費は普通平家建或は二階建の建築に比較して、多少重むが出来上りが良く地上権の高い都會等の工場建築として理想的である。



㉑ マンサード屋根、工場建築

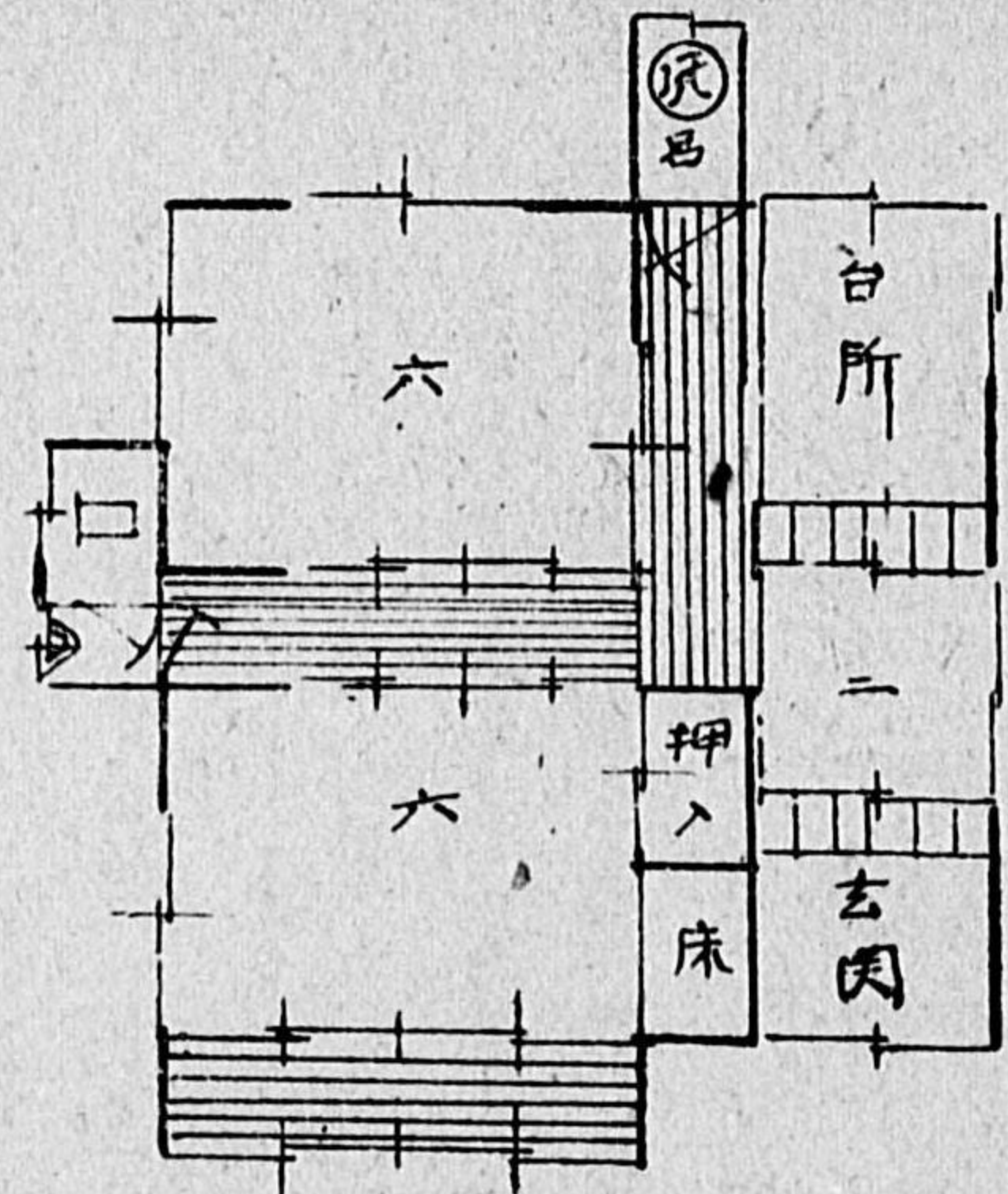




第二十二圖 マンサード屋根の工場建築詳細圖

第二十一圖の詳細圖である。
 長さ二間の要材でもつて加工組立る構造圖。
 組立には可成金具を使用して、補強する事に注意せねばならない。
 屋根は亜鉛引鐵板葺とする。

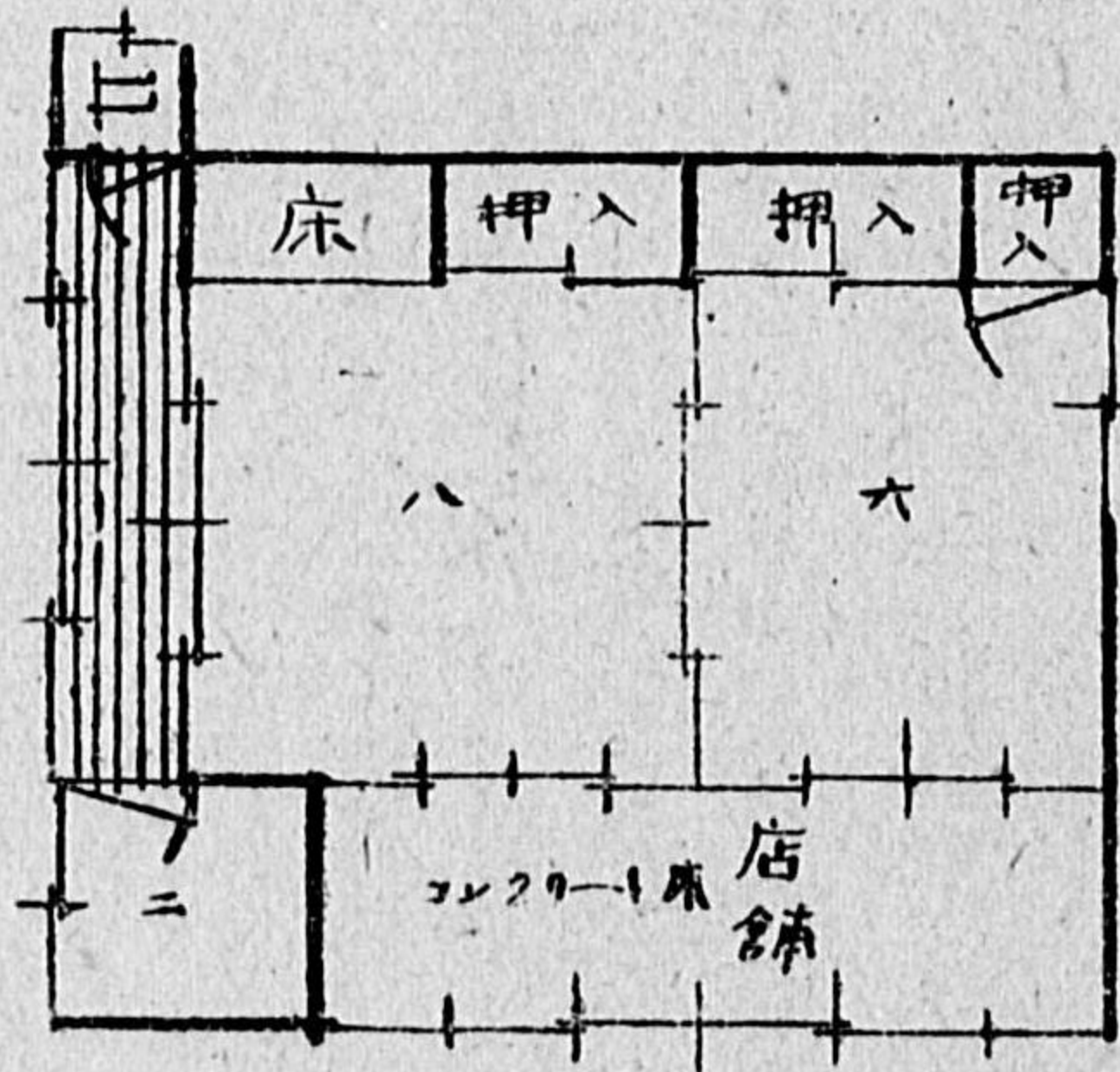
①



14.5 坪

②

小住宅の間取り 其の二



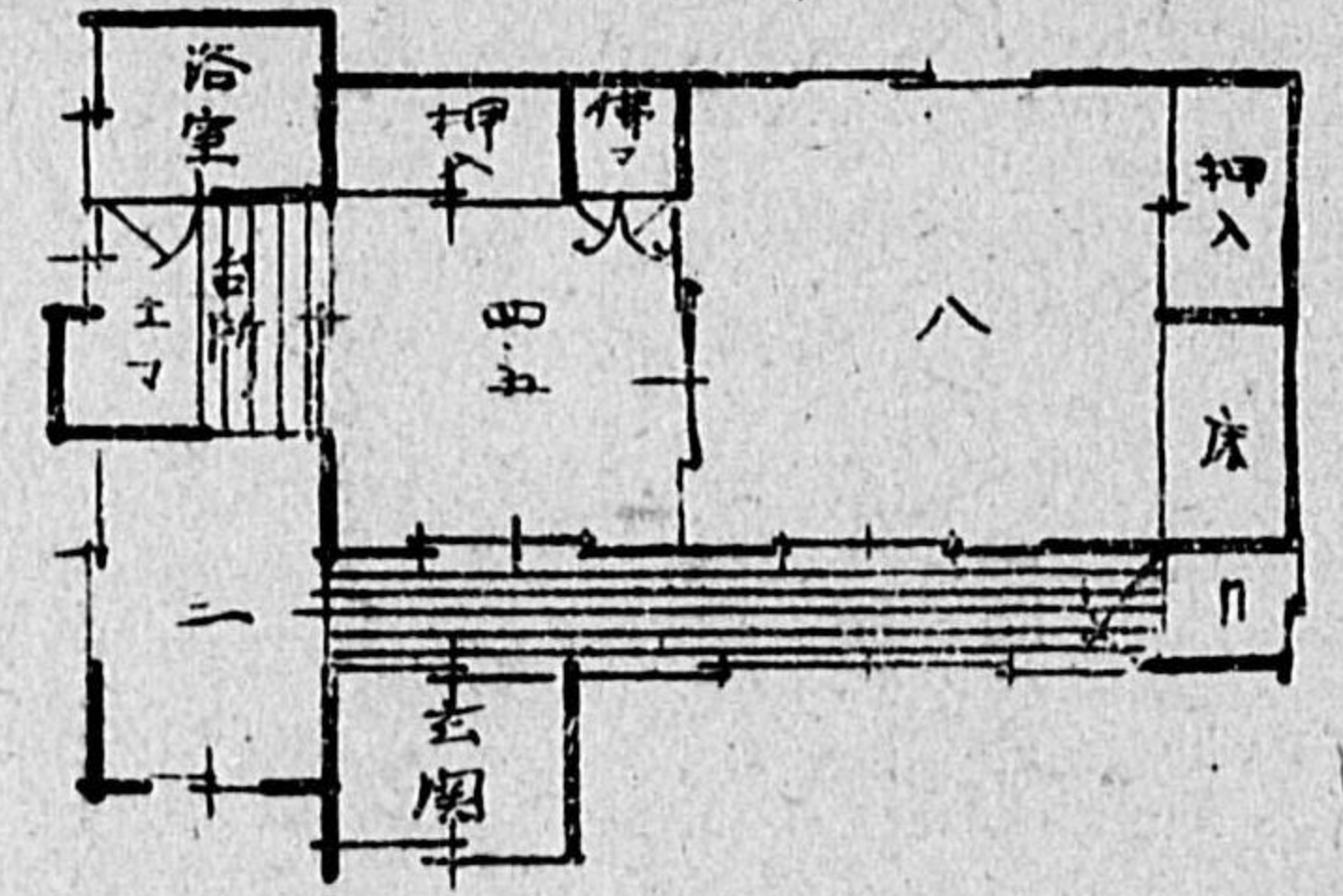
14.25 坪

②

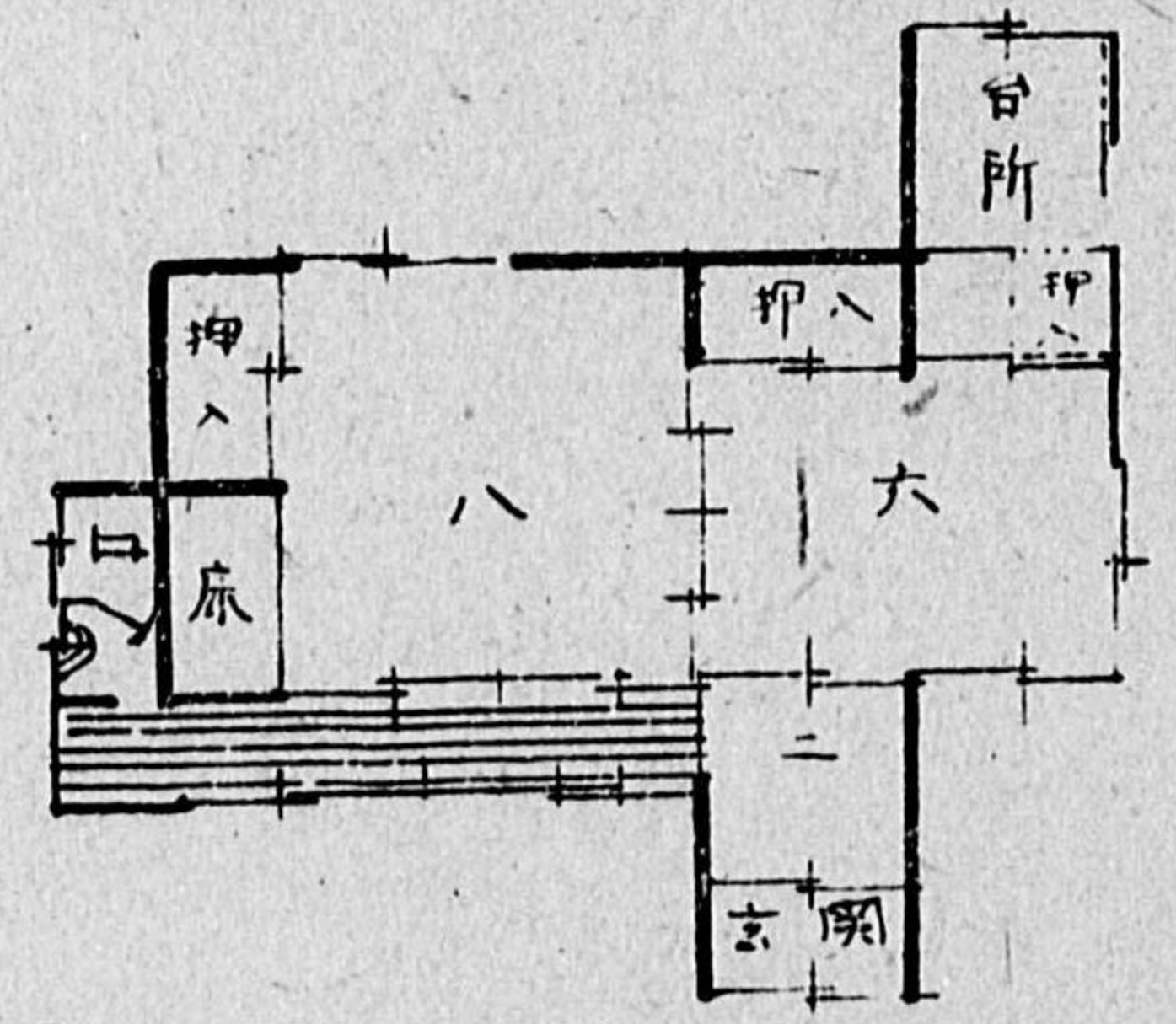
第二十三圖 小住宅の間取り其の二

- ① 別荘向ともなる各室とも別個に使用し得る所に特徴がある。
建坪十四坪五合、屋根を杉皮葺等にすれば工費は僅に六萬圓位で出来上る。
- ② 田舎道路端等で雜貨商でも兼業とする住宅に適當である。
建坪十四坪二合五勺、屋根を杉葺又は柿板「小端板」葺とすれば工費も安く五六萬圓位で出来上るのである。

②④ 小住宅の間取図 其の(=)



③ 14.00坪



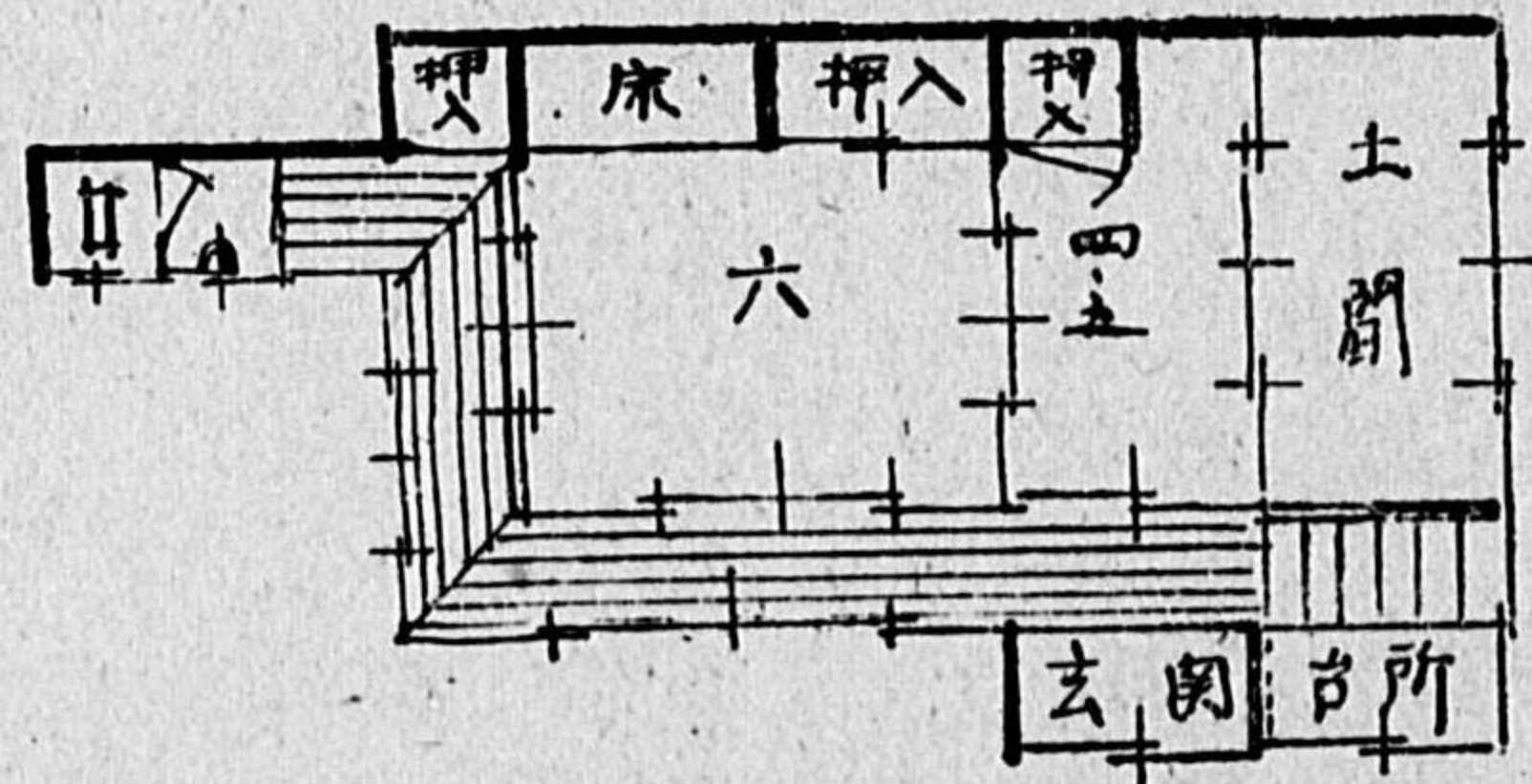
13.50坪

④

第二十四圖 小住宅の間取圖 其の(二)

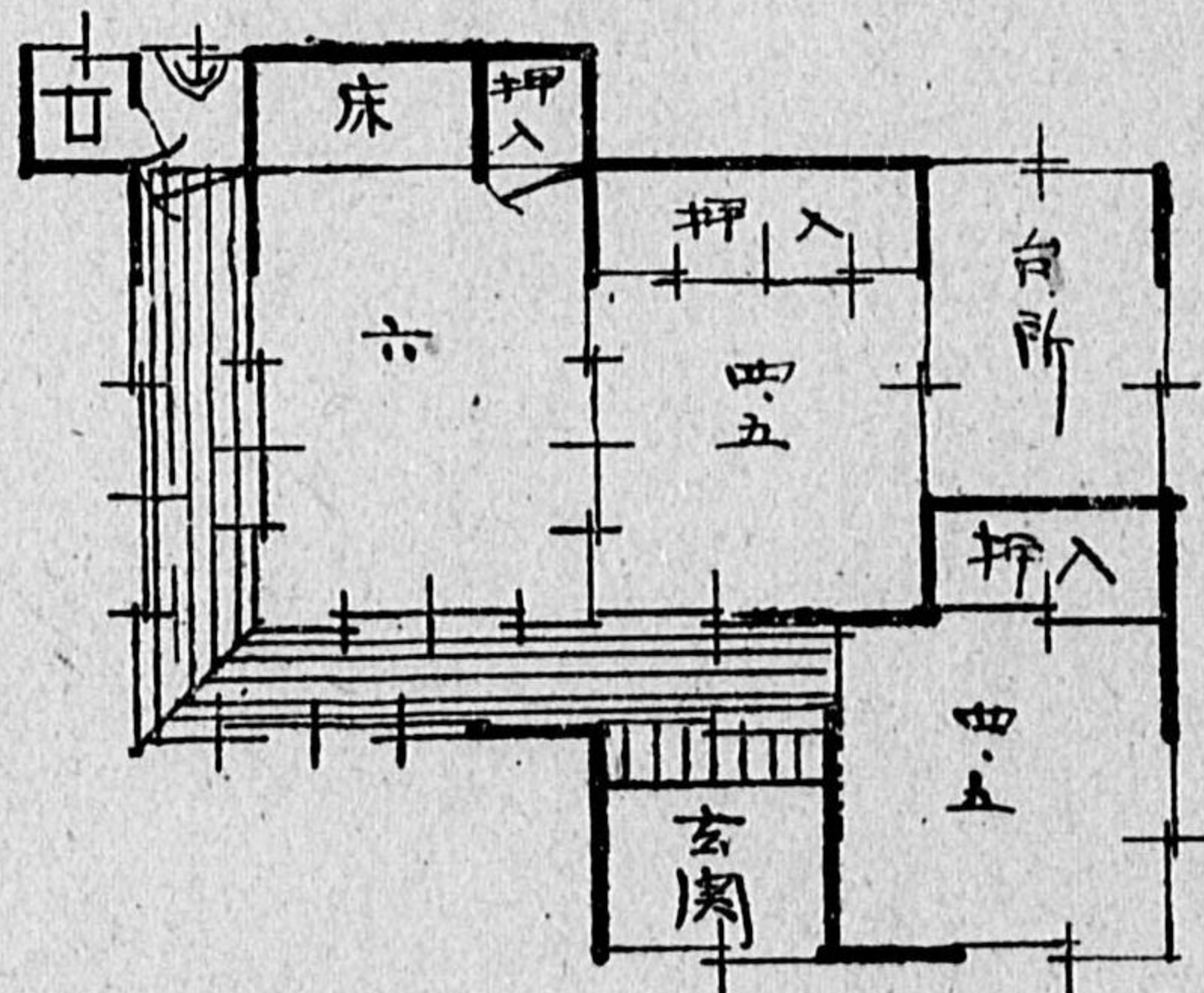
- ③ 建坪十四坪南向で坪数の少いのに浴室迄の設備があるから便利である。日光が朝から晩迄一日中當るから衛生上申し分がない慾を言へば、便所が一つであるのが物足りない工費が約七萬圓位。
 - ④ 六疊八疊の二間續であるからクラス會などに、舊友十人内外が立寄つて一杯の茶を呑むのも我家であればこと。
- 建坪十三坪五合工費は六萬圓以内でも出來上る。

⑤ 小住宅の間取図 其の(三) ⑤



13.00坪

⑥

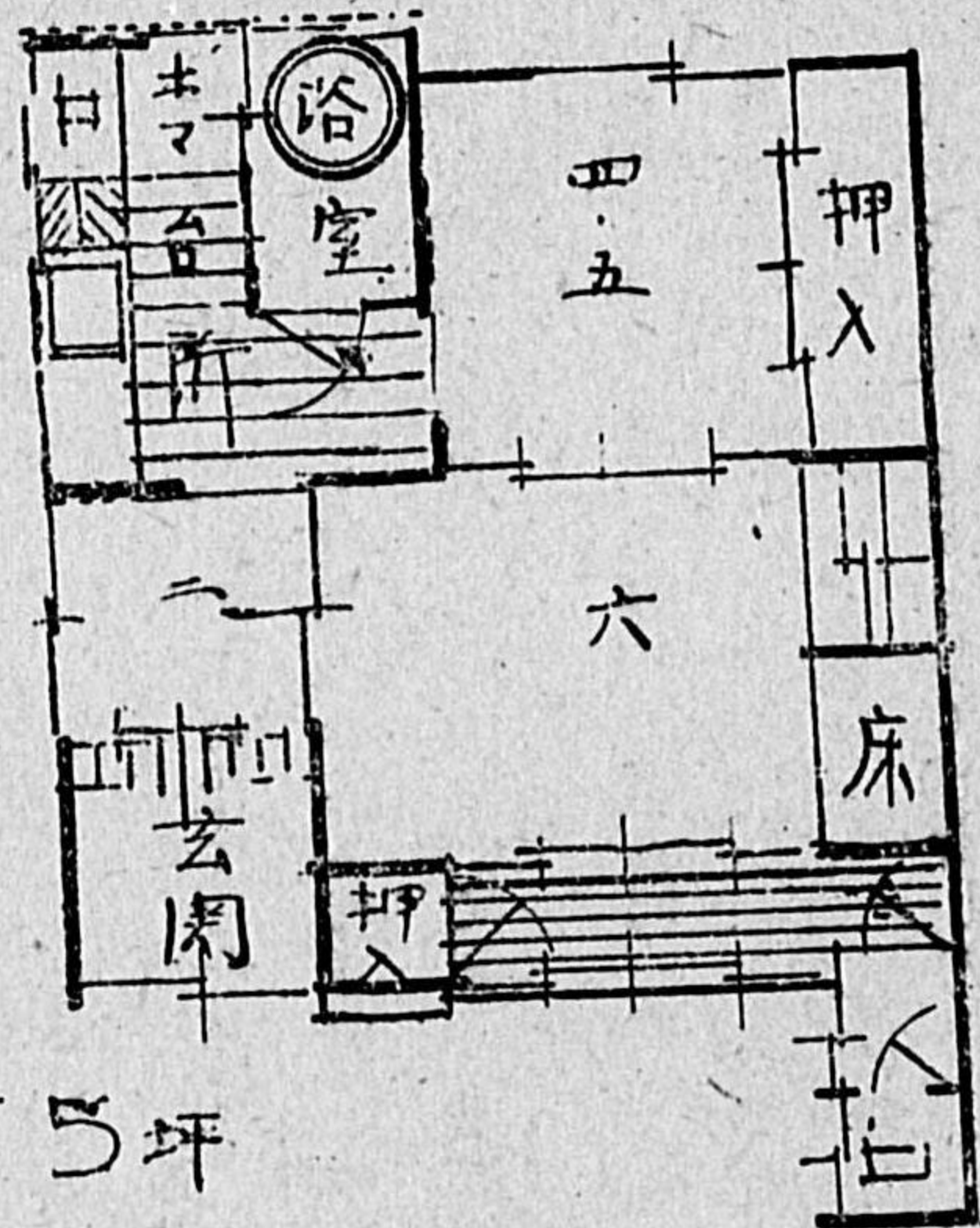


15.00坪

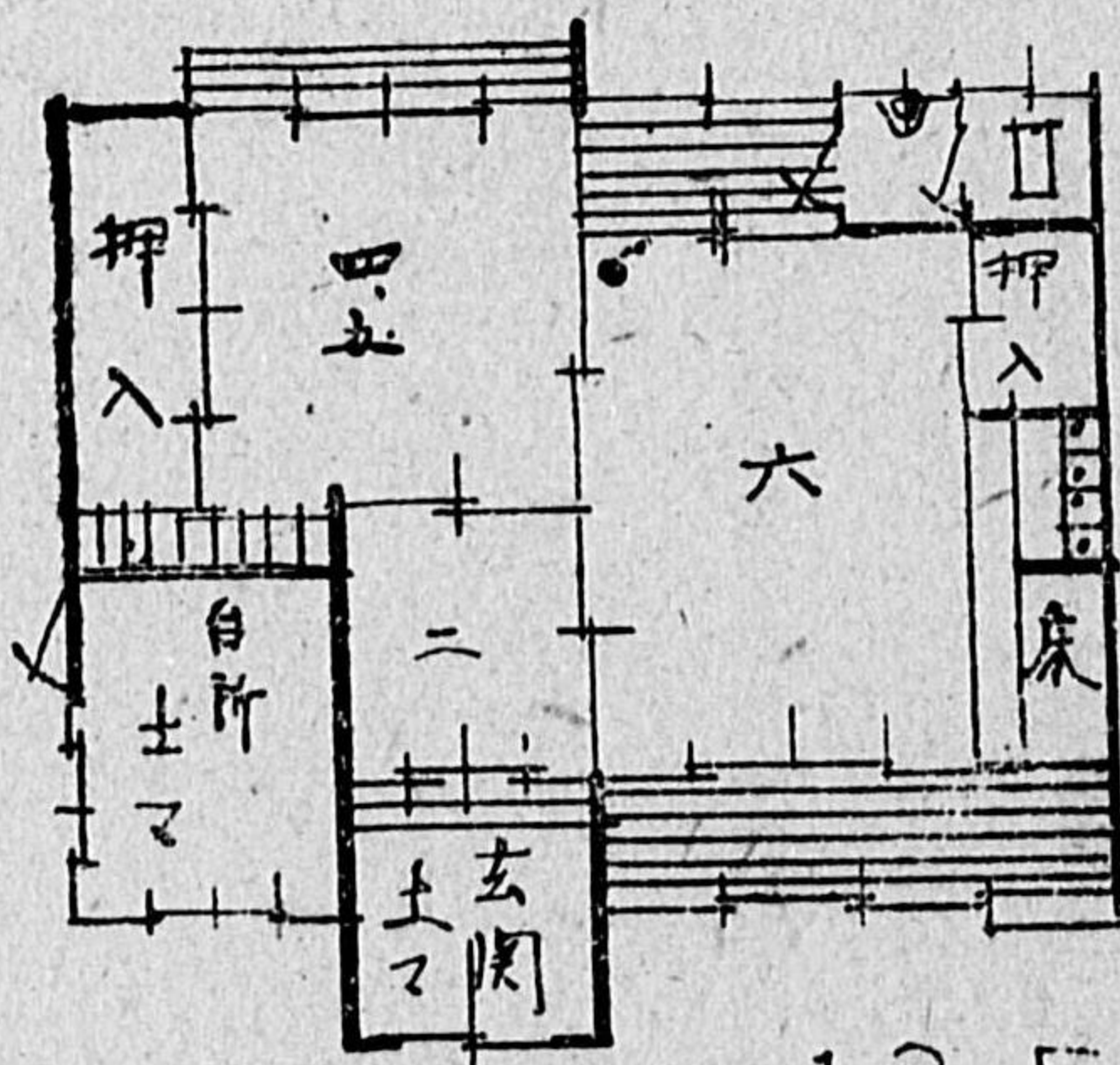
第二十五圖 小住宅の間取圖 其の(三)

- ⑤ コチンマリした郊外の小住宅である。
建坪十三坪、工費約四萬圓位、坪數の割合に廊下を贅澤に採つて居る。
- ⑥ 調和の採れた間取りである。郊外向の住宅。
建坪十五坪制限内の建築であるから、一般に喜ばれる小住宅である。
工費約六萬圓内外である。

②⑥ 小住宅の間取図 其の(四)



12.75坪



12.50坪

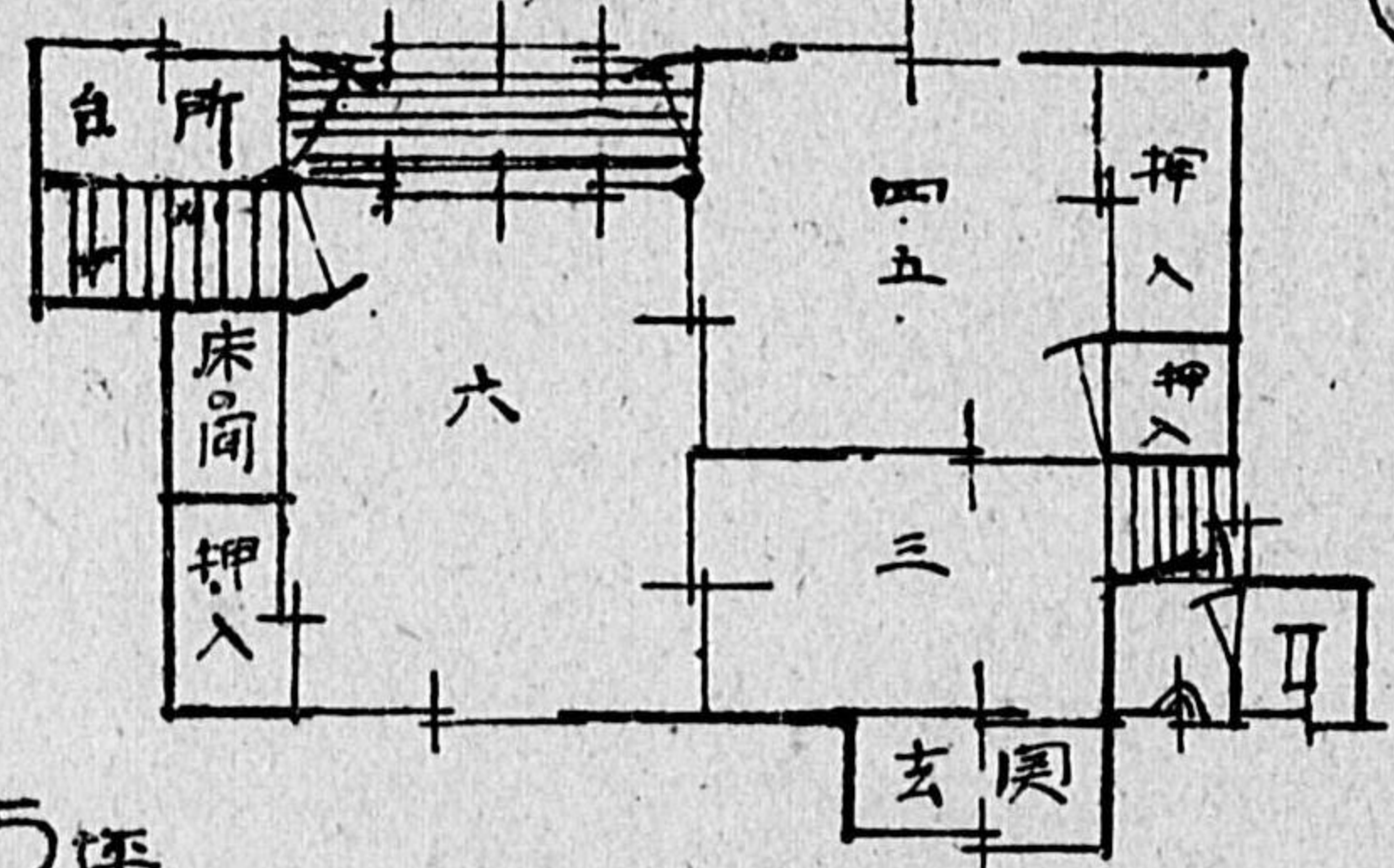
第二十六圖 小住宅の間取り圖 (其の四)

⑦ 夫婦に子供が一人か二人、楽しい我が家として理想である。
建坪十二坪七合五勺、工費が約五萬圓程度。

⑧ 東向の玄關社宅向である。

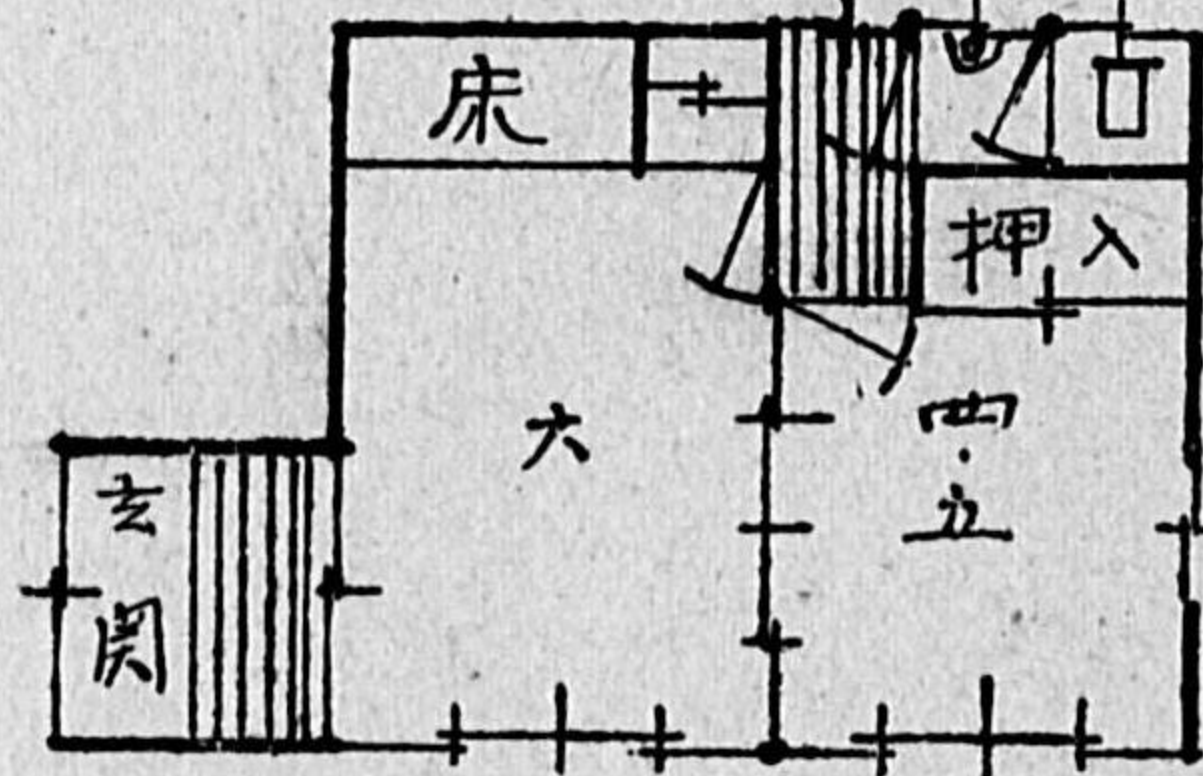
建坪十二坪五合、向つて本圖と反對に間取りをするならば、二戸續の貸家が出来
る。
工費一戸當り五萬圓内外で出来る。

②⑦ 小住宅の間取図 其の(五) ⑨



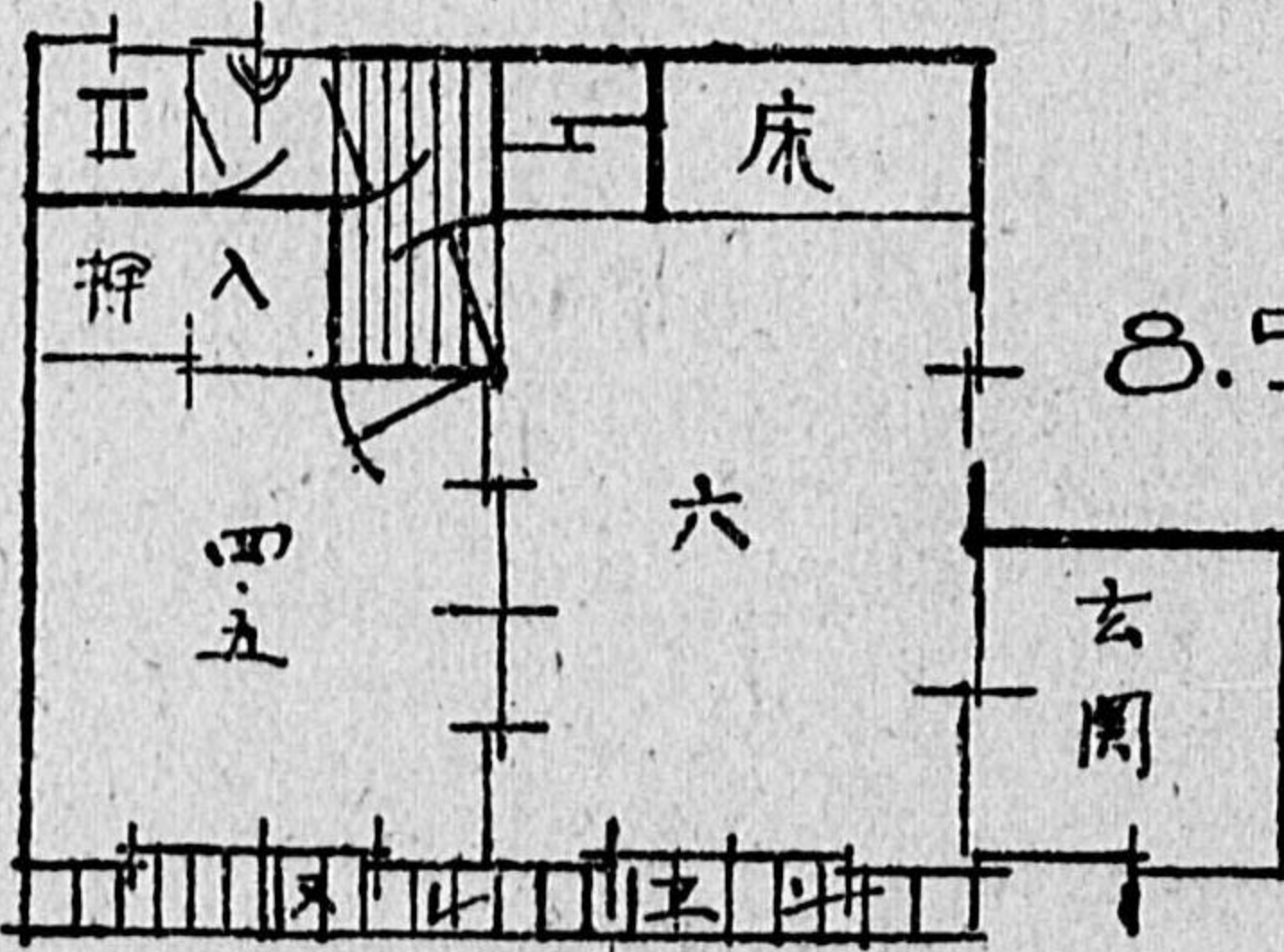
11.25坪

⑩



8.33坪

⑪

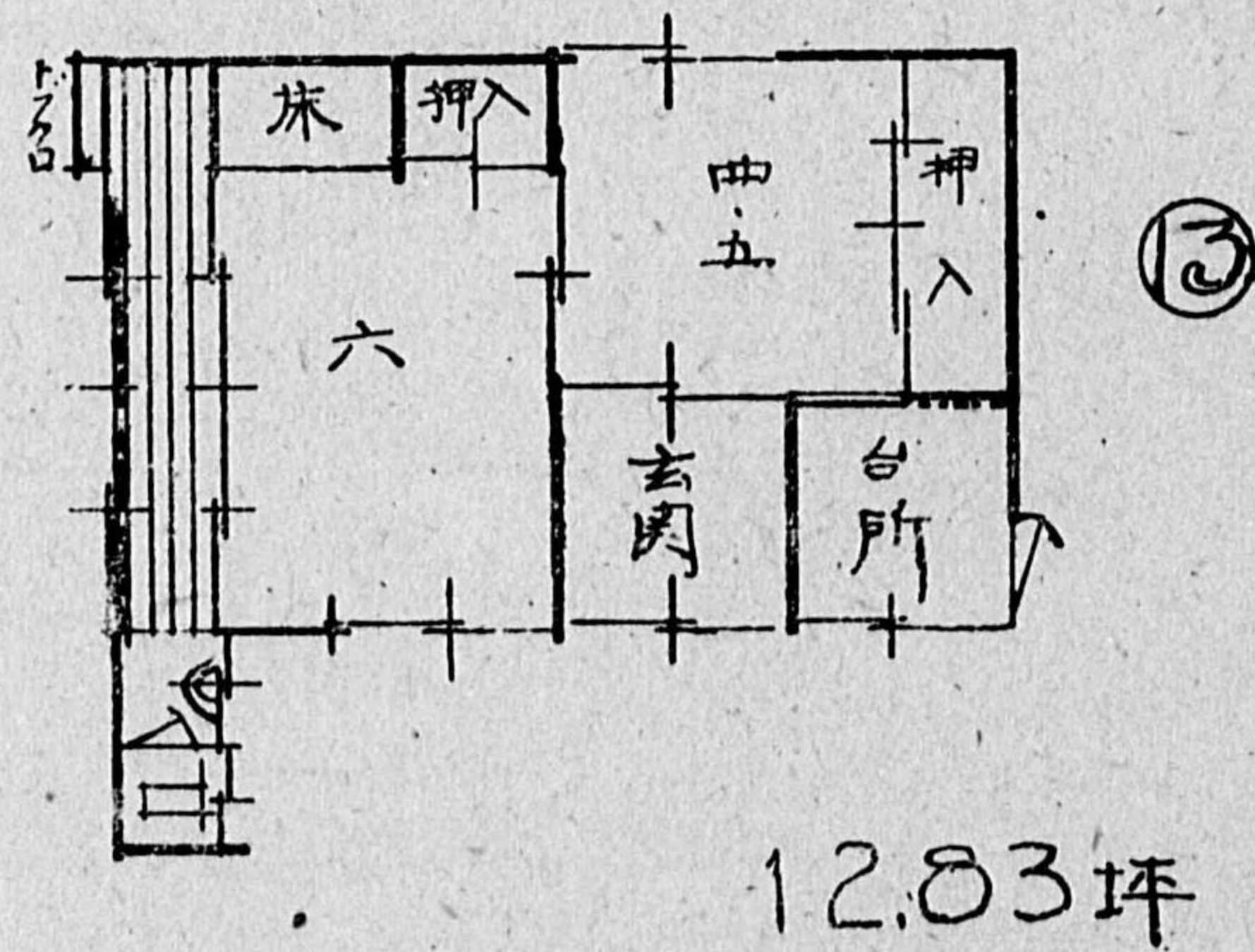
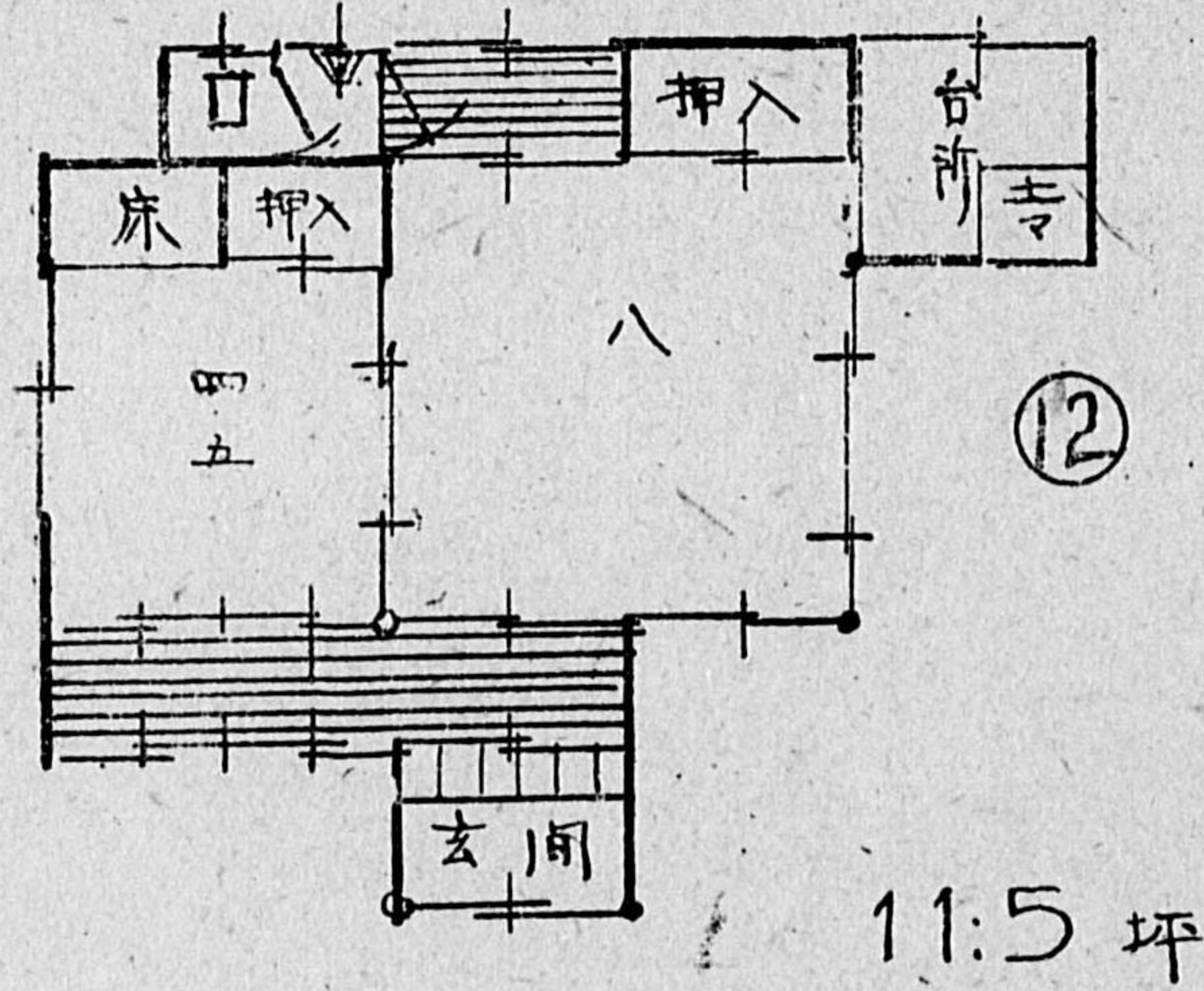


8.5坪

第二十七圖 小住宅の間取圖 其の(五)

- ⑨ 北向に玄關、道路の都合上やむを得ないが、臺所は東南向であるから、主婦の早起には健康上からも調理上からも衛生的である。屋根を亜鉛引鐵板葺とすれば、建築費も安く約四萬圓位で出來上るのである。建坪八坪三合三勺離れて老人向、建築費が雅なものとして坪當り七八千圓約六萬圓内外で出來上る。
- ⑩ 前者と同様、離家として設計したものである。戦災の爲め或は外地で傷病者となり、今は楽しい我家に歸り、十二分に静養が出來、再建日本の爲めに心身を休養する住宅向として最適の住宅である。
- ⑪ 建坪八坪三合三勺離れて老人向、建築費が雅なものとして坪當り七八千圓約六萬圓内外で出來上る。

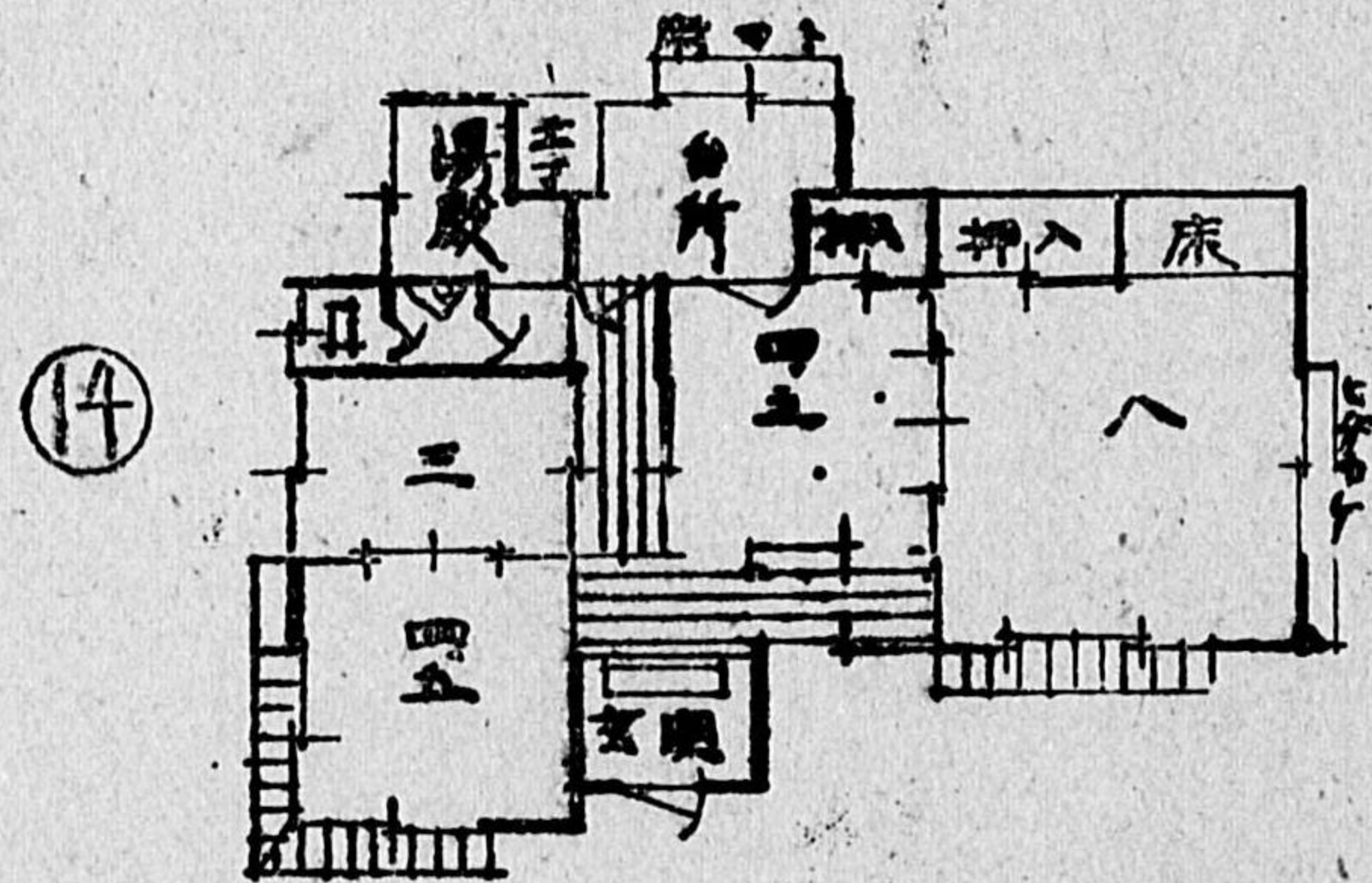
②⑧ 小住宅の間取図 其の(六)



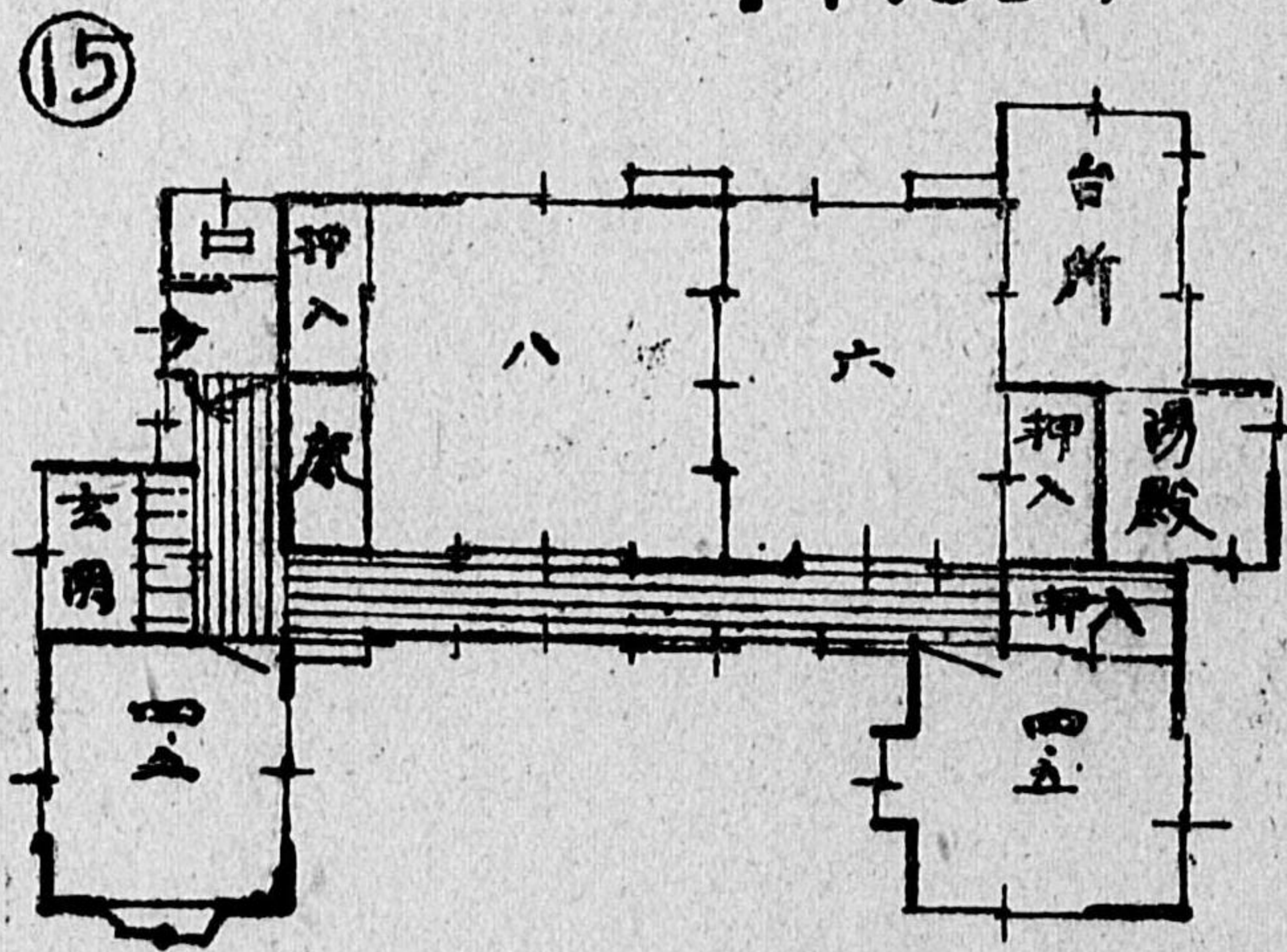
第二十八圖 小住宅の間取圖 其の(六)

- ⑫ 八疊を中心とした設計、狭くても我家と思へば楽しい、建坪十一坪五合、日本瓦屋根外部日本下見板張として建築費約四萬五千圓程度で出来る。
- ⑬ 南向玄関を中央に取り、西側に椽側、中廊下を廢した所に妙味と便利な點に特徴がある。

②⑨ 小住宅の間取図 其の(七)



17.00坪



20.75坪

第二十九圖 小住宅の間取圖 其の(七)

14

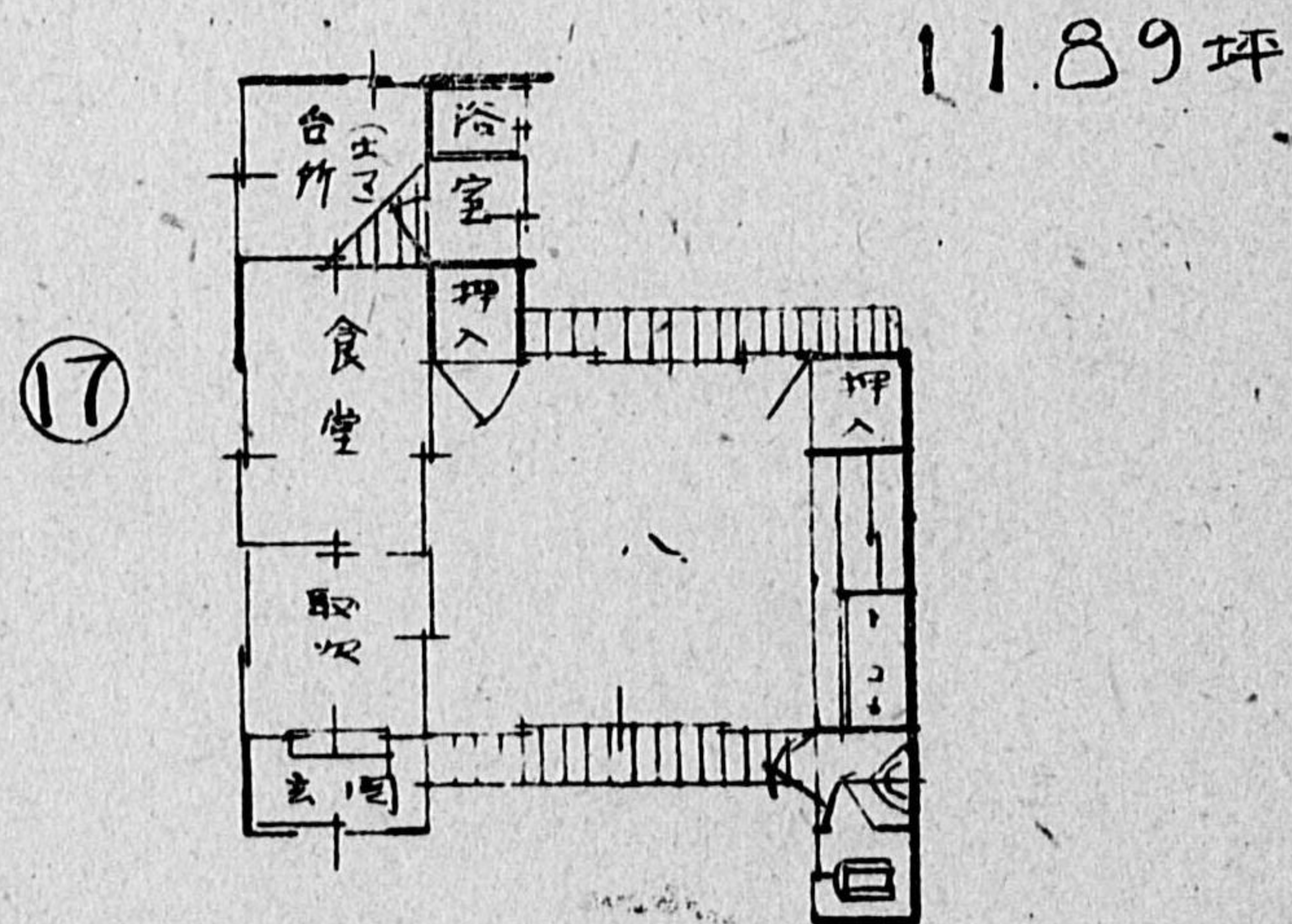
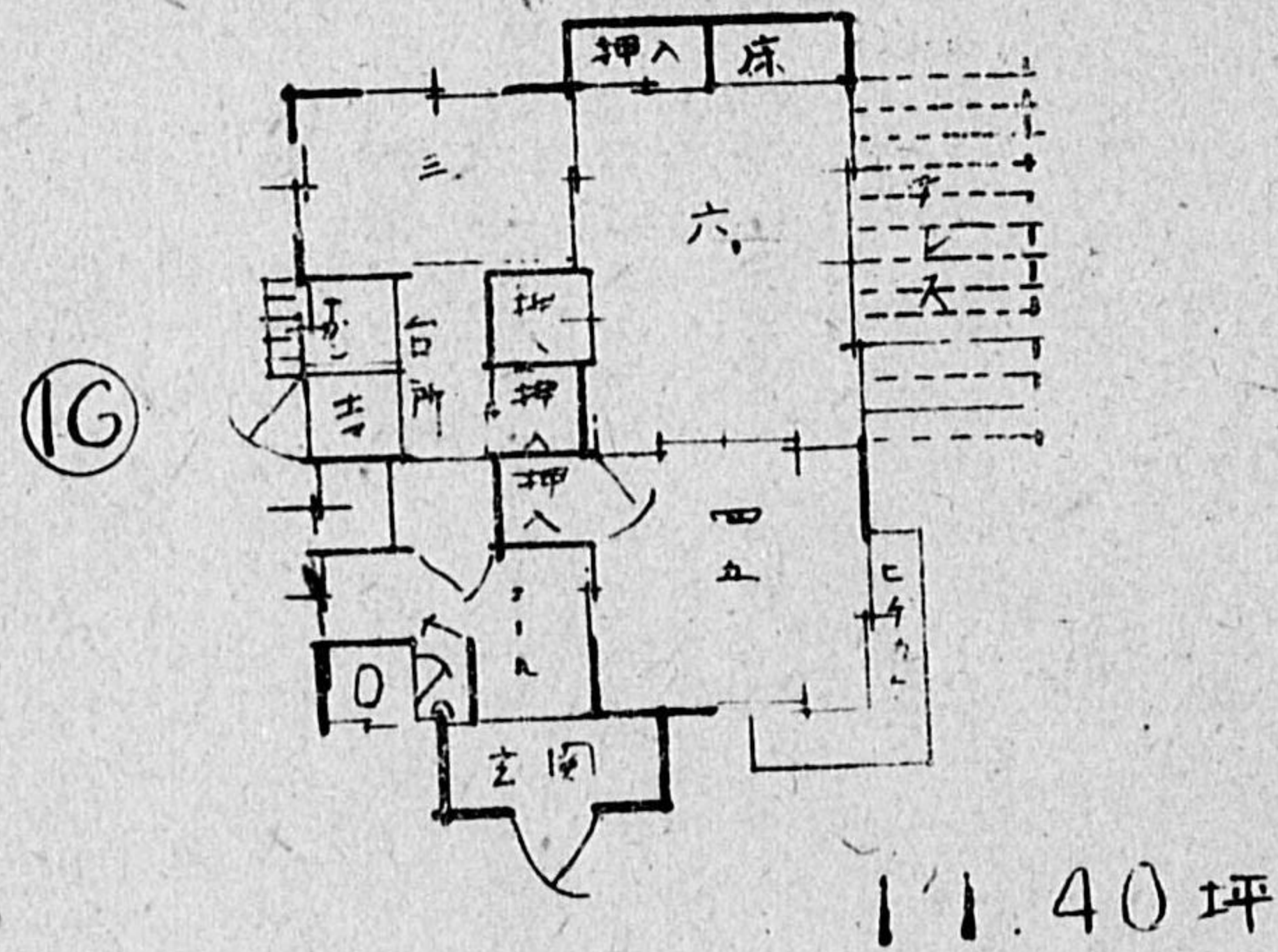
南玄関八疊の客間は東南に面し、最小限度の廊下で各室への聯絡の良い様に設計した所に苦心と妙味がある。

建坪十七坪、建築費約七萬六千五百圓、屋根瓦葺。

15

玄関西向とし玄関脇の四疊半を洋風とし、奥の四疊半は東西南共に彩光に便にしたのであるから、子供の勉強室又は老人向室として衛生的である。建坪二十坪七合五勺建築費約拾萬參千七百五十圓。

③⑩ 小住宅の間取図 其の(八)



第三十圖 小住宅の間取圖 其の(八)

⑩ 純洋風に間取りをしたのである。玄関を西向とし六疊の前のテレスは藤棚又はブドー棚として眞夏の日光の直射をさへぎる構へとしたのである。夫婦と子供一人又は二人位の家庭向として理想である。何んと愉快さうな建築ではありませんか。

建坪十一坪四合。

建築費、洋風の造りとして約七萬九千八百圓位。

⑪ 建坪十一坪八合九勺

坪數の少ない割合に使勝手の良い小人数向(夫婦二人暮し?)に貸家にもしたならば今日の様に住宅不足の折であるが世人に喜ばれる事であらう。建築費、約四萬七千五百圓位。

第三十一圖の(一) 六疊を主とした小住宅

5圖 建坪 九坪五合

建築費 約參萬八千圓位

東向とし廣椽造りとし一寸した應接室を兼ねた、サンルーム造りの所に妙味がある。

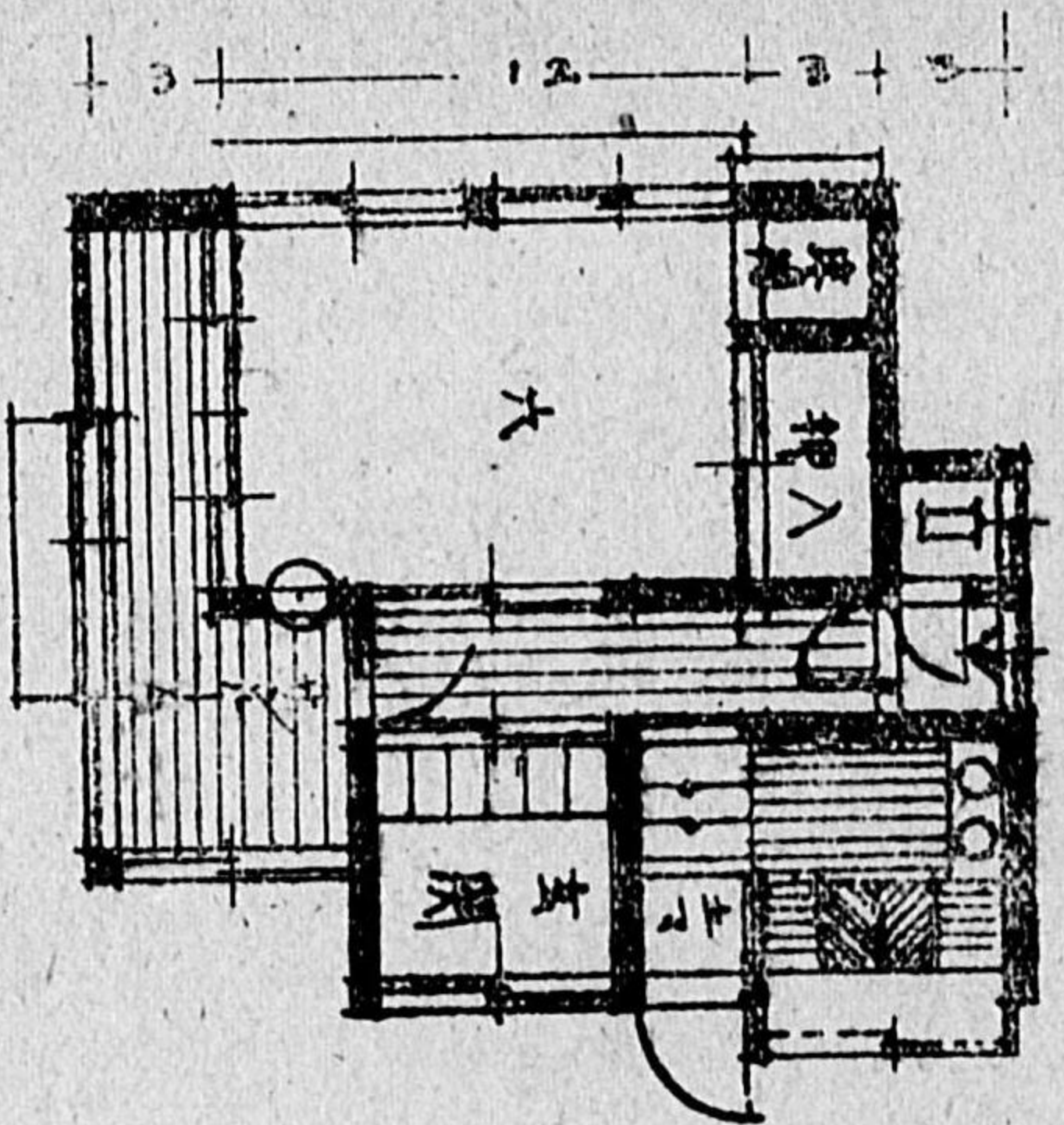
6圖 建坪 拾壹坪二合五勺

建築費 約四萬五千圓位

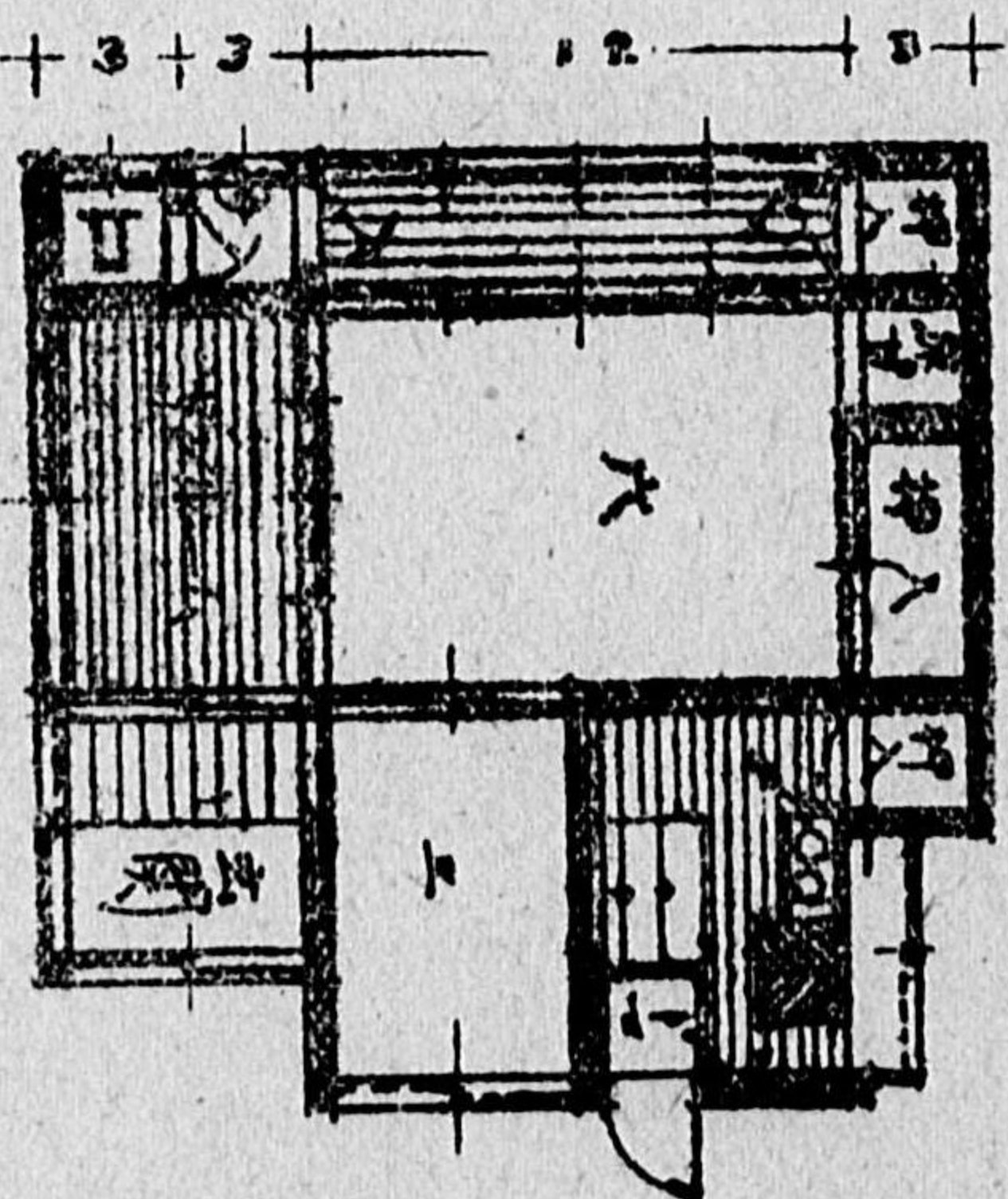
東向の玄關の造りとし、南向の三疊のサンルームは虚弱な子供の爲め、或は老人のひなたぼつこに最も良いのである。

六疊を主とした小住宅

31.1



31.1 9.501



31.2 11.224

第三十一圖の(二) 六疊を主とした小住宅

は圖 建坪 八 坪

建築費 約參萬圓

南向の玄關、敷地の關係上臺所の採光窓を北向としたのであるが、東側に窓を造れば、使ひ勝手が良いのである。

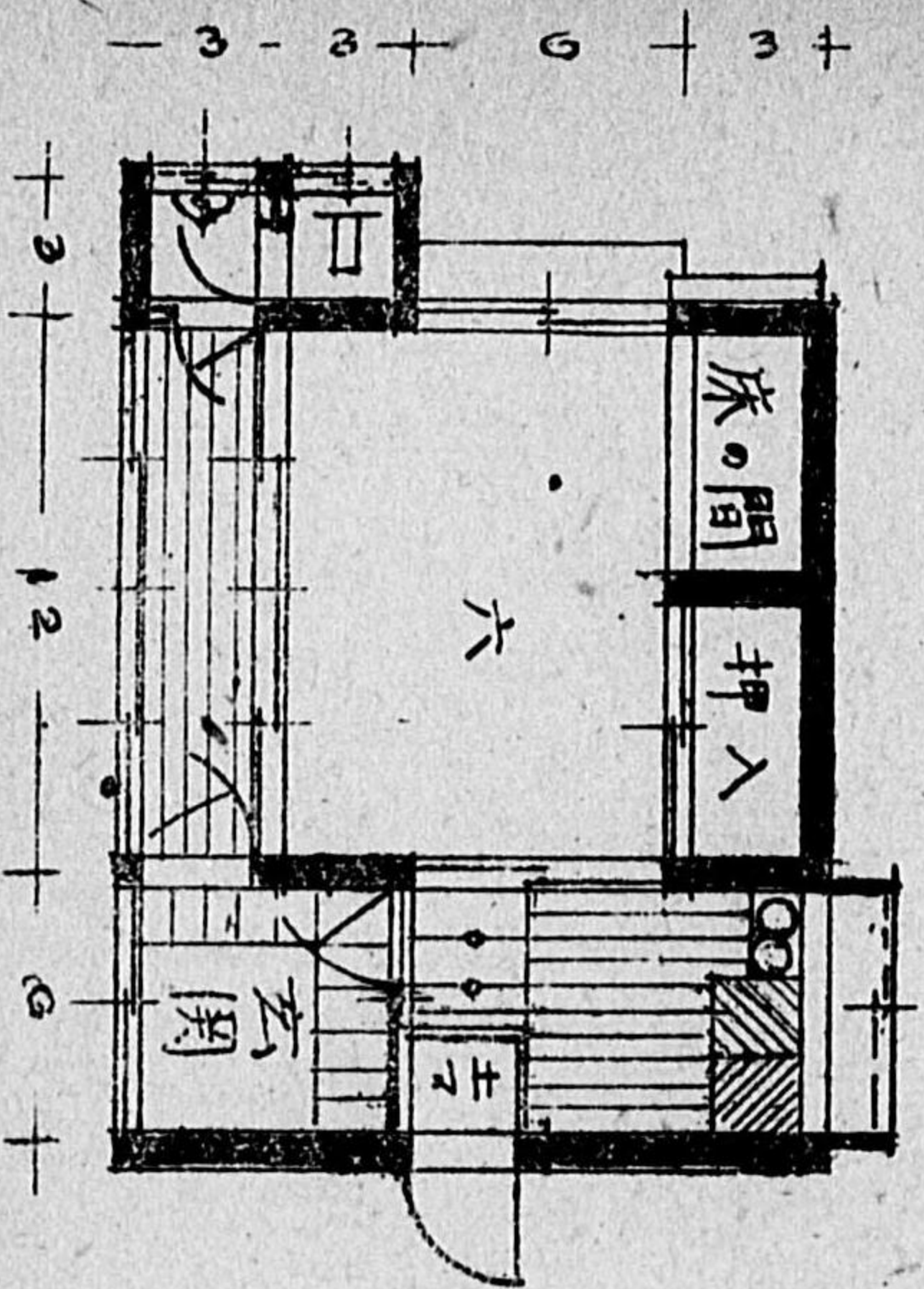
に圖 建坪 八 坪

建築費 約參萬圓

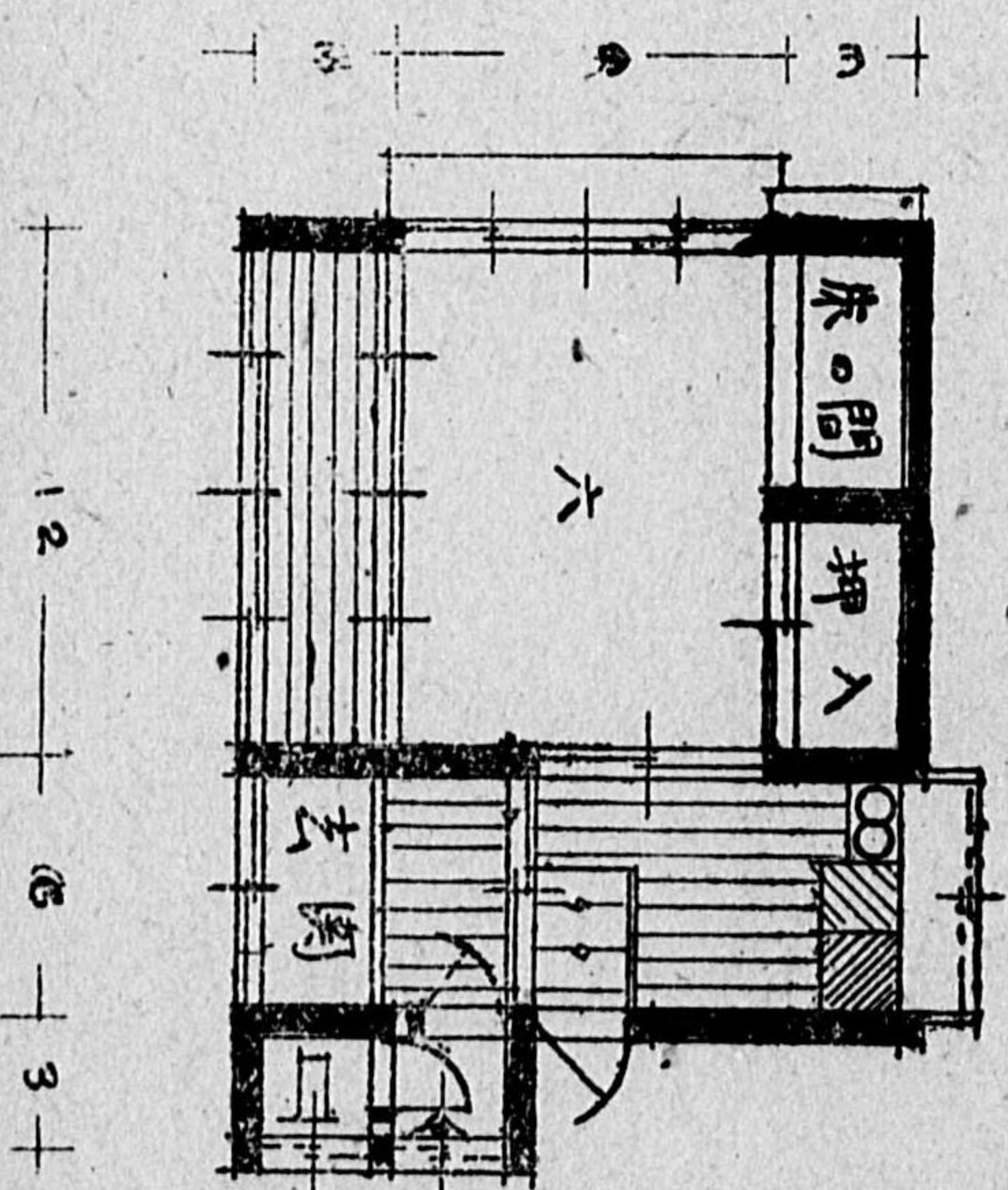
南向の玄關夫れに六疊の前の椽側は戸袋なしの硝子障子戸建であるから、明るく日當りが良い。

③① (二) 六帖を主とした小住宅

①は 8.00 坪



②は 8.00 坪



第三十一圖の(三) 六疊を主とした小住宅

坪圖 建坪 拾壹坪五合

建築費 約四萬六千圓位

燒敷の間を多くした、家族の多い方に適する様設計したのであるから、便利である。

玄関を東向としてあるが南向としても良い。

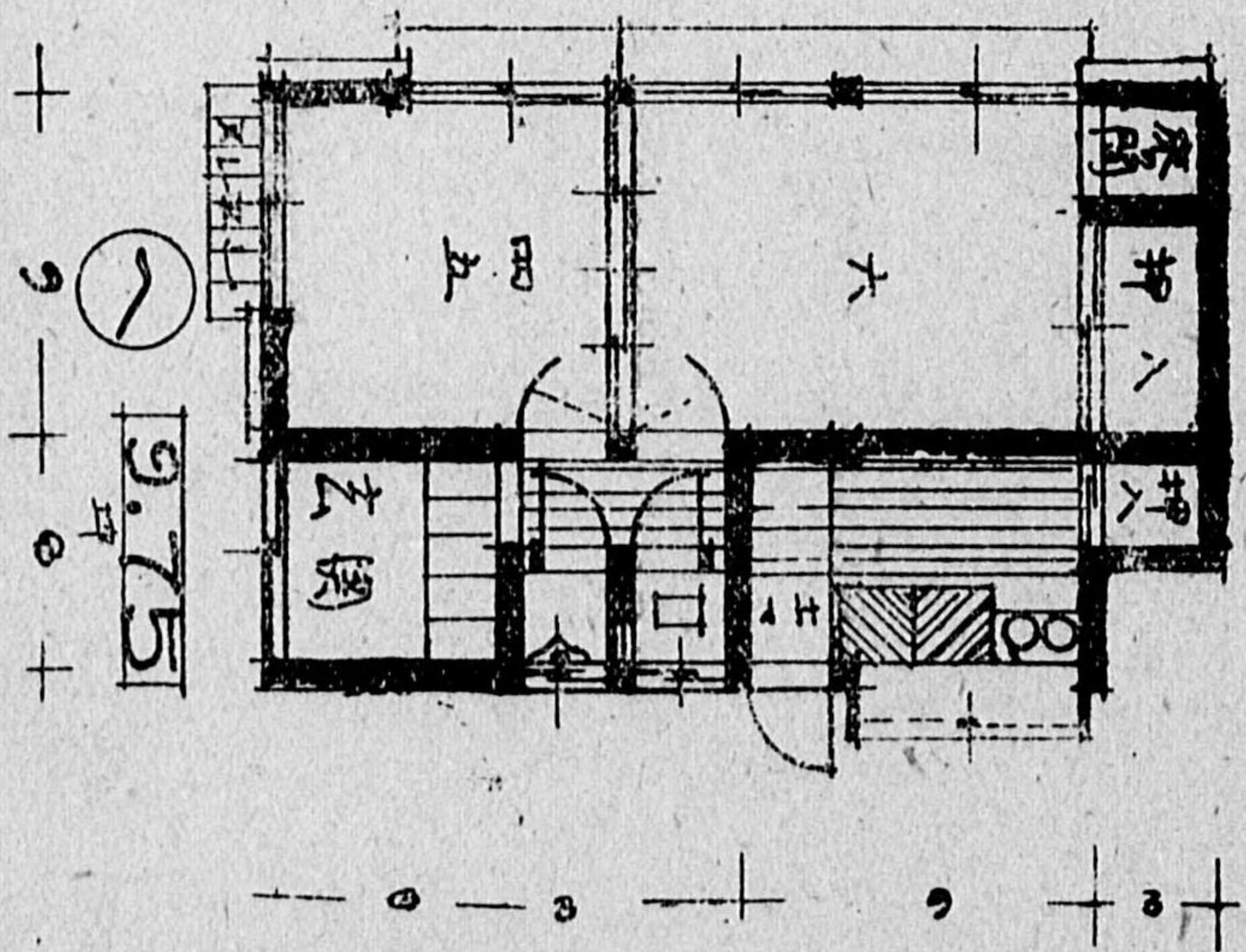
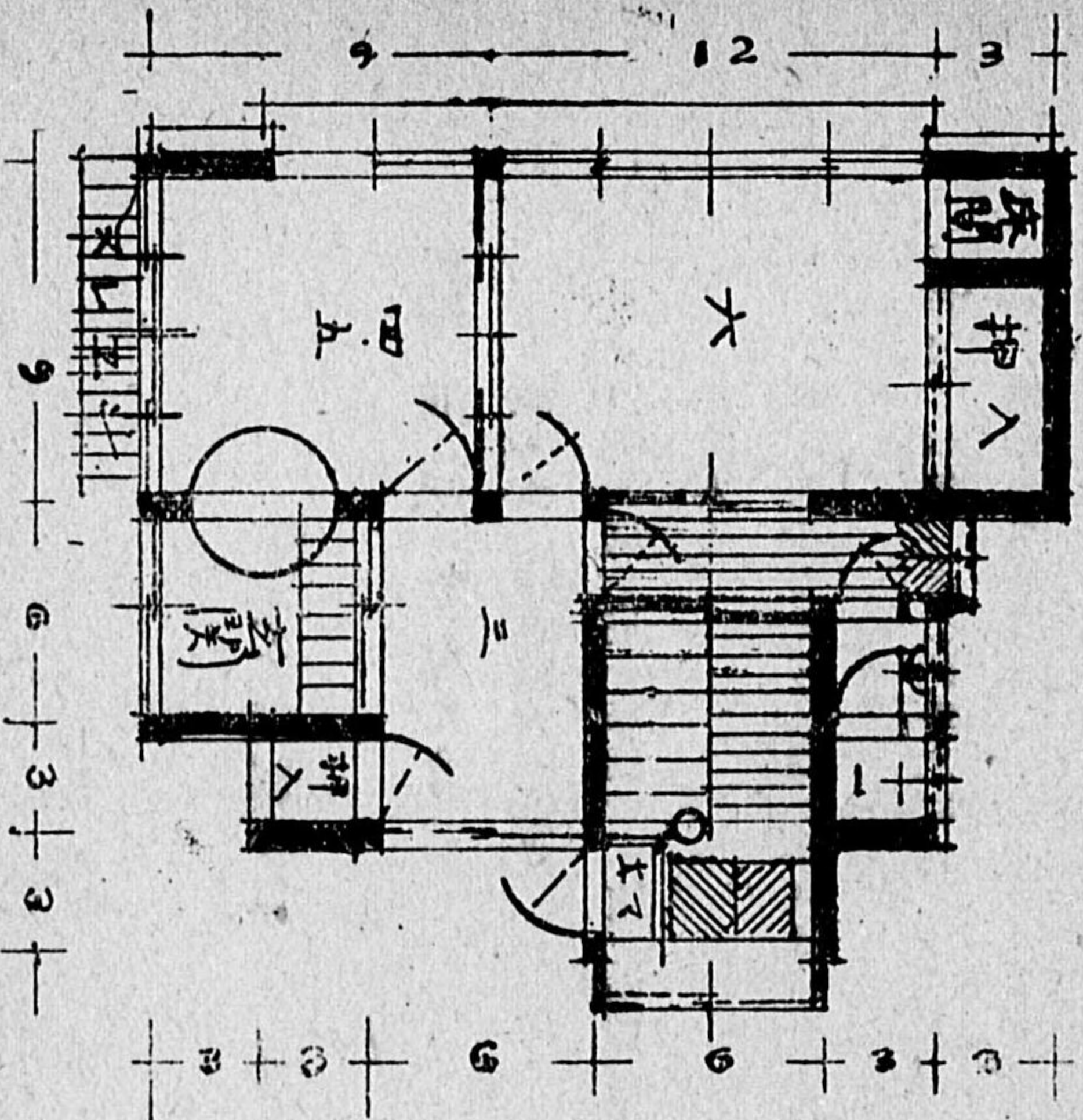
へ圖 建坪 九坪七合五勺

建築費 約參萬九千圓位

東向東西に細長い敷地へ建てられる小住宅である。

②(三) 六疊を主とした小住宅

坪圖 11.50



第三十二圖の(一) 戦災復興小住宅各種

5 圖 建 坪 拾四坪二合五勺

建築費 約五萬七千圓位

玄関西向小高い敷地で、東と南側面に庭を隔て、菜園がある所に建てられた住宅である。

建坪を少なくする爲めに八疊の前に縁側を省略して濡縁造りとしたのである。

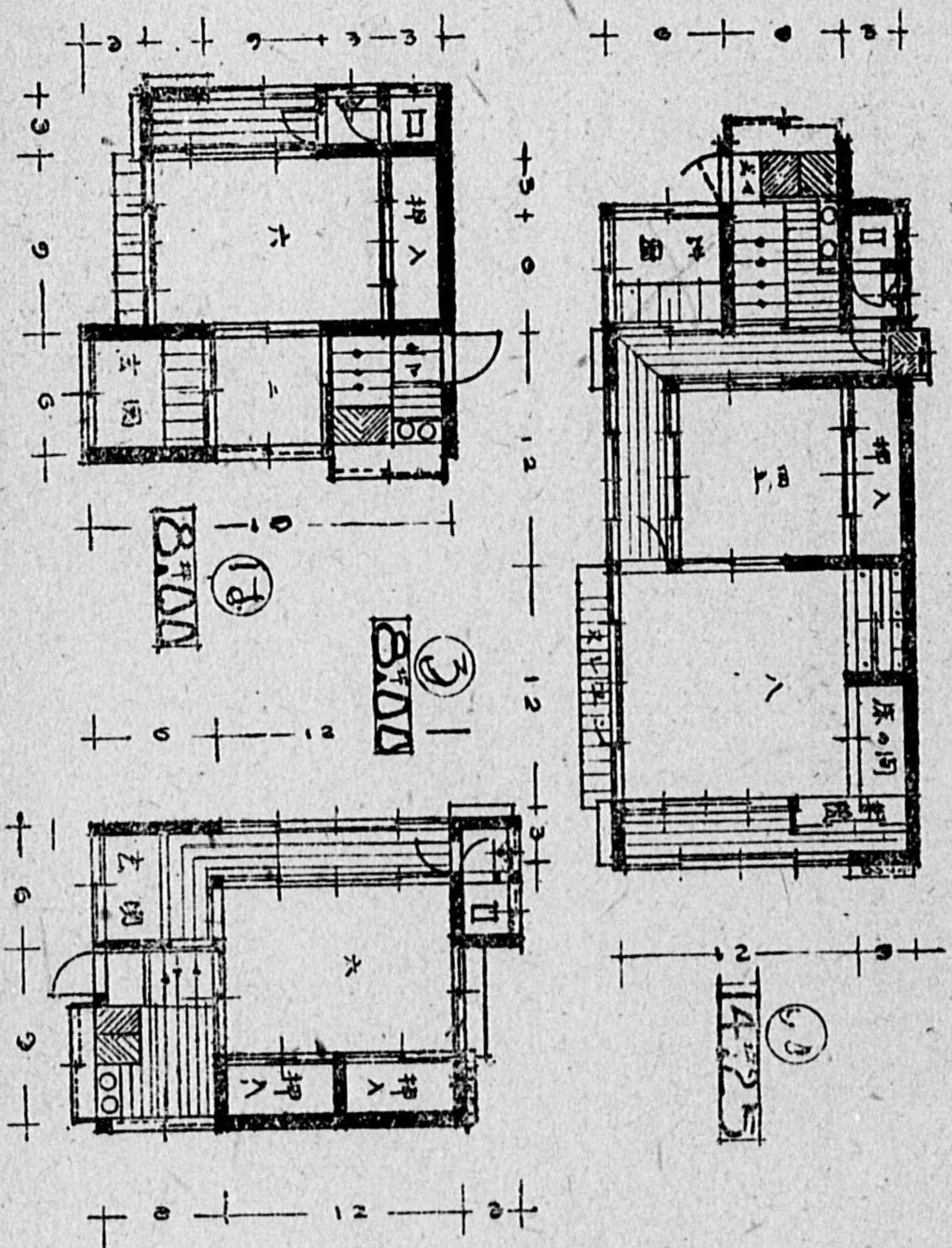
ろ圖及びは圖、共に建坪八坪

建築費約參萬圓位

同じ坪數でも一方は六疊の他に二疊がある。

一方は臺所が三疊で縁側も廻縁式に設計したのである。

27
19
戦災復興小住宅各種



第三十二圖の(二) 戦災復興小住宅各種

にほへ圖 若夫婦向の住宅

建坪 八坪七合五勺

建築費 約參萬五千圓

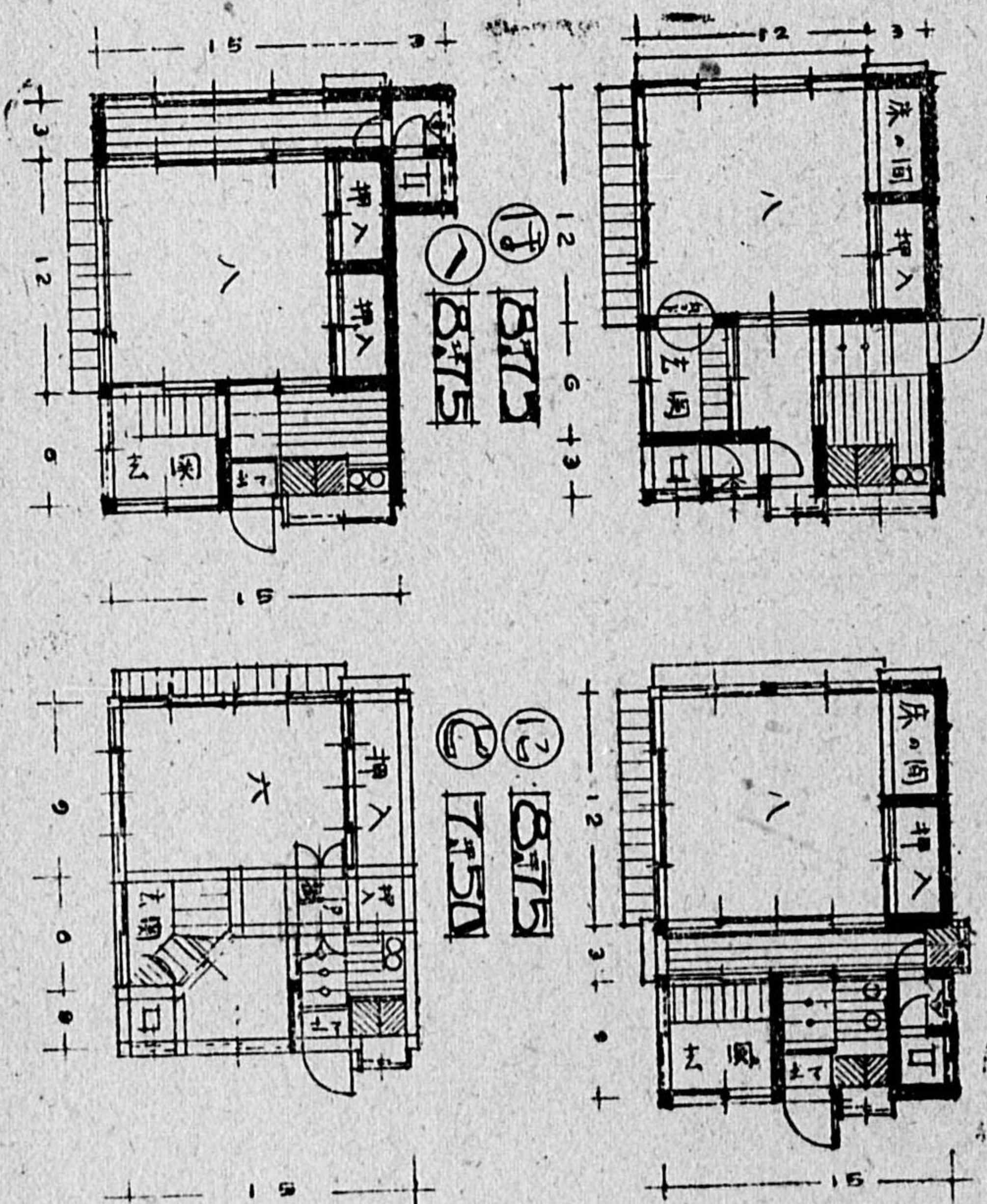
にへ圖は東向 ほへ圖は南向

と圖 建坪 七坪五合

建築費 約參萬圓

新家庭向で一人位の小間使或は女中は玄關脇の小間に起居が出来る様造られた
最小限度の小住宅である。

32 (二) 戦災復興小住宅各種



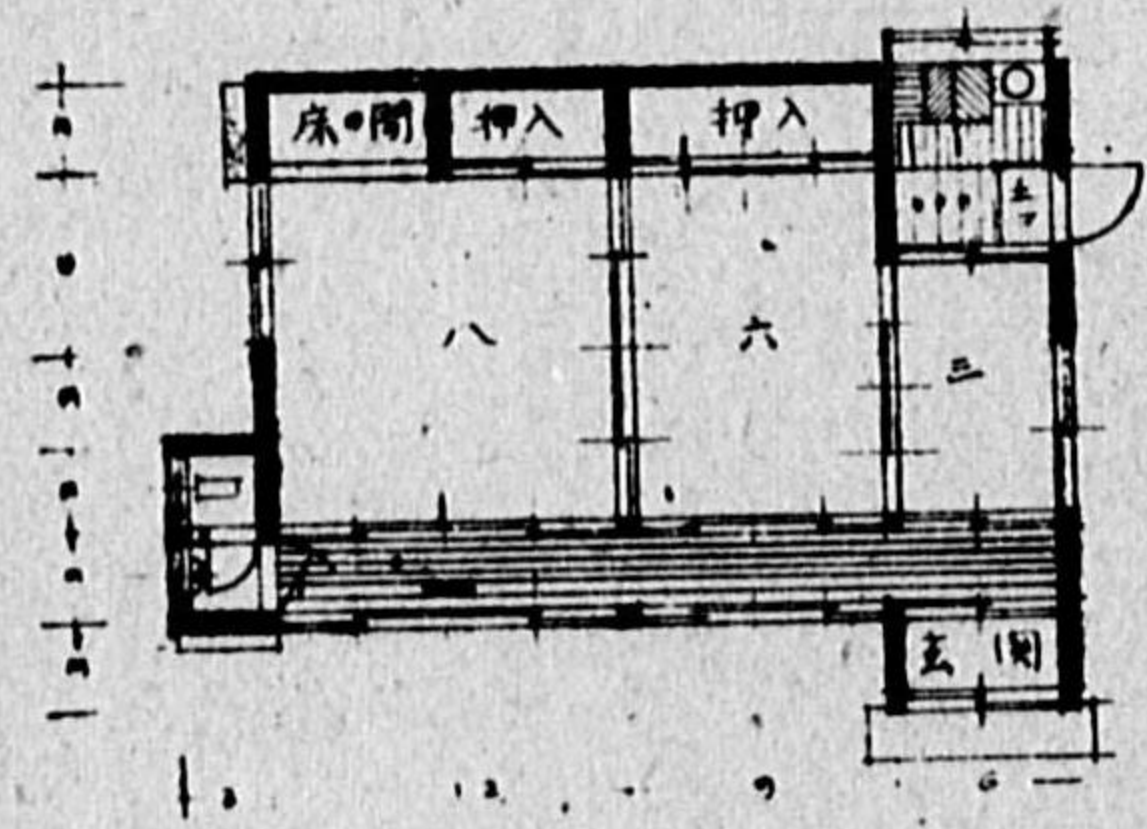
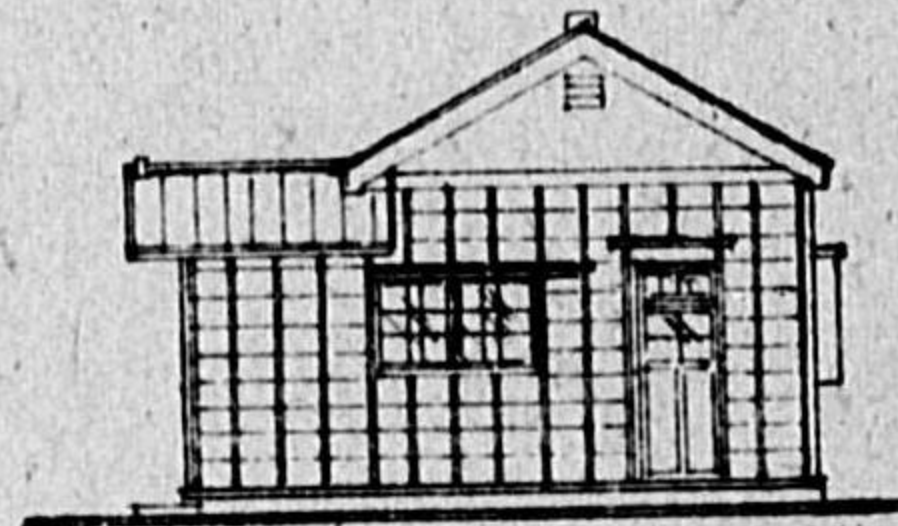
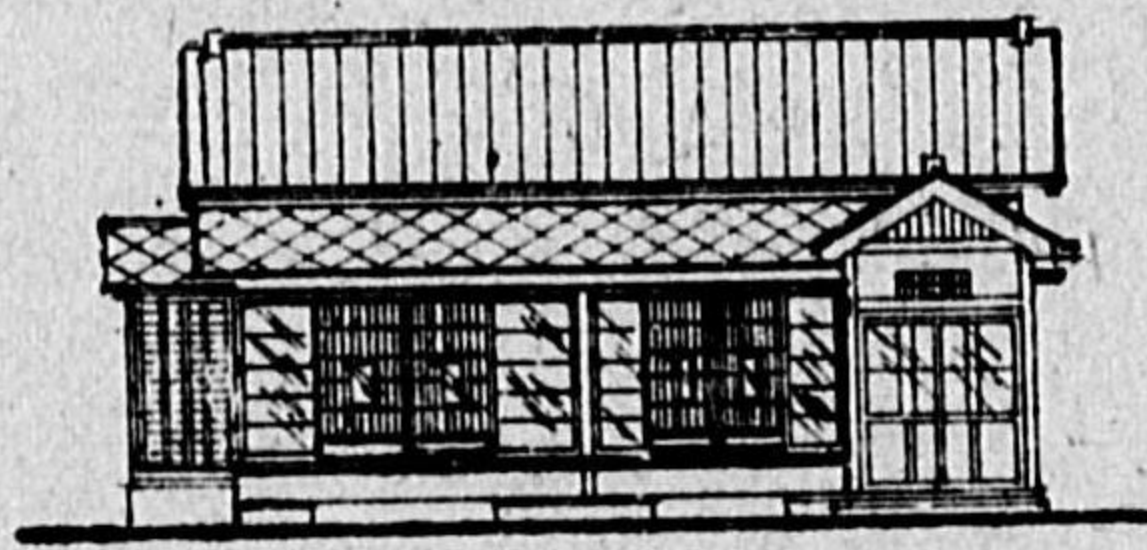
33

戦災復興小住宅

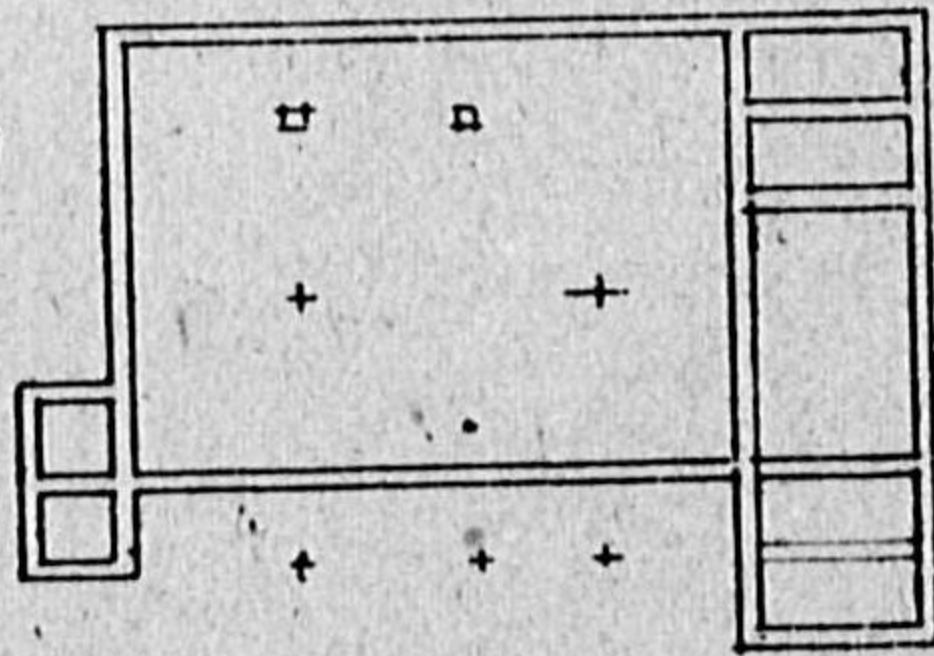
14.50

正面高

側面高



平面高



基礎伏図

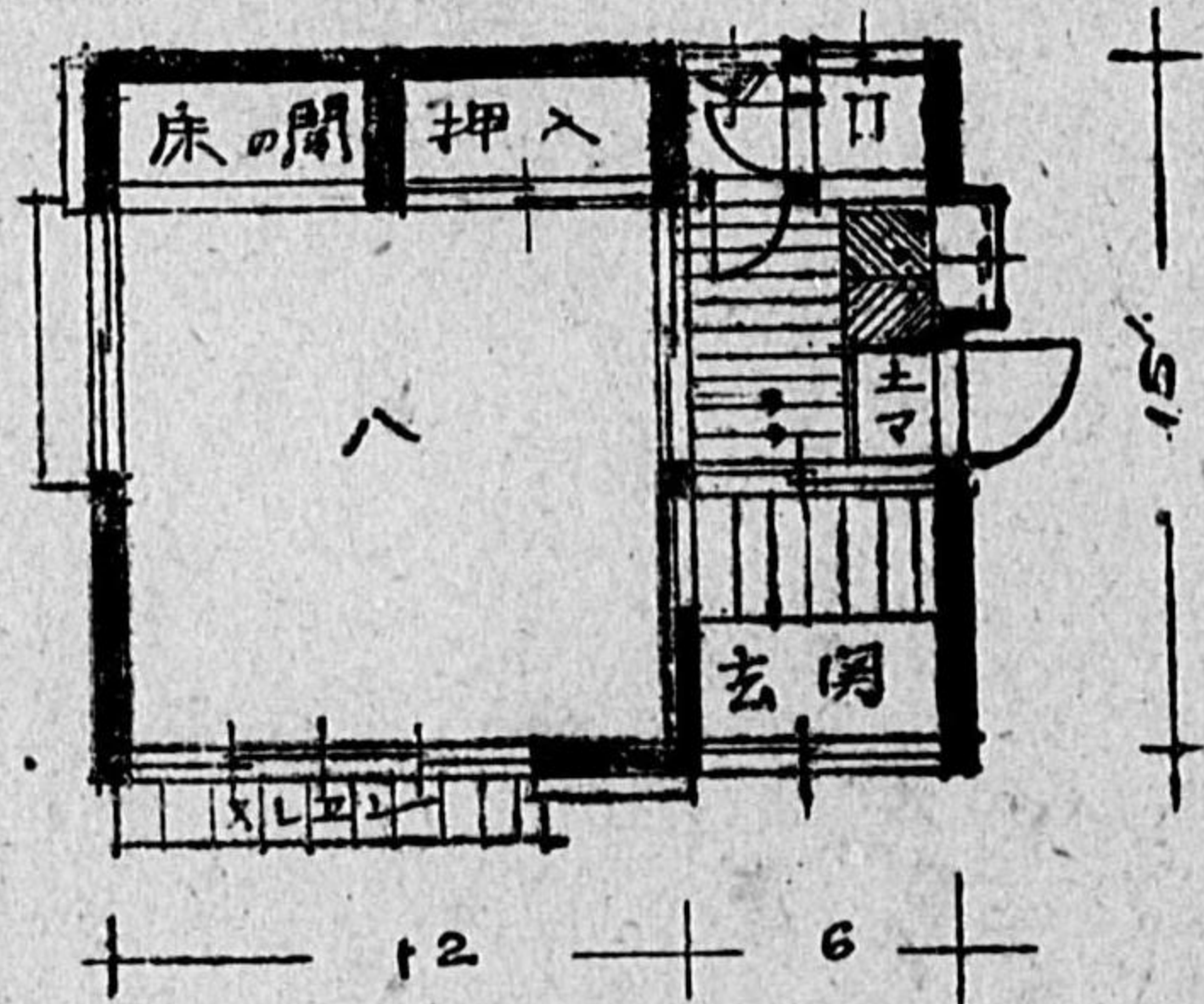
第三十三圖 戦災復興小住宅設計圖

建坪 拾四坪五合

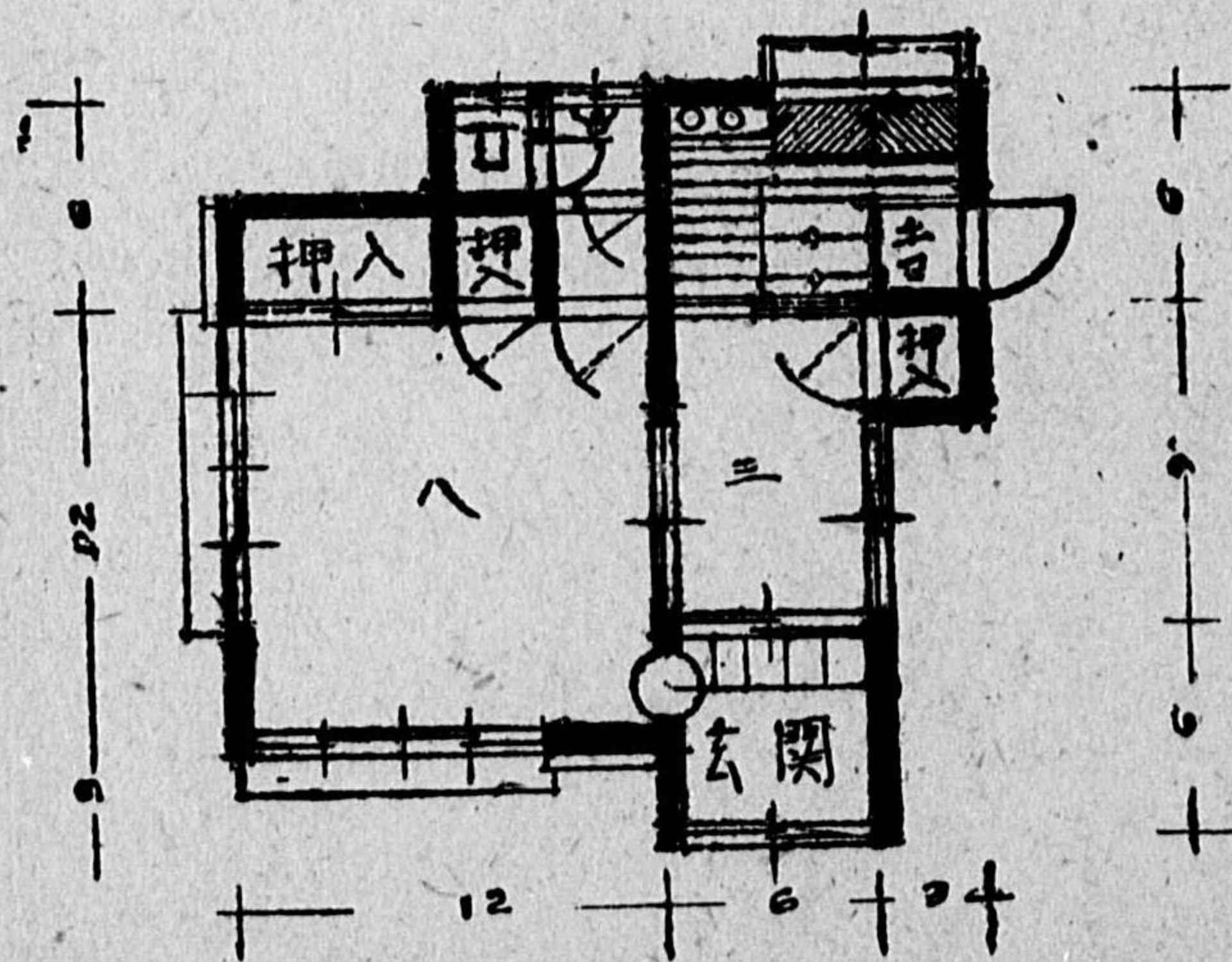
建築費 約五萬八千圓

南向瓦葺、但し椽側及び兩便所亜鉛引鐵板葺外壁日本下見板張。
夫婦に二人か三人の子供の家族向として考案したものである。本圖は坪數の僅
少な割合に收容力が多いので、戦災者の復興住宅として歡迎される建築の設計
である。

② 7坪50



③ 9坪75



③④ 戦災復旧小住宅設計圖

第三十四圖の(一) 戦災復舊小住宅設計圖

八畳の間が一つあれば良いからと言って注文された住宅である。

⑤ 圖建坪七坪五合、若夫婦又は老夫婦向

建築費 約二萬九千四百圓位

東又は南向として建設すれば理想的である。

日本人は勿論外人向ともなる。

⑥ 圖、建坪九坪七合五勺

建築費 約四萬壹千圓位

本圖は前者へ參疊の間一間を追加したのであるから、女中を置く事も出来るが
ら便利である。

第三十四圖の(二) 戦災復舊小住宅設計圖

八疊の間の他に三疊又は四疊半を取入れた場合の設計圖。

は圖、建坪拾壹坪五合

建築費 約四萬六千圓

玄關の次の間が四疊半の取次で茶の間であり、書生室であると同時に子供の勉強室ともなるから使用上便利である。

に圖、建坪九坪七合五勺

建築費 約三萬九千圓

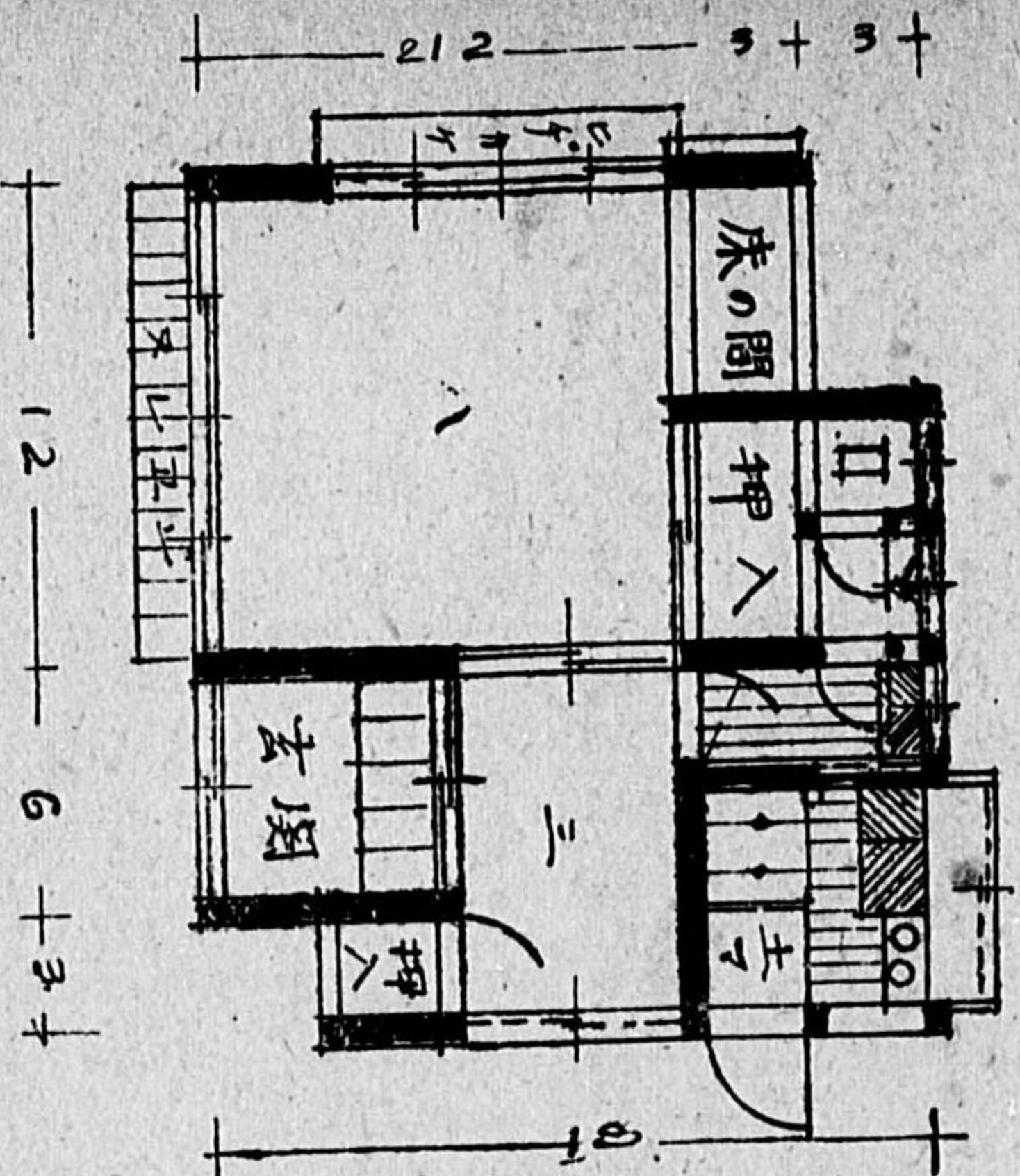
前者四疊半が三疊になった。割合に坪數の少ないのは椽側を省略したからである。

太平洋戦で負傷された方の療養用の住宅として設計した間である。

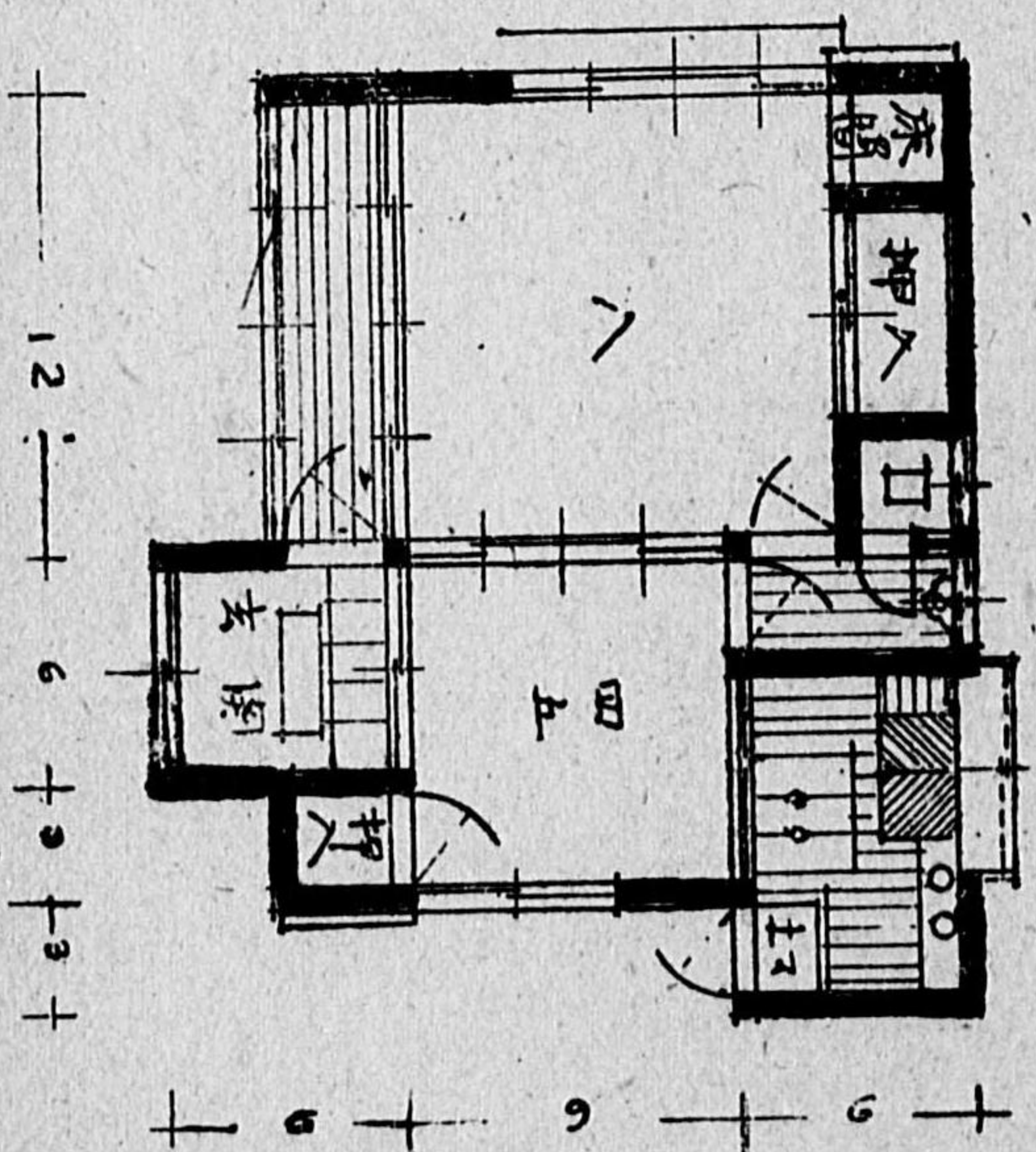
戦災復舊小住宅設計圖

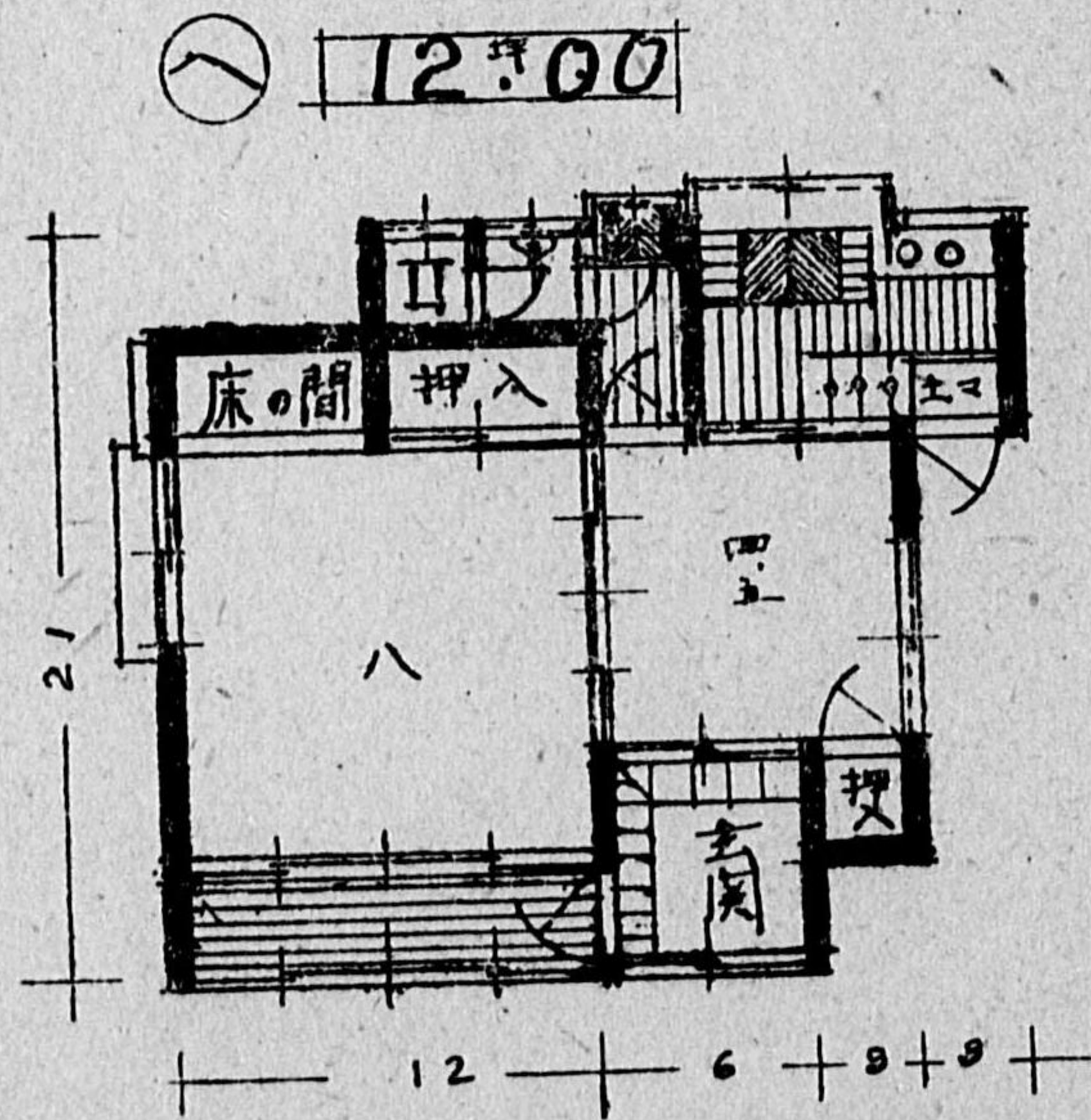
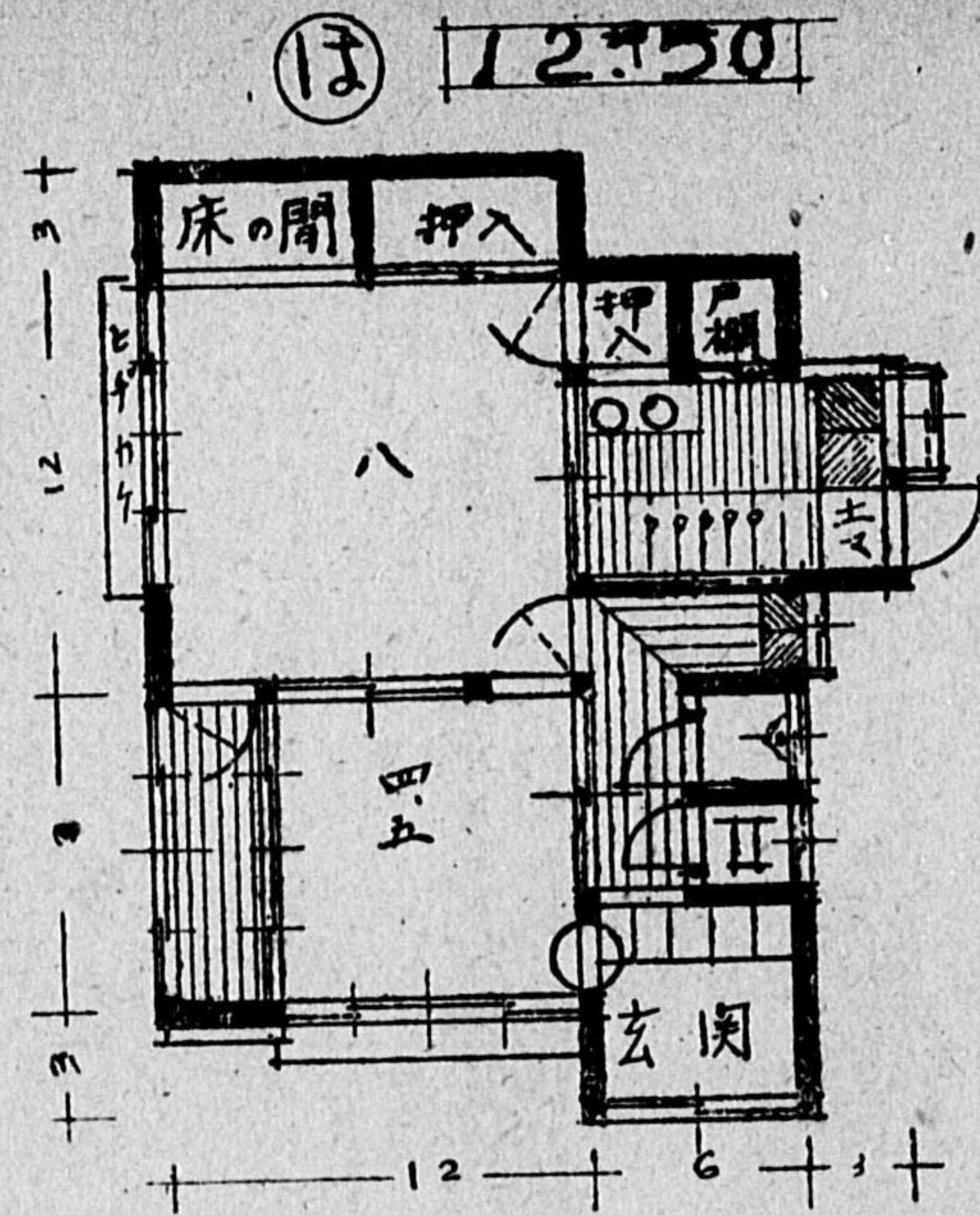
34(2)

12 9坪75



11 11坪50





⑭ (三) 戦災復旧小住宅設計書

第三十四圖の(三) 戦災復舊小住宅設計圖

八疊と四疊半の二部屋是非愆しいと言はれて設計した圖。

坪 拾貳坪五合

建築費 約五萬圓

東南向が奥行が多少廣い敷地、北側に細い路地のある所に建設された小住宅である。

四疊半の居間が朝から晩迄一日中良く日が當るから住心持が良い。

坪 拾貳坪

建築費 約四萬八千圓

南向四疊半の居間は、午前中日が當るから旭日を拜しつつ朝食を頂ける、朝寝が出来ないから、健康上良い住宅である。

西側は僅な間隙しかない敷地でも建設し得る住宅。

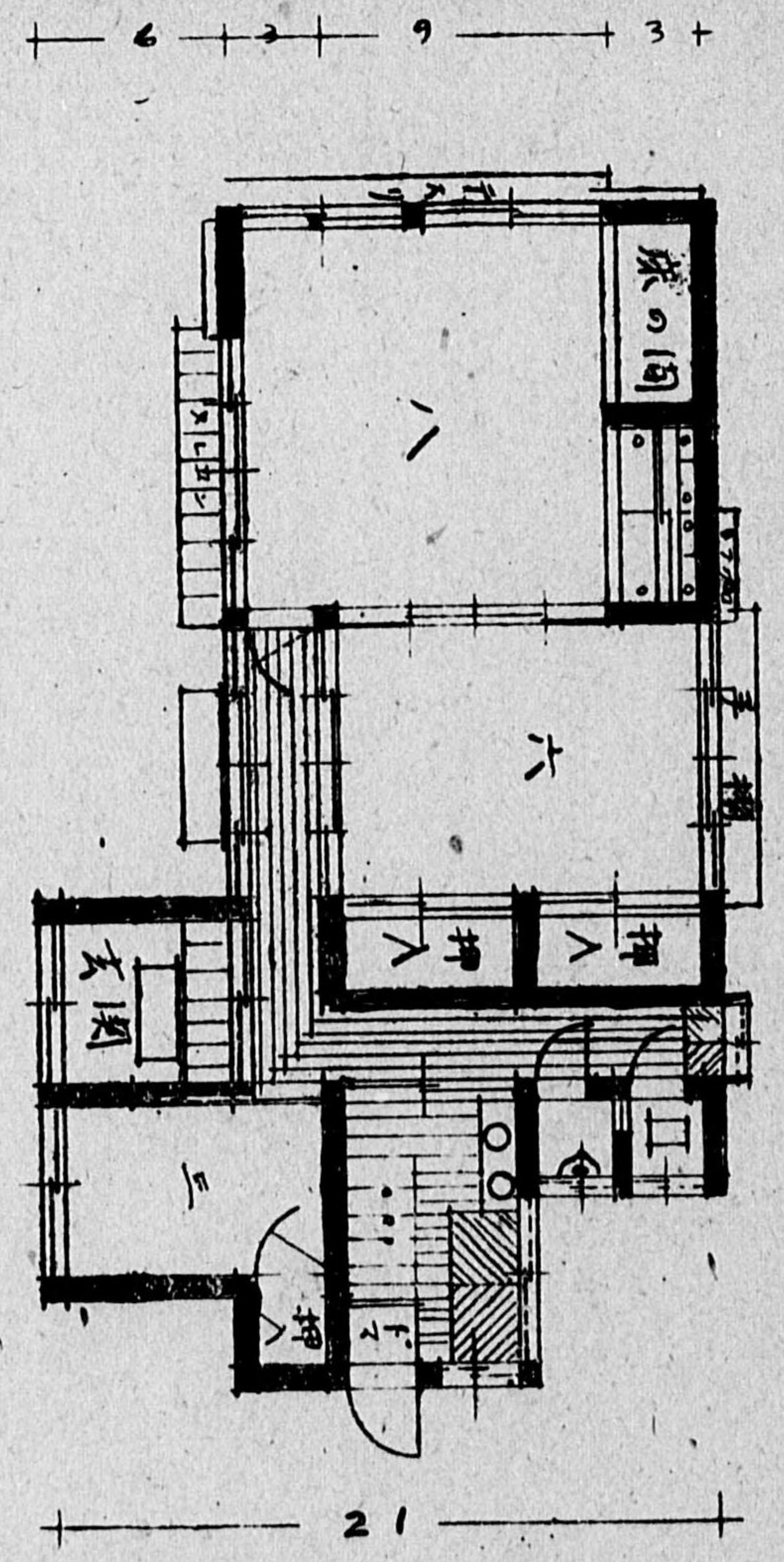
第三十五圖の(一) 郊外の簡易小住宅

A圖 建坪拾六坪
八疊、六疊、三疊の三間を忖し、と言はれて設計した圖

建築費 約六萬四千圓

東又は南向、七人以上の家族向、子供の一人は専門學校以上の所に通學して居るか又は年頃の書生が玄關脇の一室で玄關番を兼勉學し得る様設計した住宅である。

35 郊外の簡易小住宅



第三十五圖の(二) 郊外の簡易小住宅

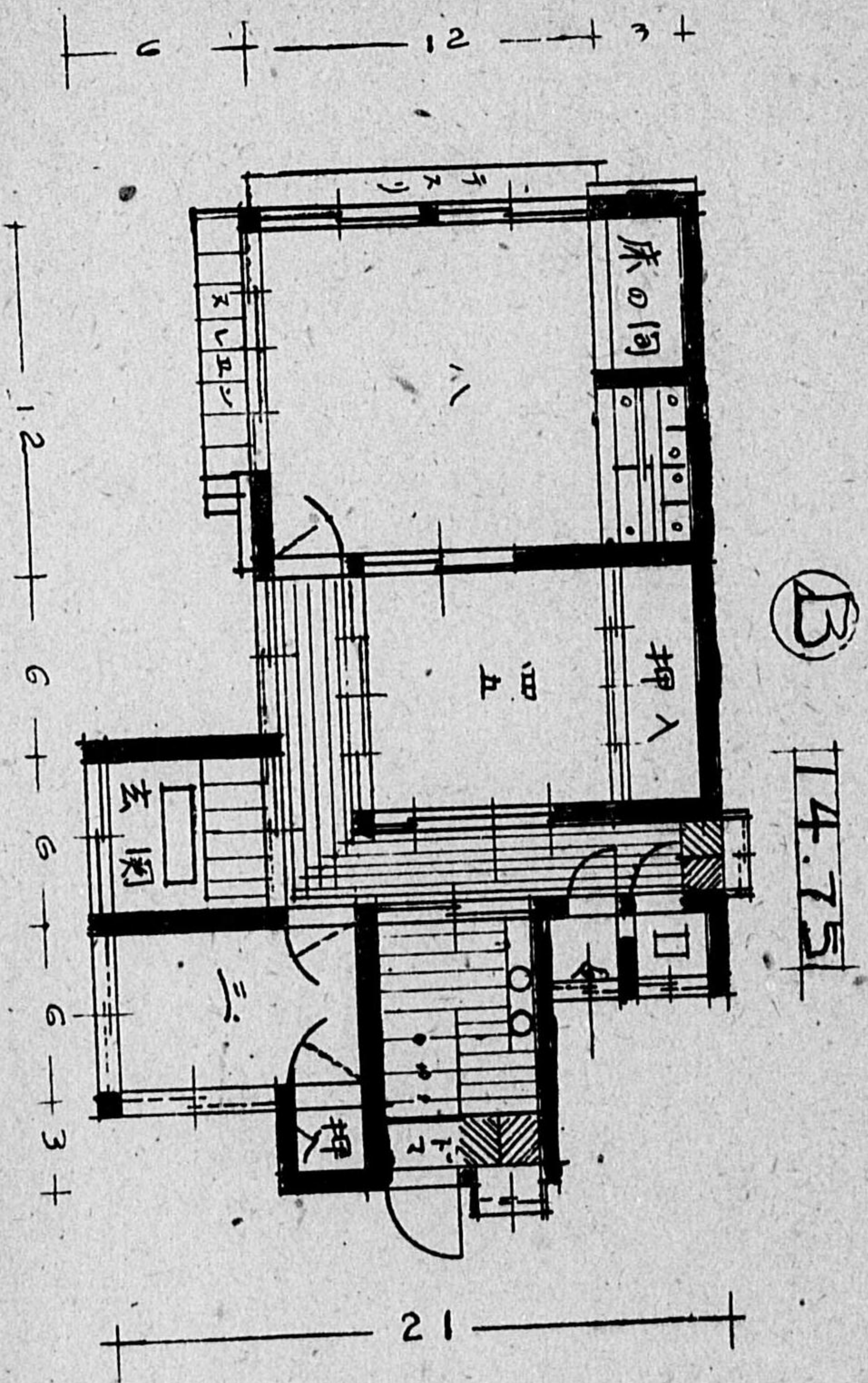
八畳、四疊半、三疊の三間

建坪 拾四坪七合五勺

建築費 約五萬九千圓

北側面には殆ど壁付としたのであるから東北地方及び北海方面の寒い地方向として設計したのである。

35 (二) 郊外の簡易小住宅



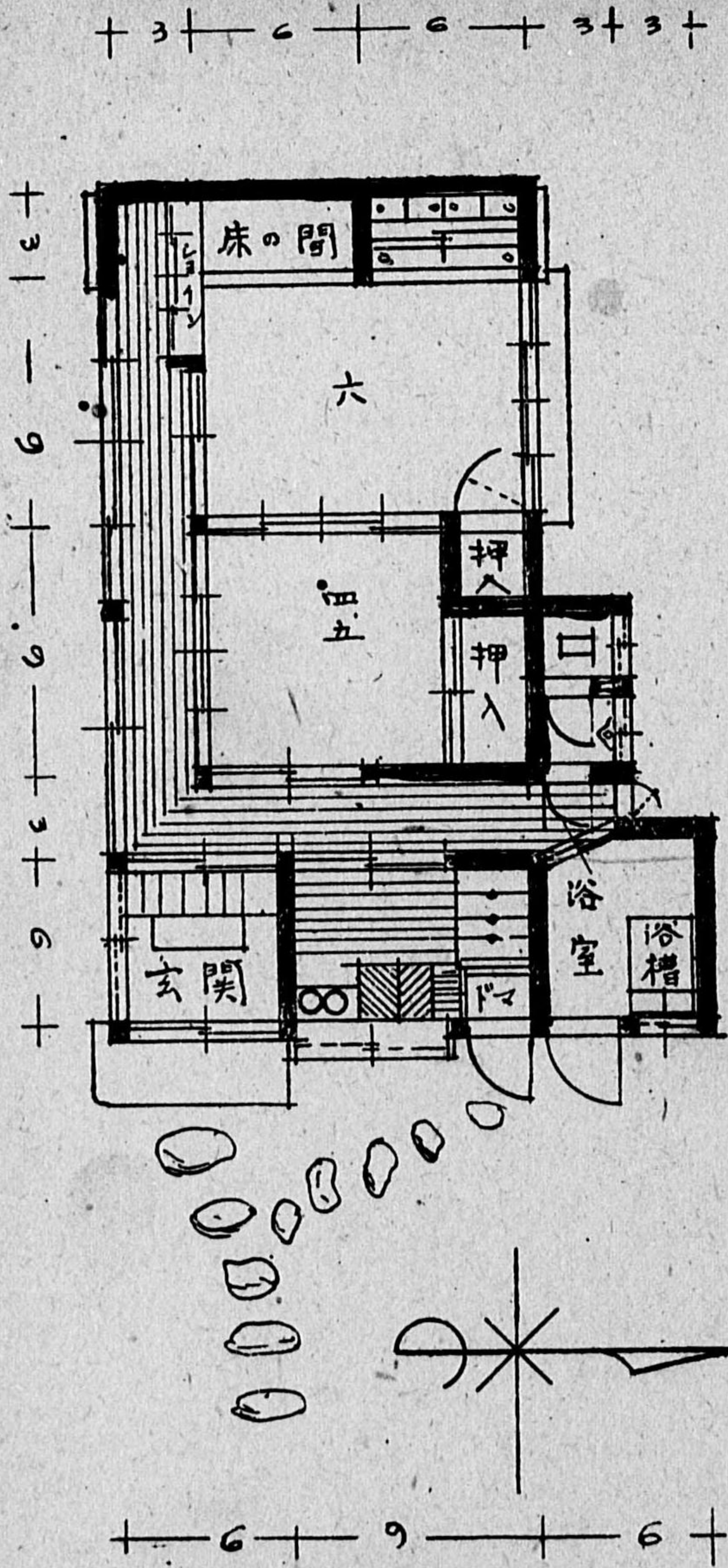
第三十五圖の(三) 郊外の簡易小住宅

建坪 拾四坪五合
 建築費 約五萬八千圓

御座敷が六疊の間ではあるが、出書院付であるから本格的である。要は小人数向老夫婦の御隠居造り、又は若夫婦の新築新世帯向に設計したのである。坪敷の制限が矢筈敷時代として或は行過かも知れないが、最小限度の居室位が御互に希望して居るのではなからうか、老夫婦用とするならば飛石づたいに若夫婦の住いと連絡が出来る。

35 郊外の簡易小住宅

174.501



第三十六圖の(一) 住み良い小住宅

イ圖 建坪 拾六坪五合

建築費 七萬四千二百五十圓

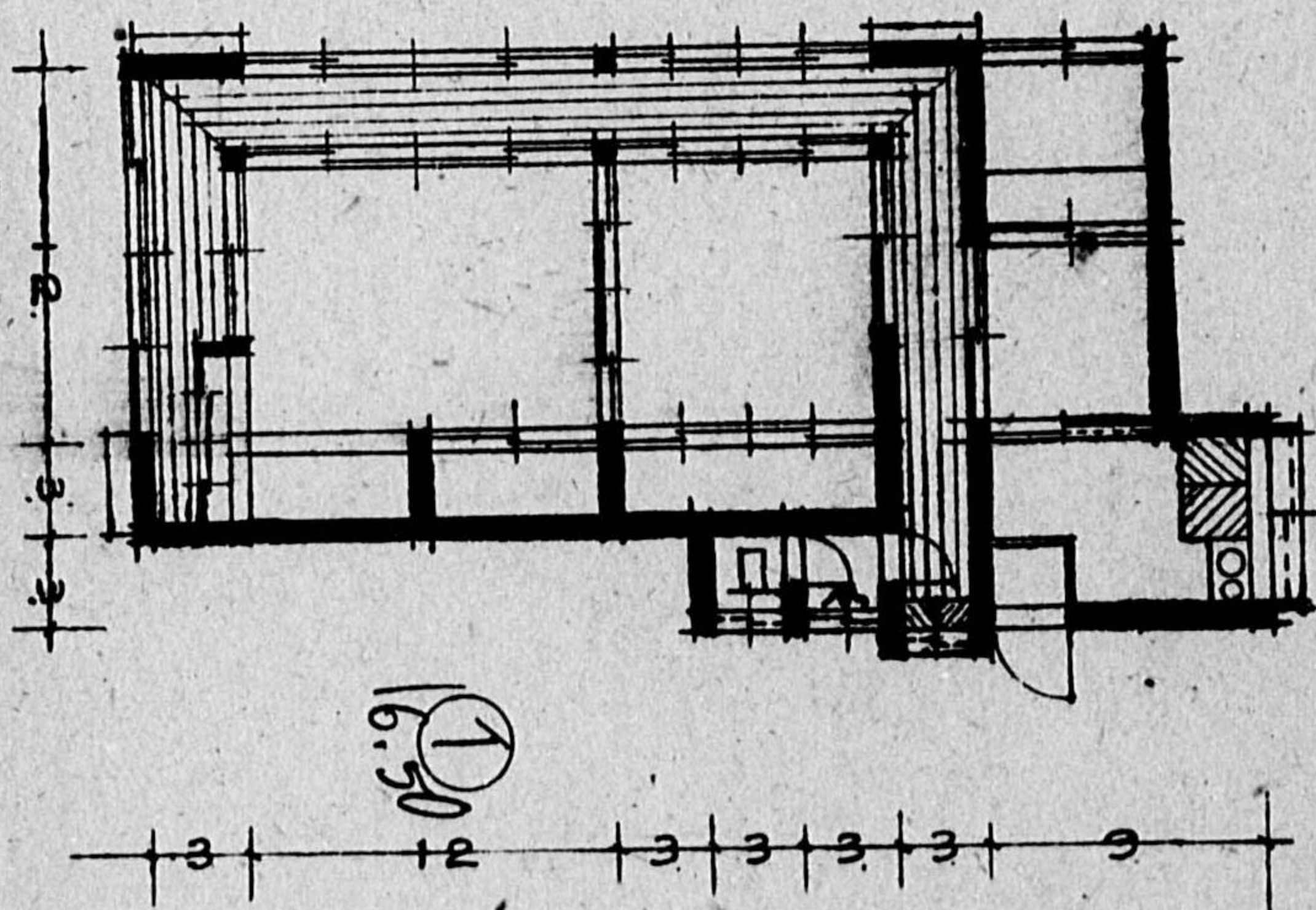
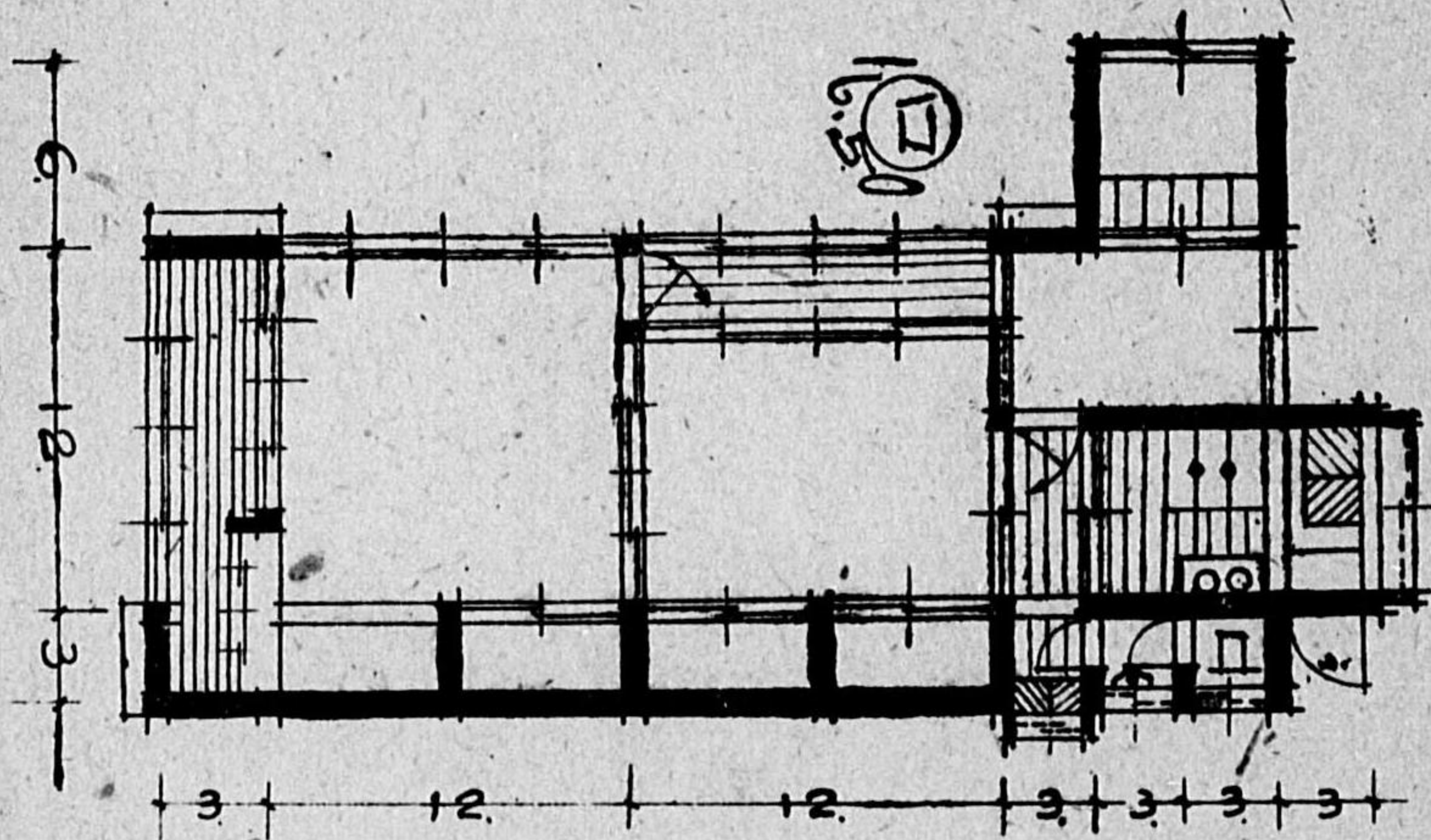
南玄関、六疊、四疊半、二疊の三間。

御座敷は小間ではあるが、廻縁付であるから便利である。

ロ圖 建坪 拾六坪五合

建築費 七萬四千二百五十圓

八疊、六疊、三疊、前者と總建坪は同じであるが、御座敷は廣く出来てゐる。



① 住み良い小住宅

第三十六圖の(二) 住み良い小住宅

八圖 建坪 拾五坪二合五勺

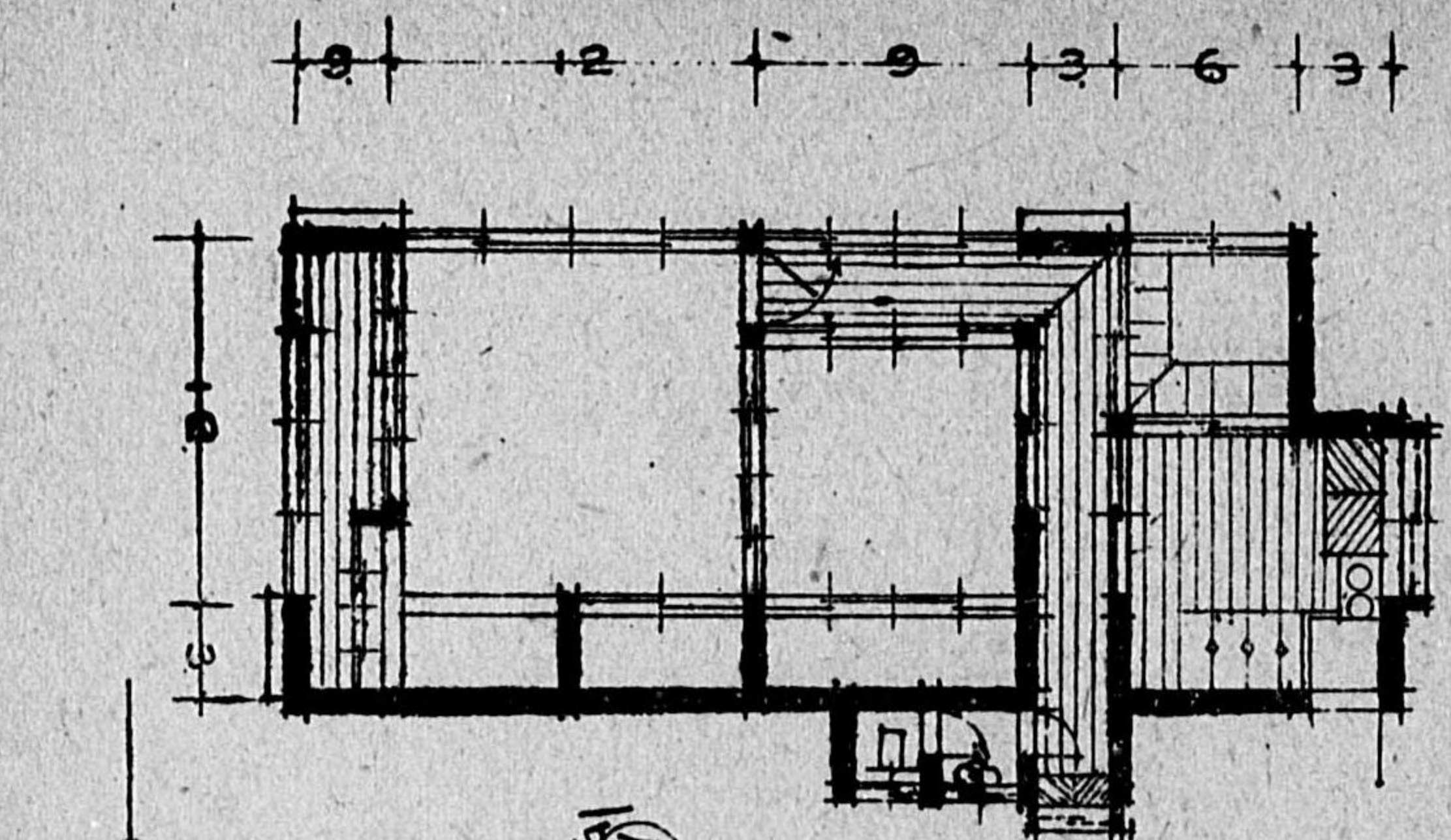
建築費 六萬八千六百二十五圓

南玄關、六疊、四疊半、二疊の三間、臺所を広く造り四疊半とし洋式の食堂兼すれば便利である。

二圖 建坪 拾八坪七合五勺

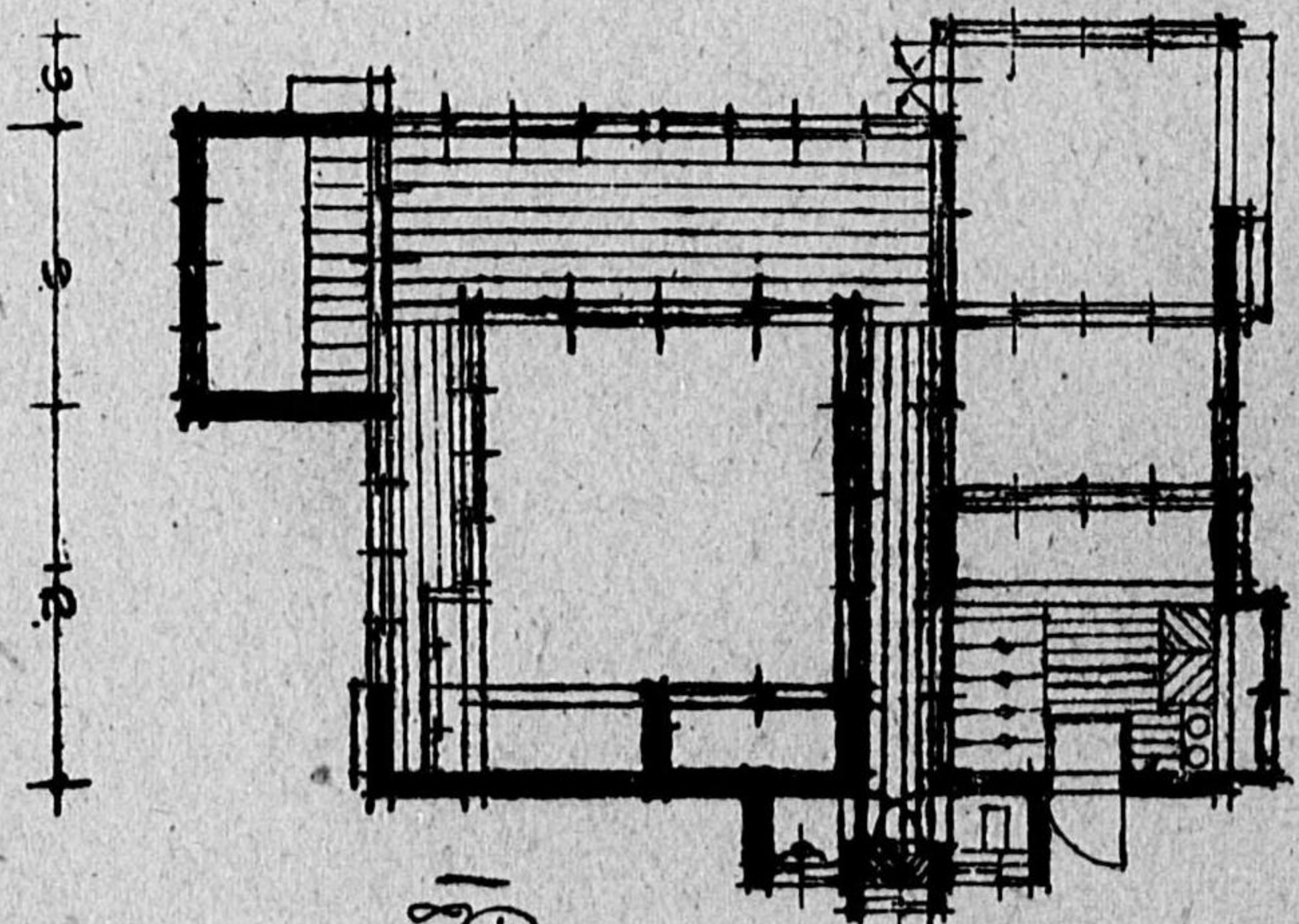
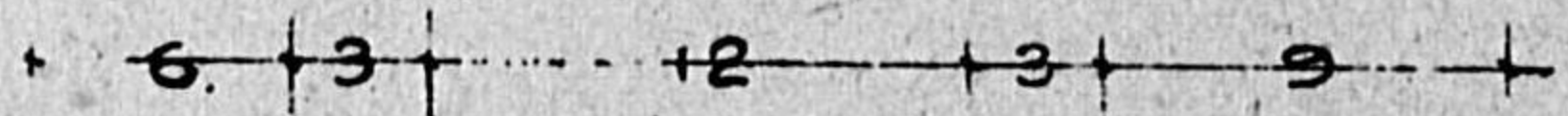
建築費 八萬四千三百七拾五圓

東玄關、九尺間口八疊の前の縁側、六尺の廣縁であるから應接間兼用が出来るから便である。



36

住み良い小住宅



1875

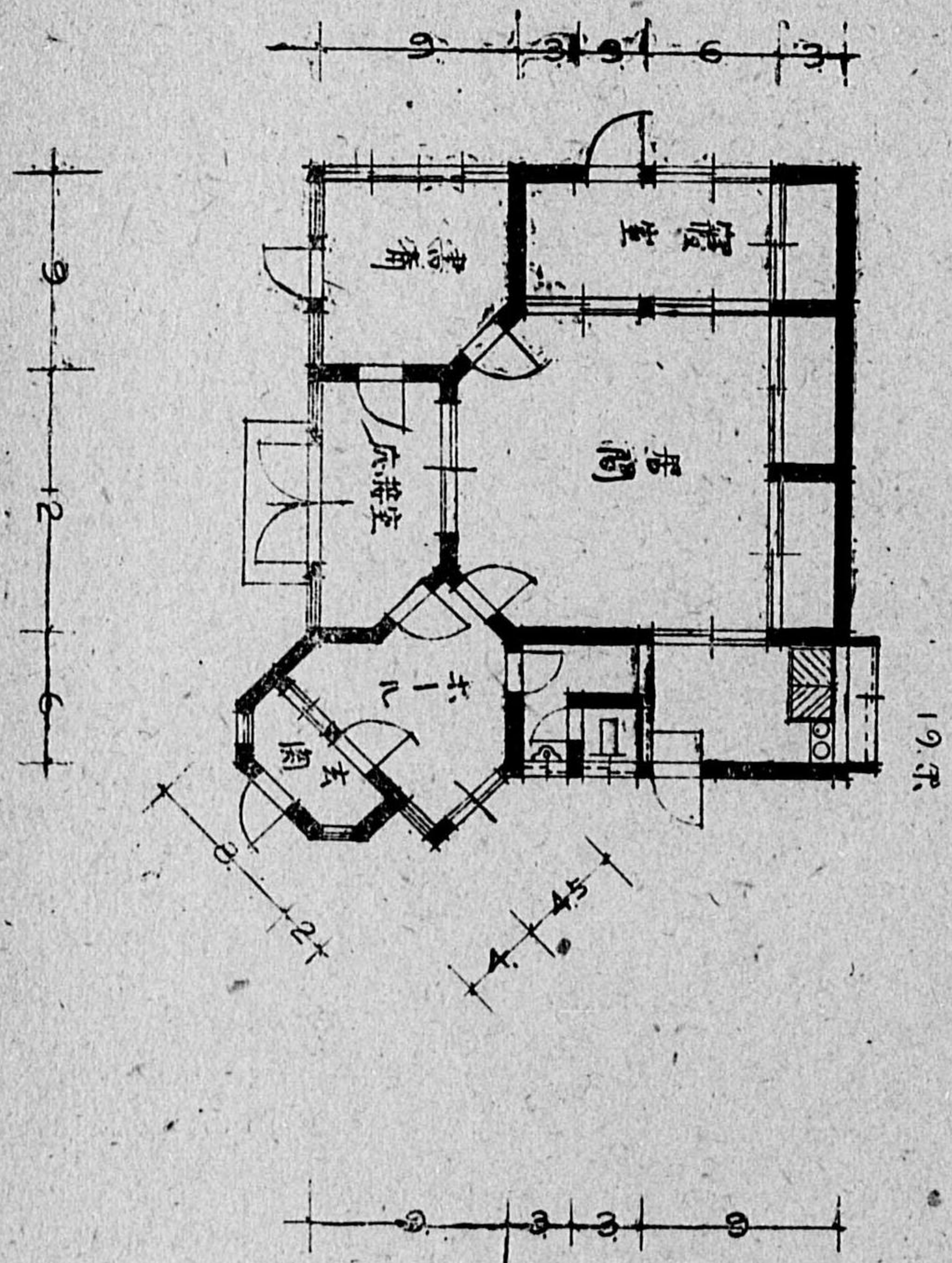
第三十七圖の(一) 住み良い小住宅

建坪 拾九坪餘

建築費 拾貳萬圓

純洋風の間取り八畳の居間を中心として他の附屬室を周圍に構ふた設計である。
 總坪數は比較的少ないのに部屋數の多いのが特徴である。

37 住み良い小住宅



第三十七圖の(二) 住み良い小住宅

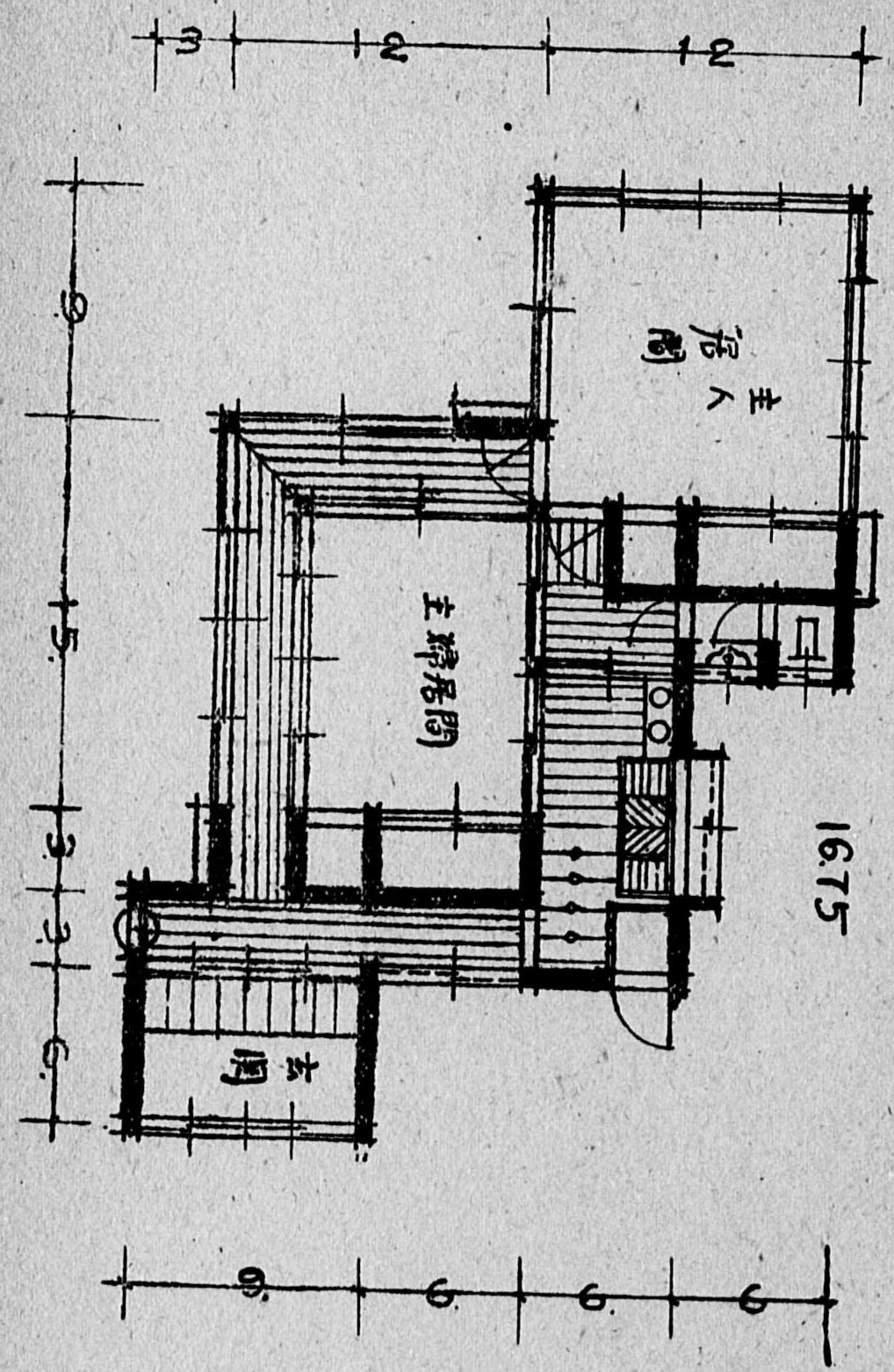
建坪 拾六坪七合五勺

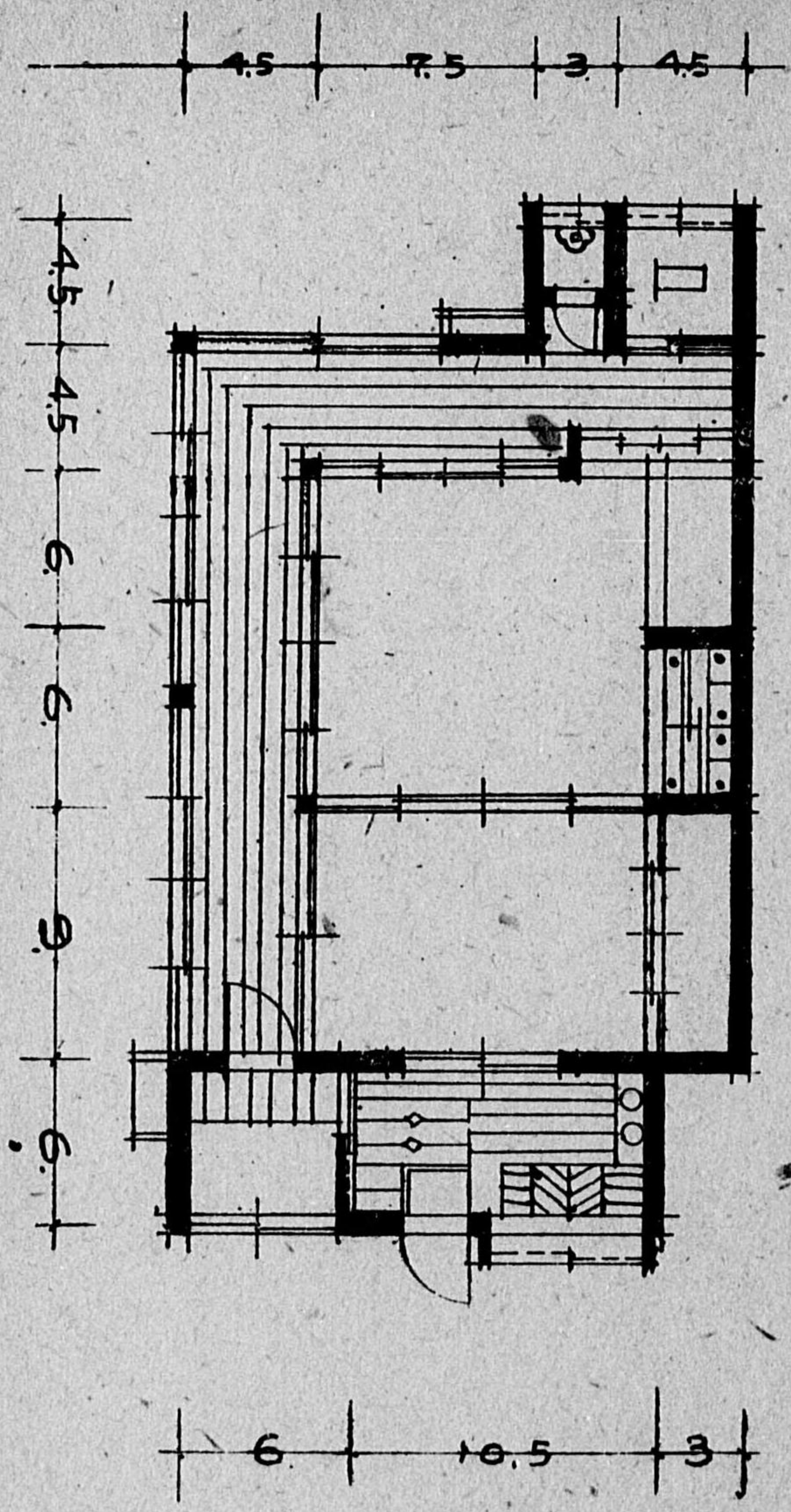
建築費 八萬參千七百五拾圓

東玄關、間口九尺、重役向の住宅

奥八疊は主人の居間であつて、朝から晩迄日が當るから住心地が良い。六疊は主婦の居間であり茶の間である。

③(二) 住み良い小住宅





30 (1) 住良小住宅

17125

第三十八圖の(一) 住み良い小住宅

建坪 拾七坪一合二勺五
建築費 八萬五千六百圓

東玄關、八疊、六疊の二間、四尺五寸の廣縁
八疊の御客間は床脇の違棚も本格的で書院も出書院造りで、便所も廣く出來て
居るから使用上便利である。

第三十八圖の(二) 住良い小住宅

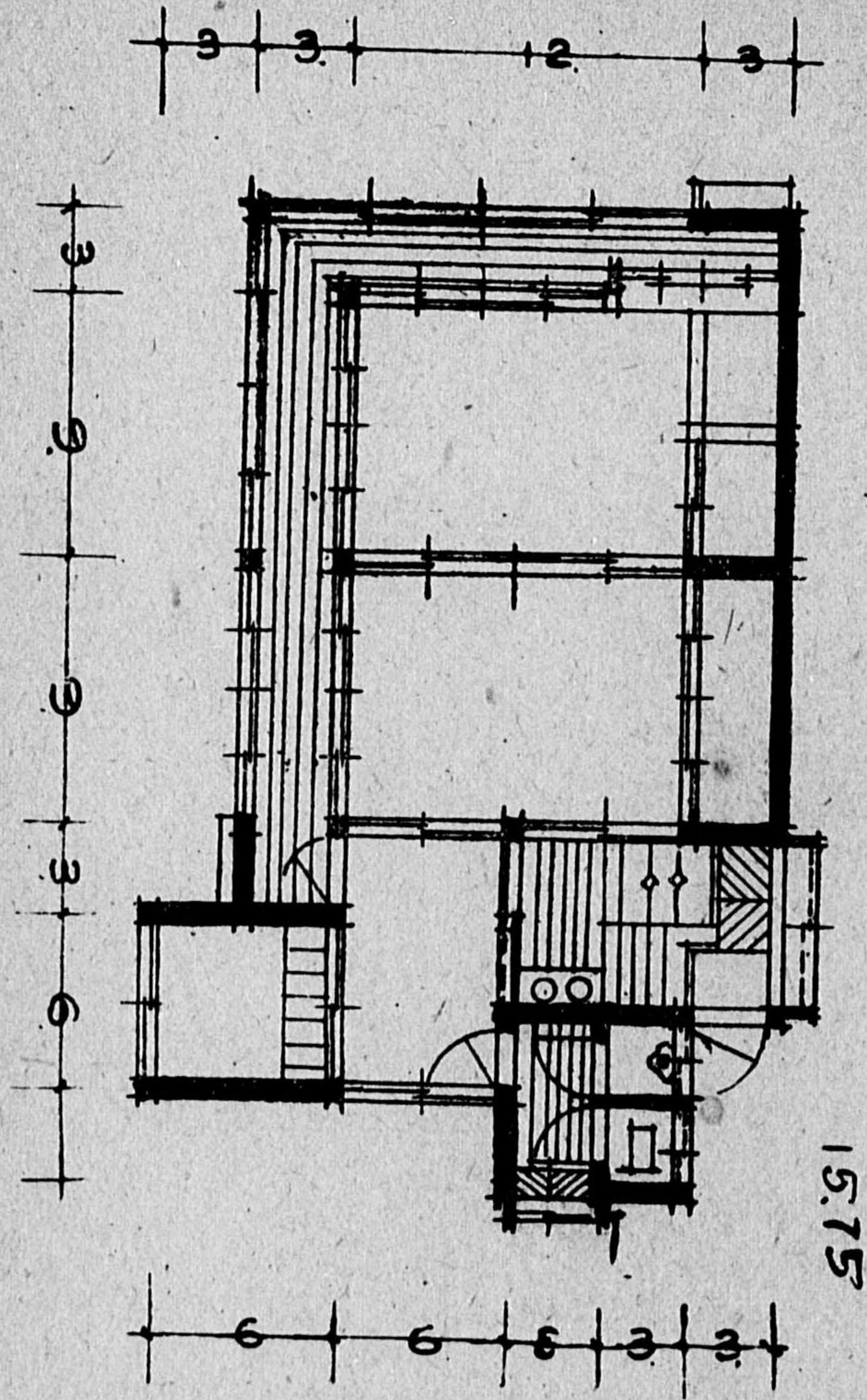
建坪 拾五坪七合五勺

建築費 七萬八千七百五拾圓

南玄関六疊二間の三疊一間の三間造り

五、六人の家族向、南及西に空地の有る所に、最適な住宅である。

38 (2) 住良い小住宅



1/5.75

第三十八圖の(三) 住良い小住宅

建坪 拾五坪七合五勺
 建築費 八萬六千六百圓

八疊、四疊半、三疊の三間

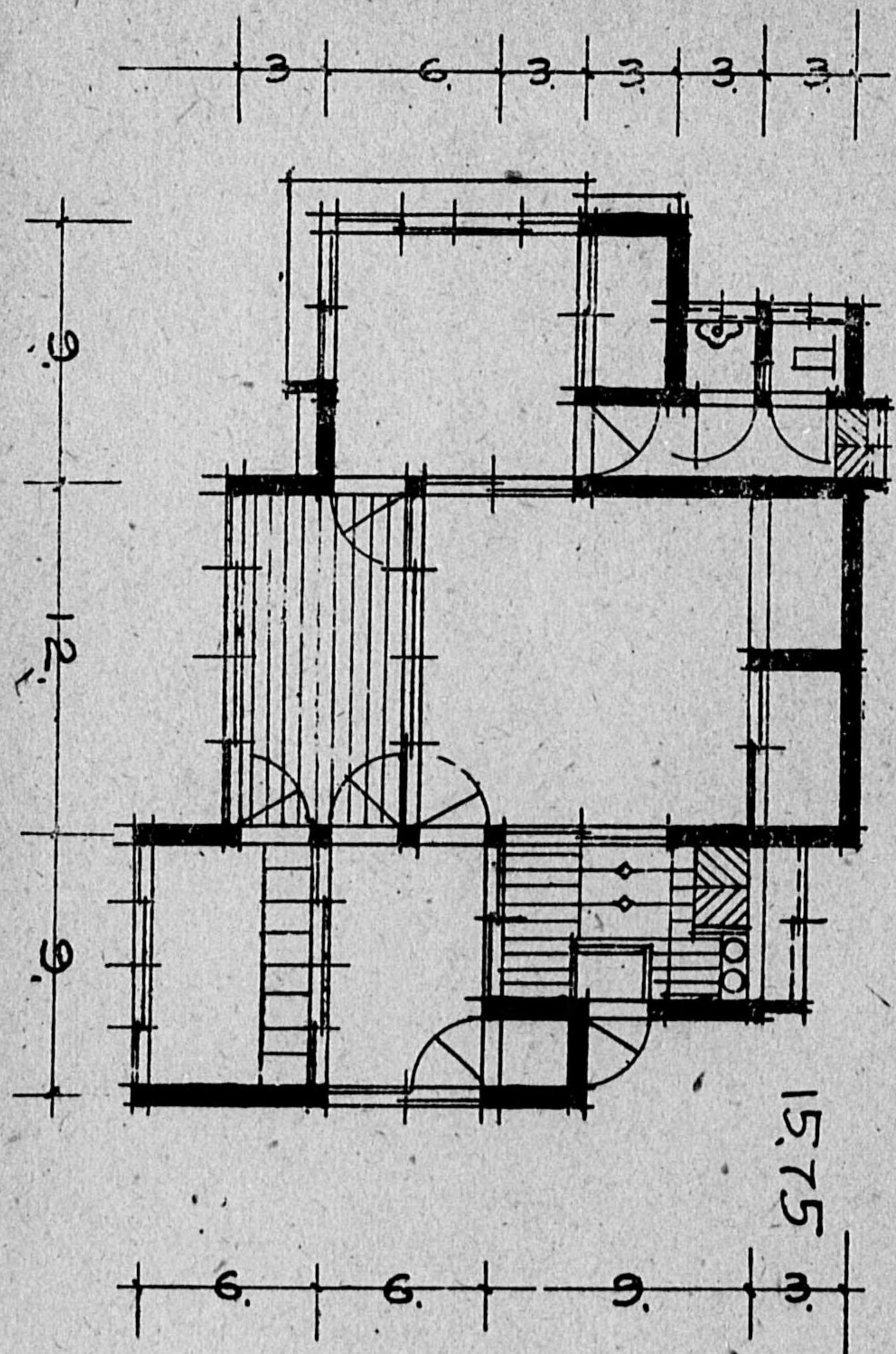
廣縁は六尺巾の四疊造りであるから、簡単な應接間兼用ともなる。

八疊は居間で、四疊半は子供室又は老人室となる。

玄關取次の三疊は女中室又は、書生室ともなるのである。

38 (三)

住良い小住宅



第三十九圖の(二) 住良い小住宅

右圖 建坪 拾貳坪

建築費 六萬圓

六疊、三疊の二間廣襟造り、西玄關九尺間口

左圖 建坪 拾坪七合五勺

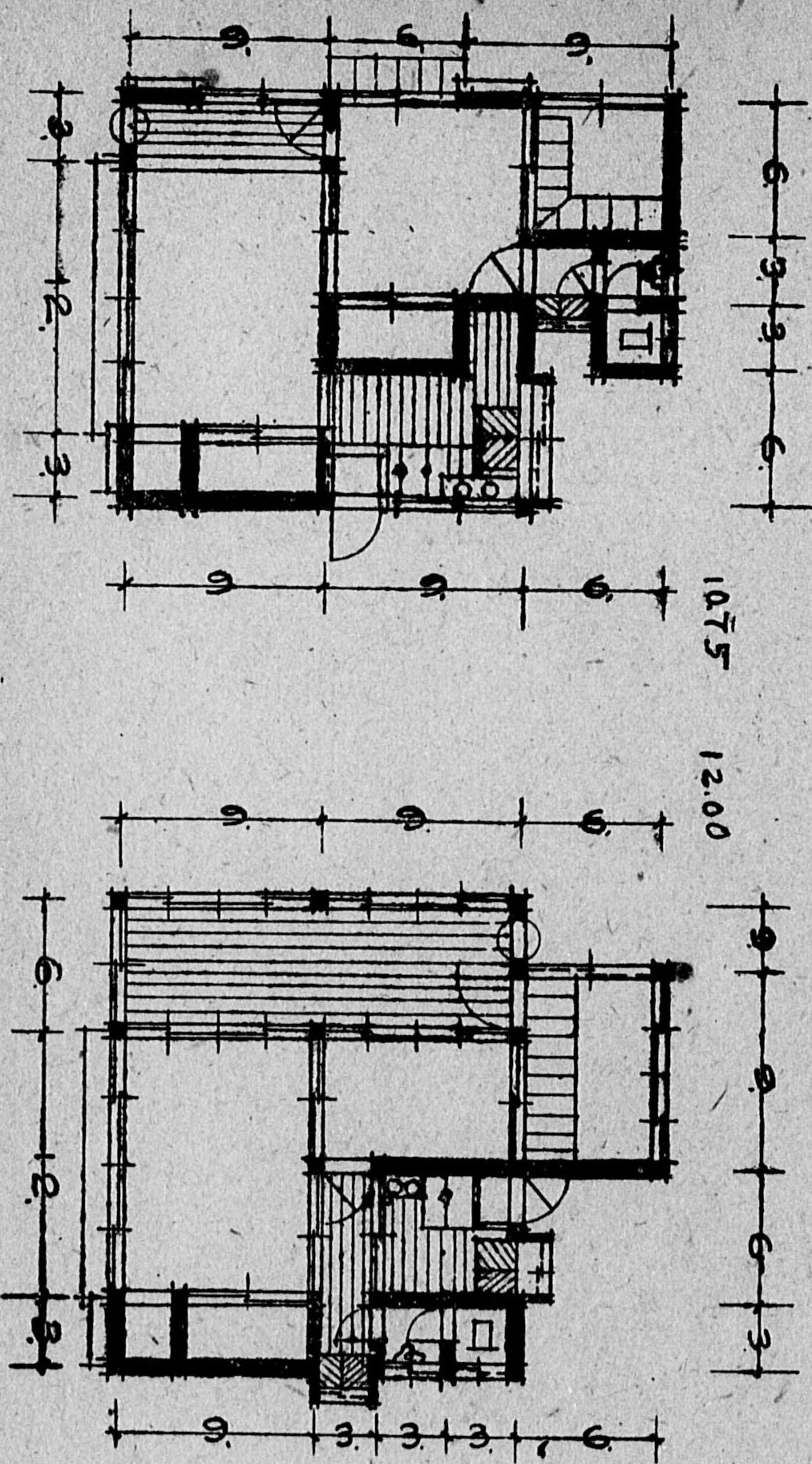
建築費 五萬三千七百五拾圓

六疊、四疊半の二間

南玄關、茶の間、四疊半

39 (2)

住良い小住宅



第四拾圖の(一) 住良い小住宅

上右圖 建坪 拾貳坪七合五勺

建築費 六萬三千七百五拾圓

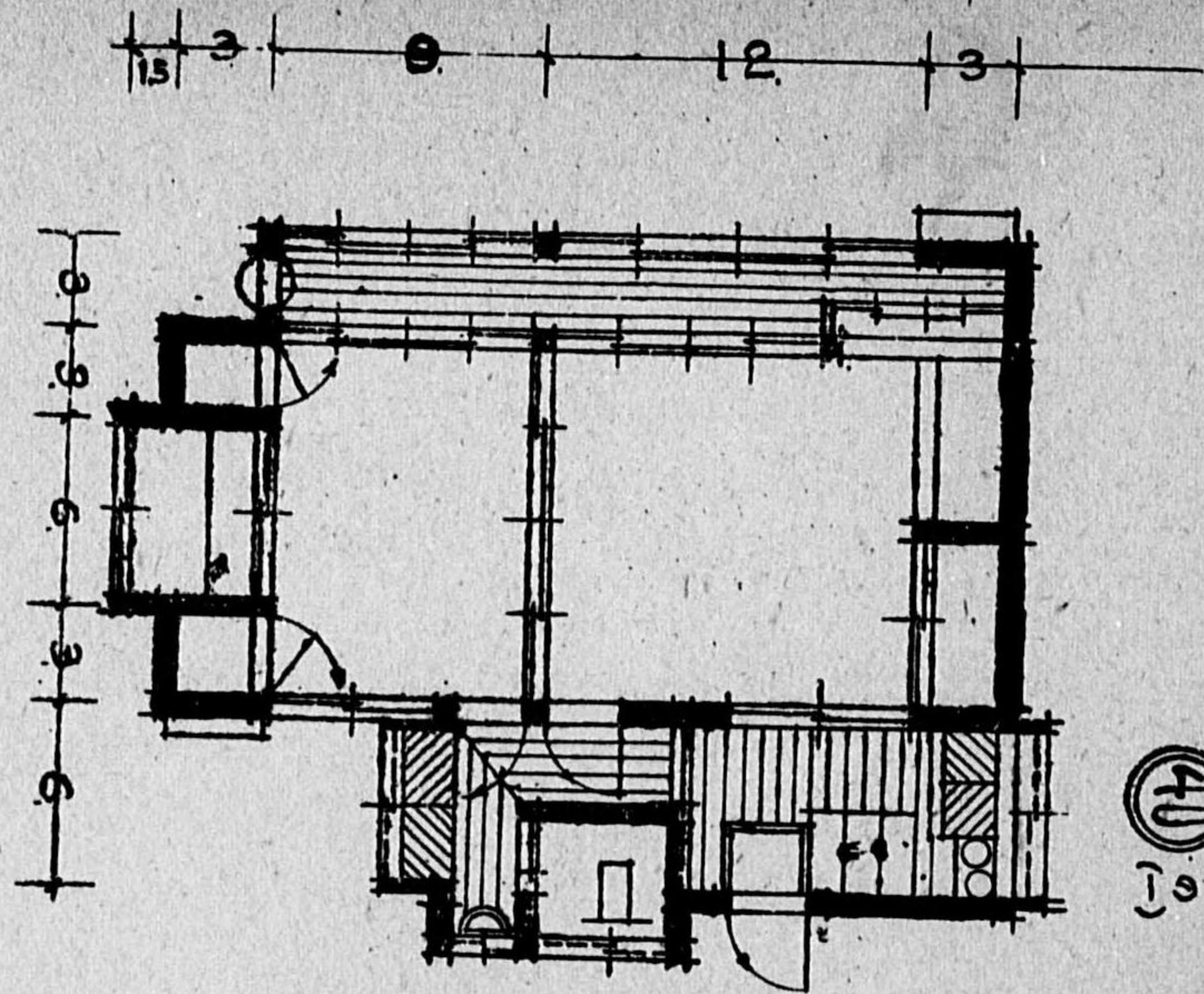
八疊一間ではあるが、南側に六尺の廣縁があるから應接間兼用に使用し得るから便利である。

上左圖 建坪 拾四坪六合二勺五

建築費 七萬三千二百圓

八疊、六疊の二間、東玄關。

六疊の玄關寄に衝立でも置けば、廊下がなくとも玄關から部屋内部が見透しにならないから茶の間に使つても差支へがない。八疊との仕切を外せば、廣い座敷ともなる。

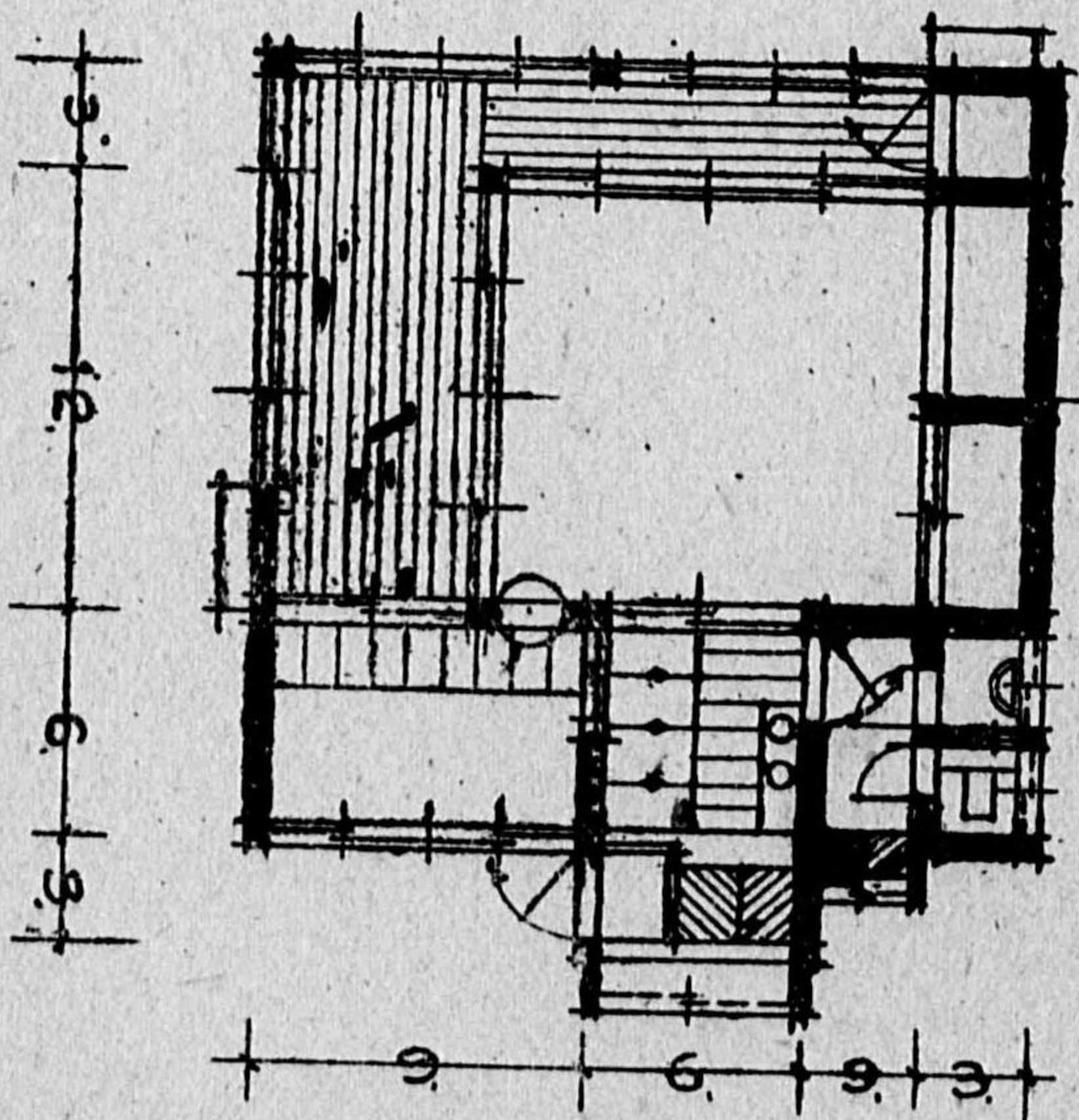


(40) (1)

住良い小住宅

(41) 14.625

(42) 12.75



第四拾圖の(二) 住良い小住宅

下右圖 建坪 拾四坪二合五勺

建築費 七萬一千二百五拾圓

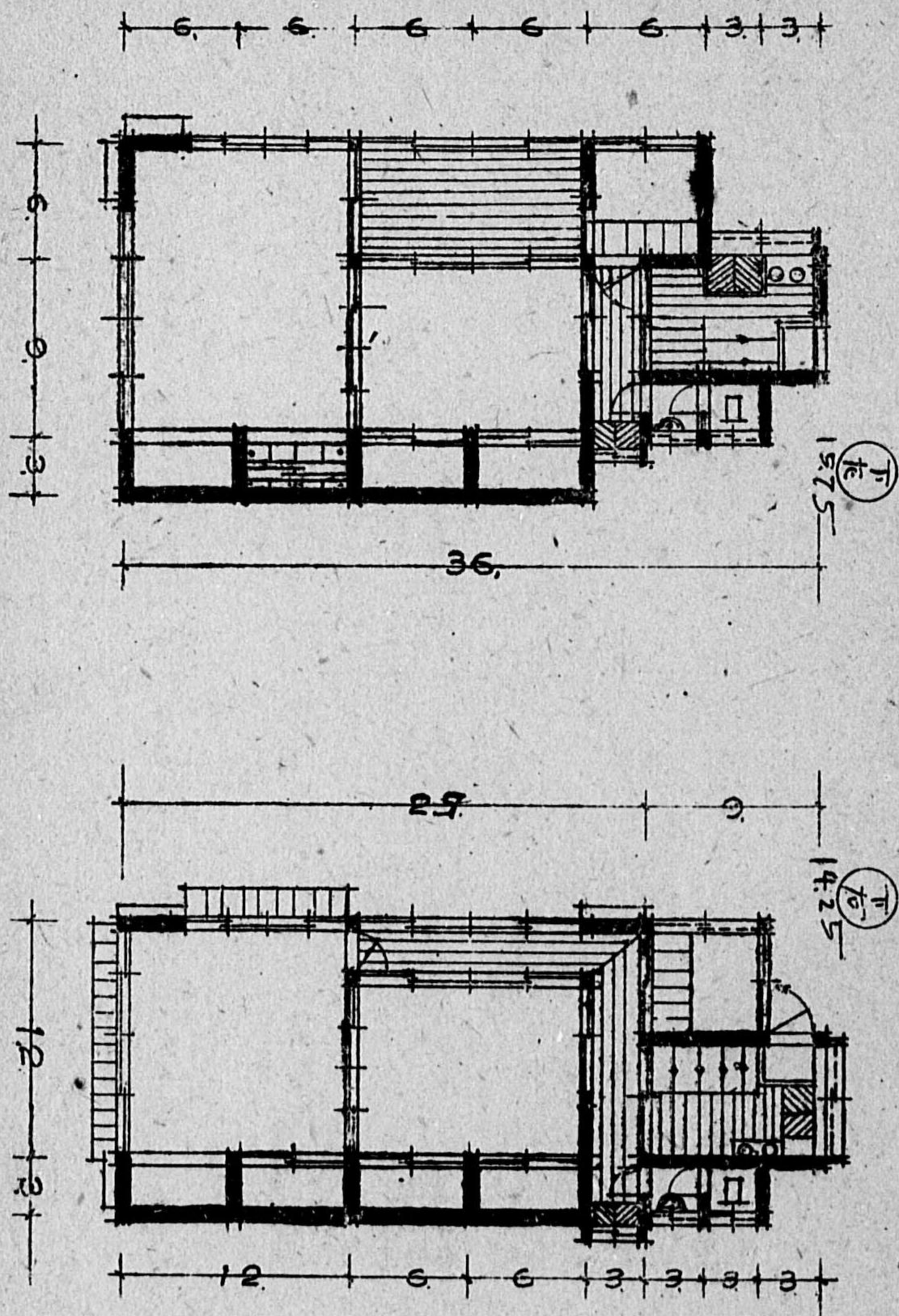
八疊、六疊の二間、西玄關、南高窓

八疊の東側と南側を濡縁造りとしたのは、坪數と建築費との節約の爲めである。

下左圖 建坪 拾五坪七合五勺

建築費 七萬八千七百五拾圓

十疊、六疊の二間、椽側は六疊の廣縁は應接室兼用で僅一疊半の中廊下がある丈で、臺所場便所の兩方に通ひ得るから便利であると同時に僅な坪數でもつて住が出来上る。



④⑩ 住良い小住宅

第四拾一圖の(一)

戰災復興郵便局舎圖

透視圖
平面圖
建圖

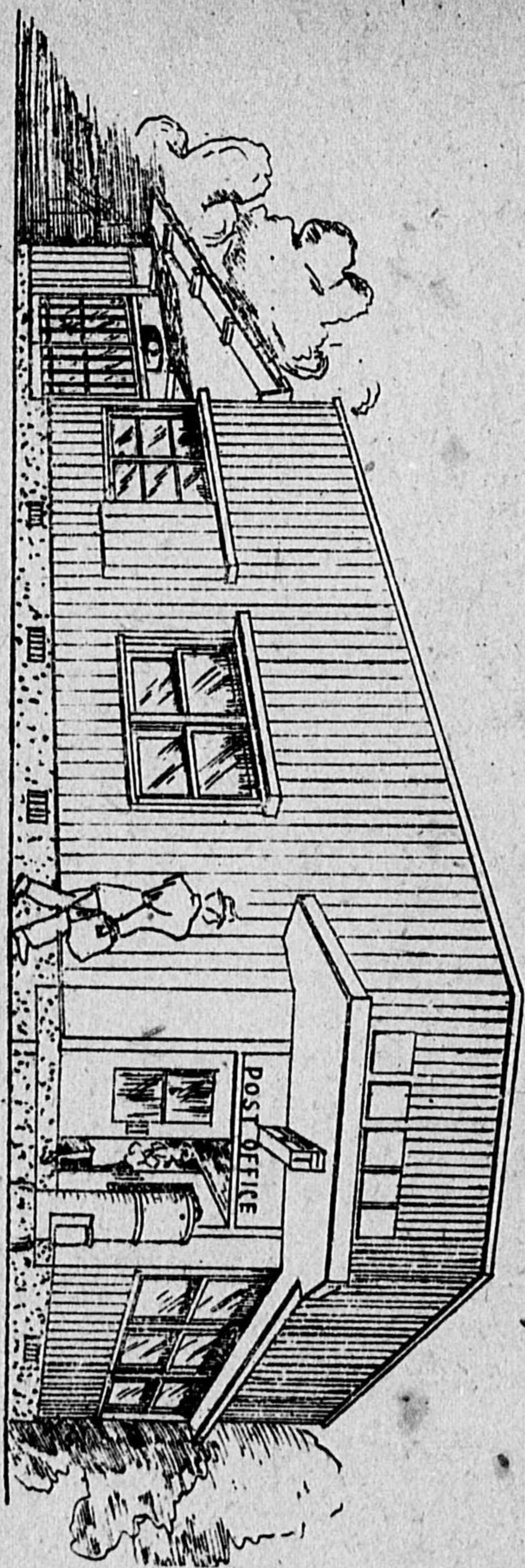
「本書で自分を紹介する事は如何と思ふが、實は自分は永い間教壇生活と建築方面の實社會の指導者として、尙ほ遞信省關係の役人をやつて居つた經驗から、終戦と同時に漸く郵便局舎の復興も芽生て來たので、局舎設計の相談が増して來た中には舊友の設計圖を、私しの元へ持つて來て研究するものもあつたので、其の中の一部と自分の草案とを以下紹介する事とする。

第四十一圖の(一)は透視圖、第四十一圖の(二)平面圖、第四十圖の(三)建圖である。此建物は十字路の角に建られる局舎で、本圖の設計は局舎許りでなく、局長家族も居住し得る様考案したのであるから、一舉兩得である。特に今日の様に物騒な時節には最も理想的やり方である。

建坪二十四坪二合五勺平家建である。尙ほ將來増築又は副業的商賣をも考慮して設計したのである。
建築費、約十萬圓内外。

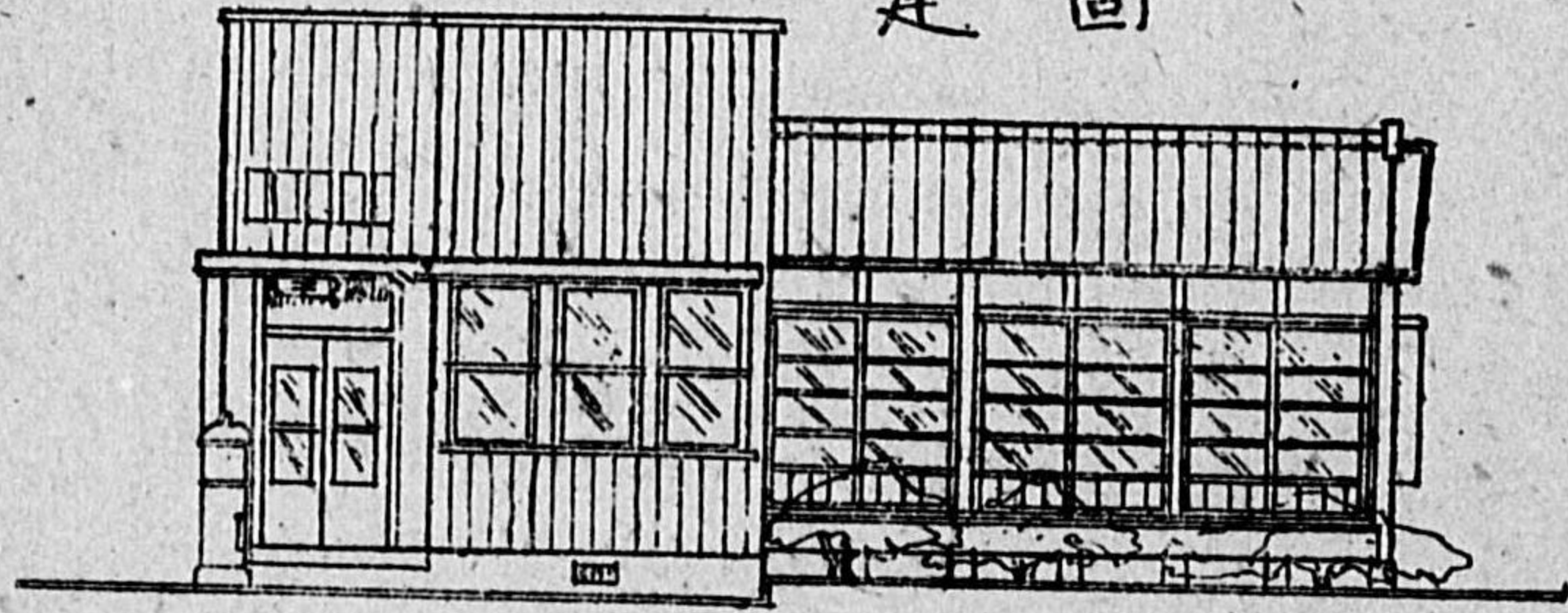
④ 戰災復興郵便局舎圖

透視圖

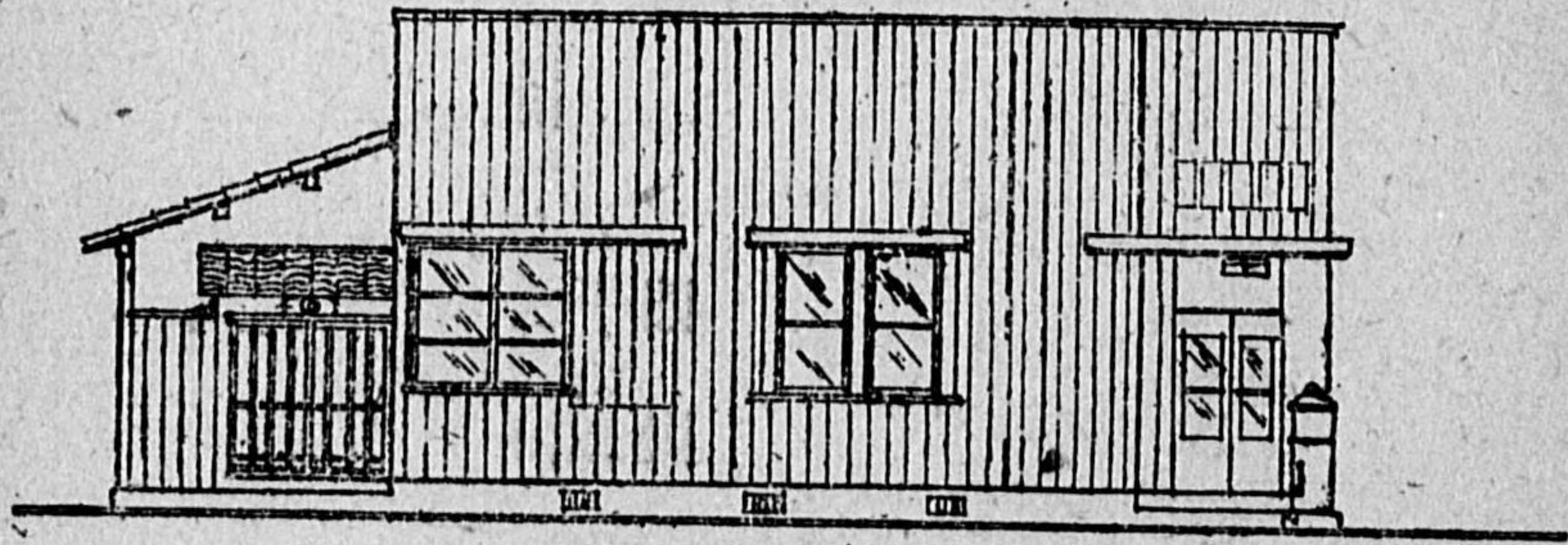


④：戰災復興郵便局舍

建 面



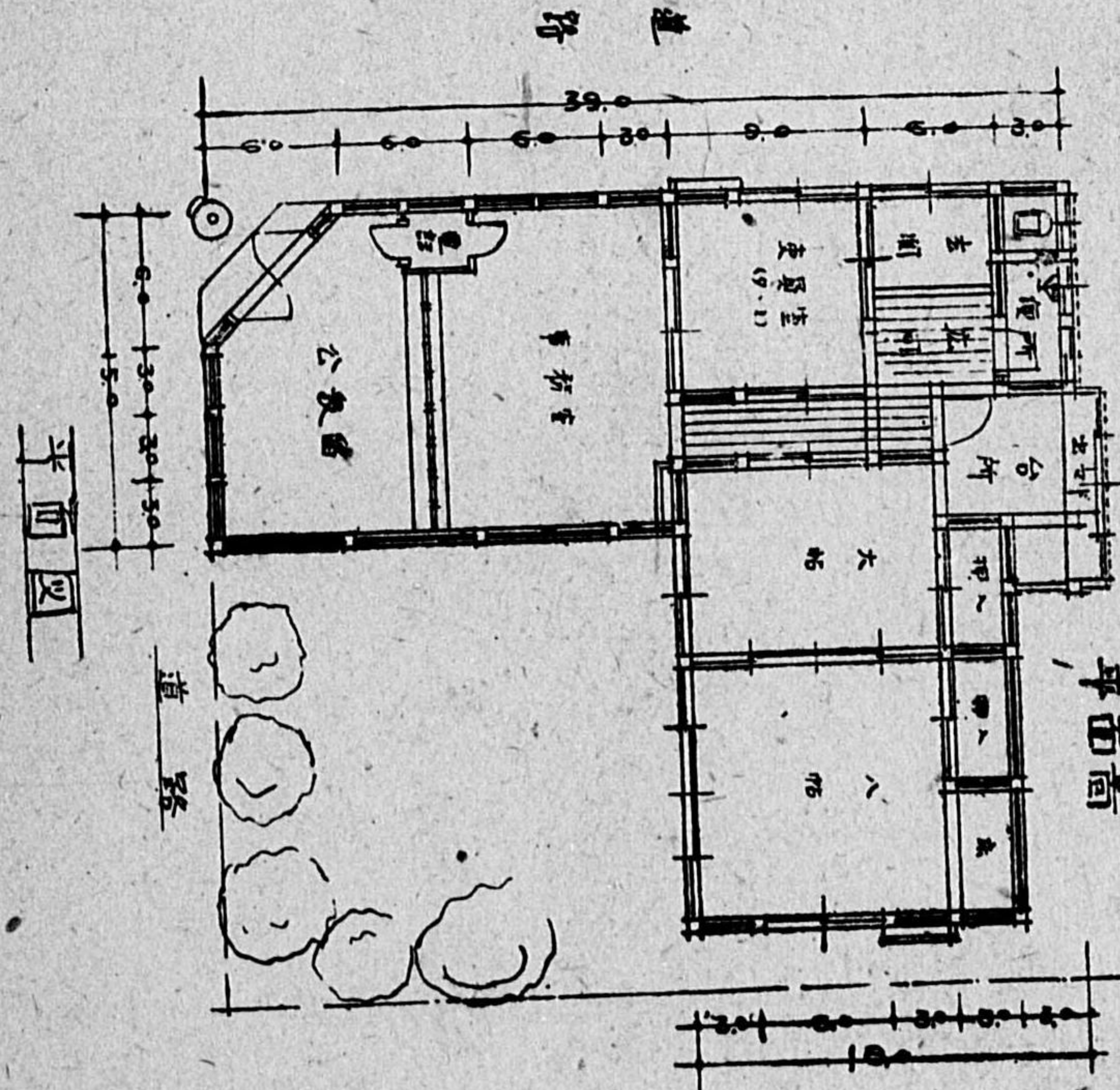
南面圖



西面圖

④：戰災復興郵便局舍

平 面 圖



第四十二圖の(一) 戦災復興郵便局舎透視圖
 の(二) 同 平面圖
 の(三) 同 建圖

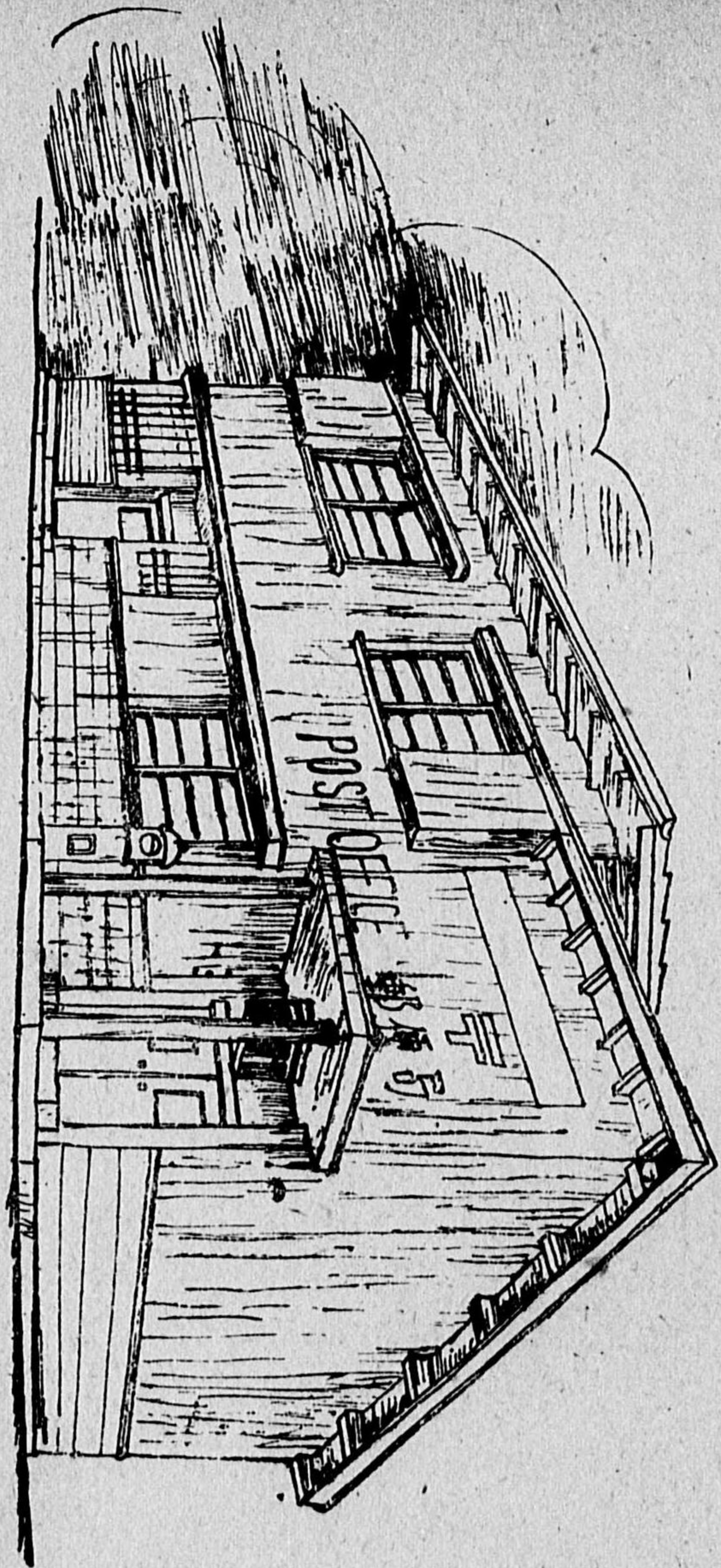
建坪 拾三坪七合五勺 階上八坪七合五勺

延坪 二十二坪五合

建築費 約拾貳萬圓

階下奥の四疊半は宿直室、階上は局長の住として設計したのである。

④ 戦災復興郵便局舎



第四十三圖 郵便局舎設計圖貳種

左圖 建坪 拾五坪五合

建築費 七萬七千五百圓

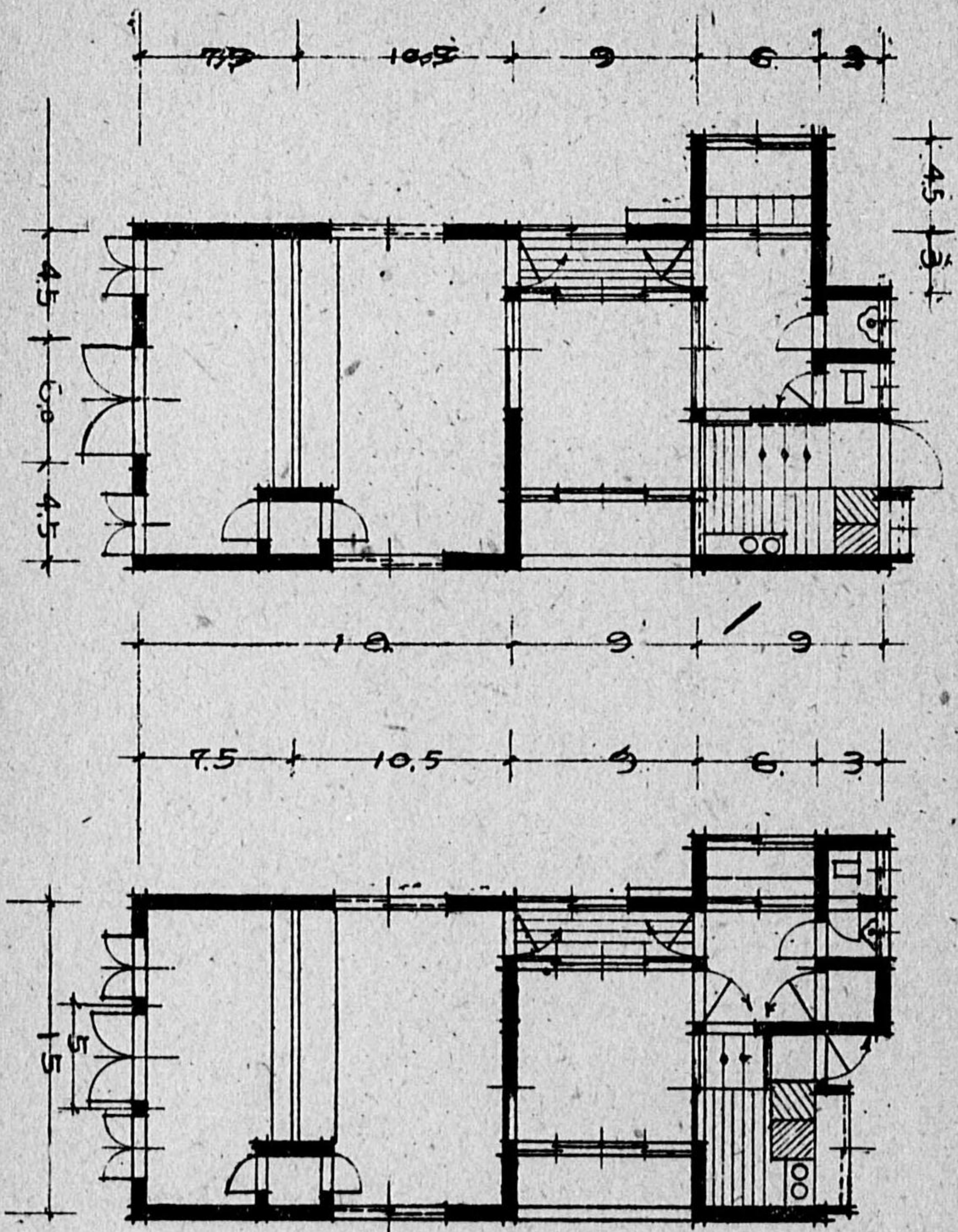
四疊半、三疊の二間局長私宅迄とすれば、少々間敷が少ないが戦災應急局舎とすれば我慢も出来る

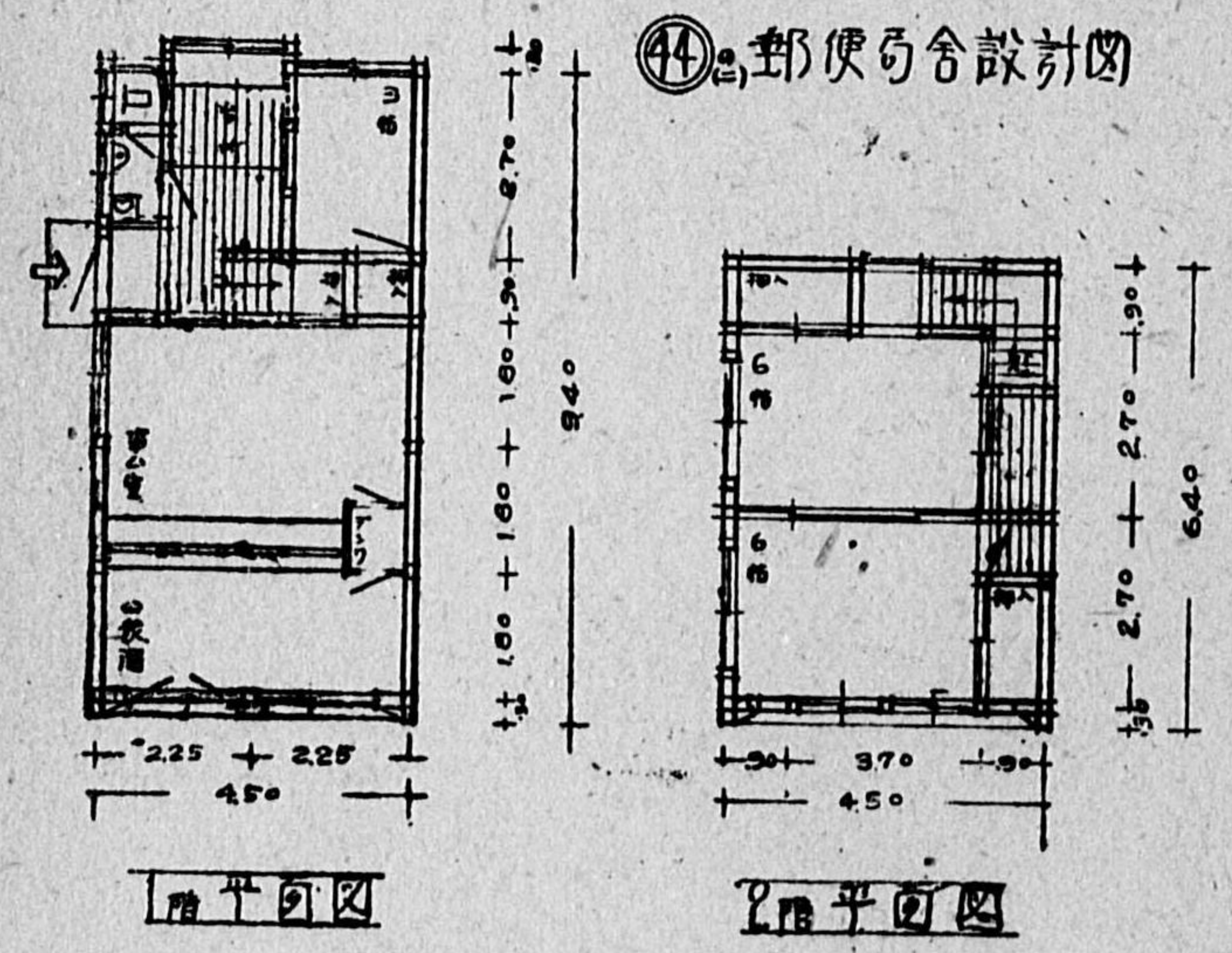
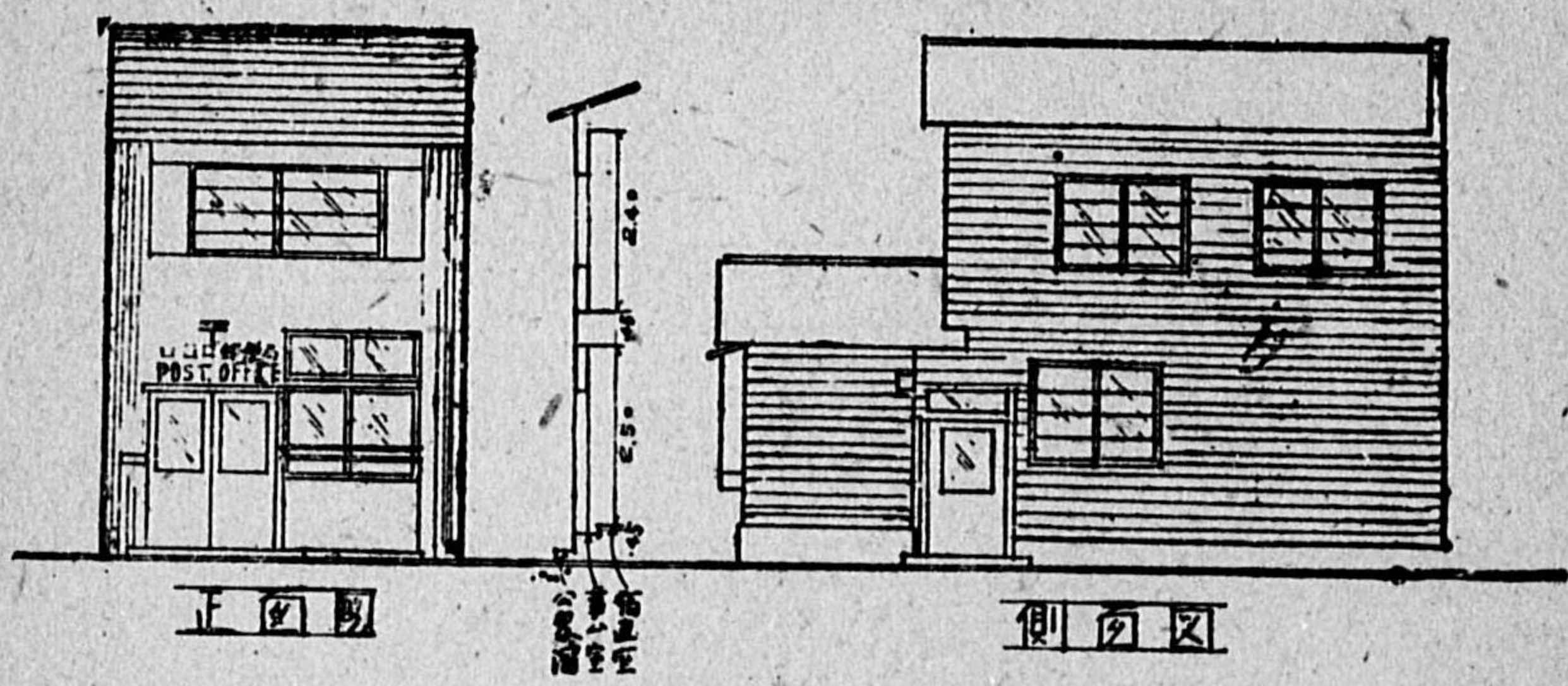
右圖 建坪 拾五坪

建築費 七萬五千圓

疊の間は四疊半の二疊、玄關は狭いが二疊でも押入付であるから、使用上便利である

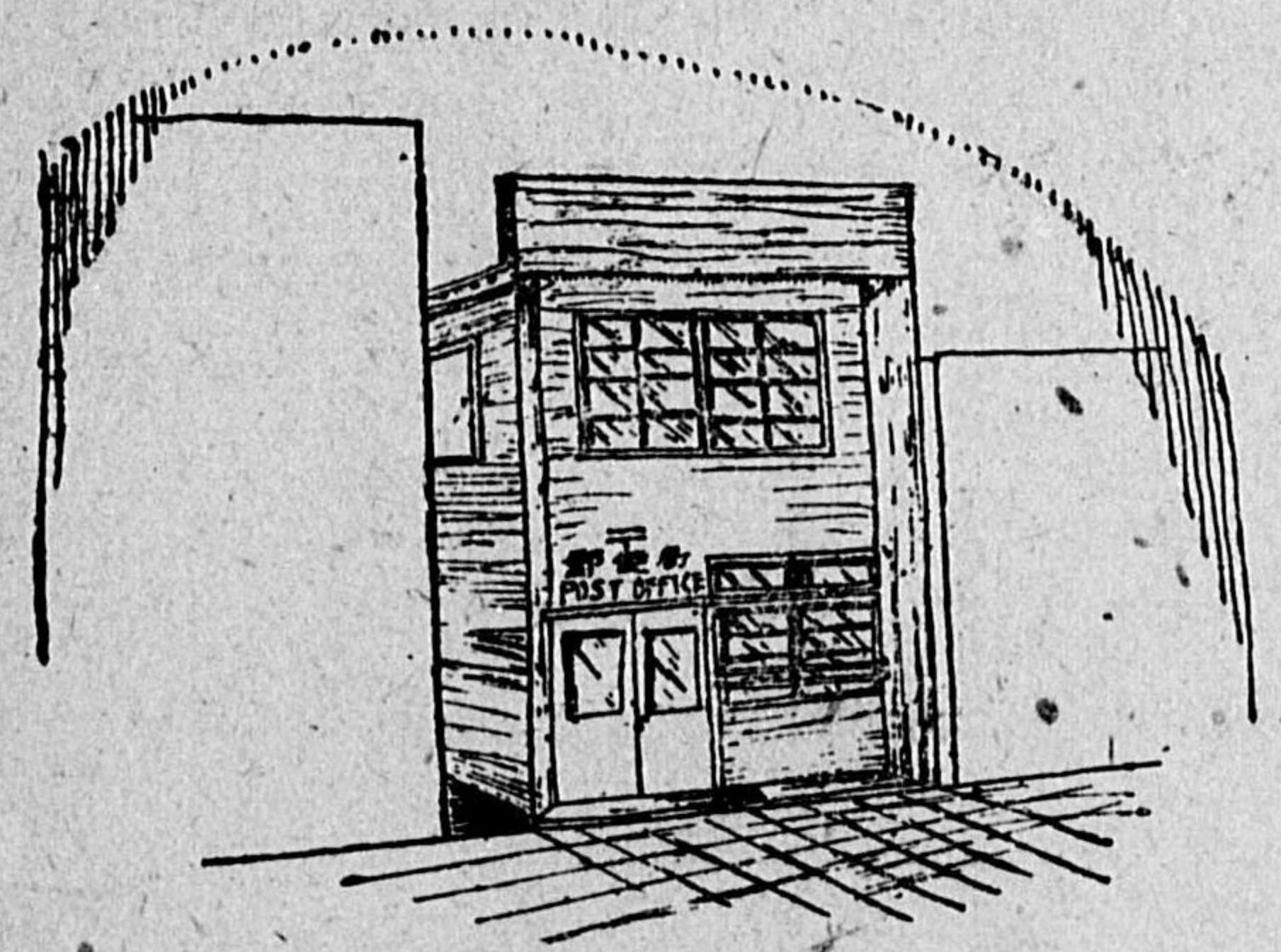
④3 郵便局舎設計圖 貳種





④④ 郵便局舎設計図

④④ 戦災復興郵便局舎



第四十四圖 戦災復興郵便局舎

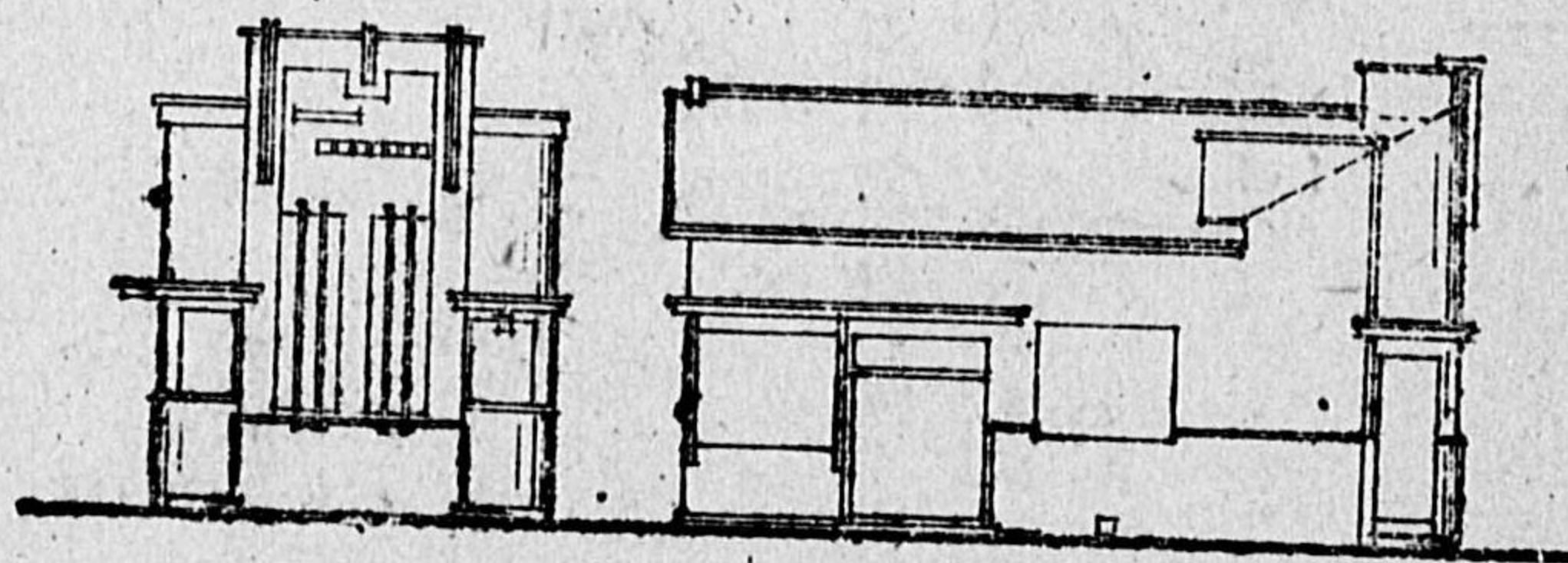
建坪 拾貳坪八合餘
 階上 八坪七合五勺
 延坪 二十一坪五合五勺餘
 階下奥三疊は食堂兼宿直室階上は局長舎宅として設計したのである。

⑮ 郵便局舎設計案

12.00坪

正面図

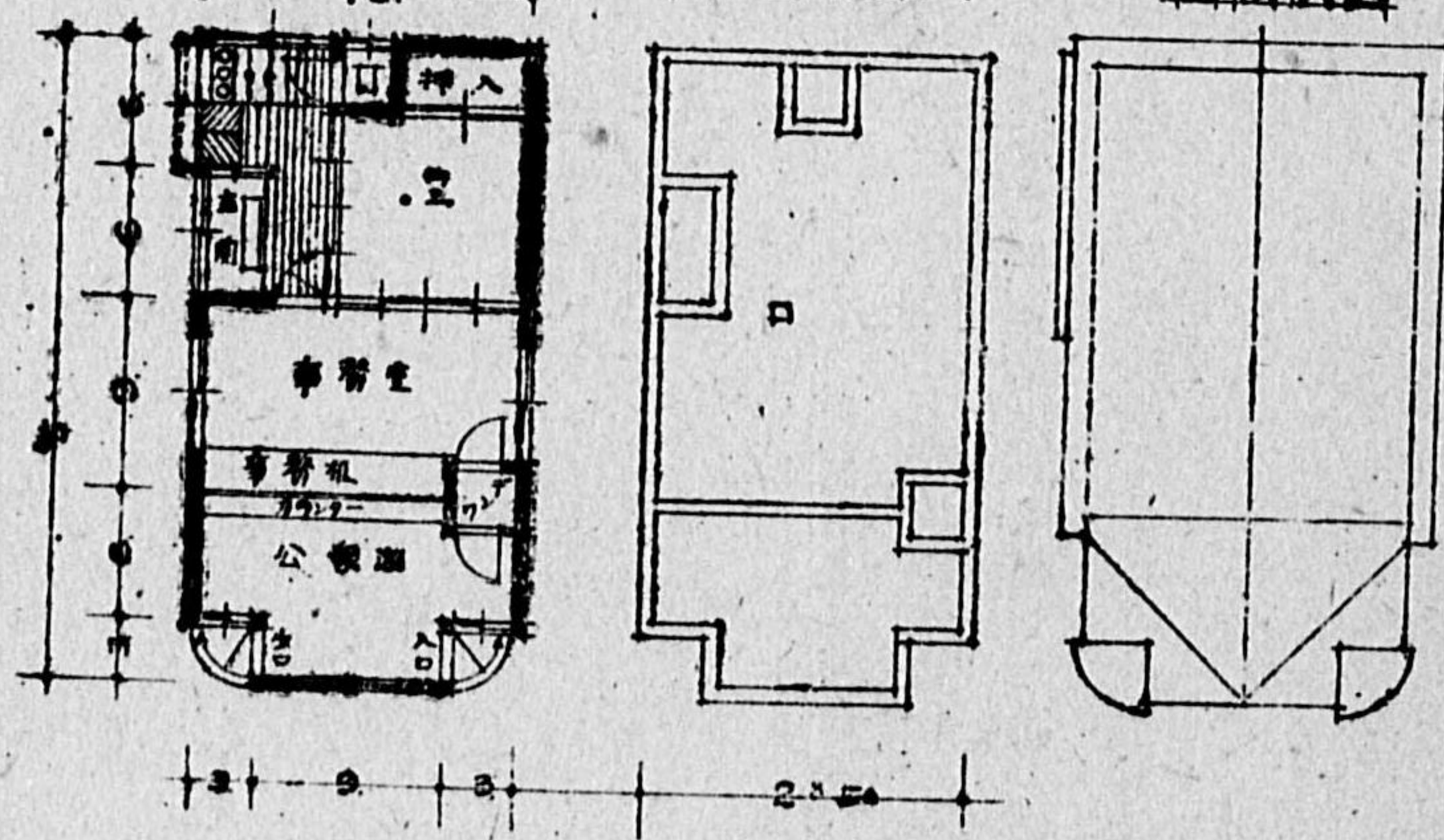
側面図



平面図

裏面図

裏面図

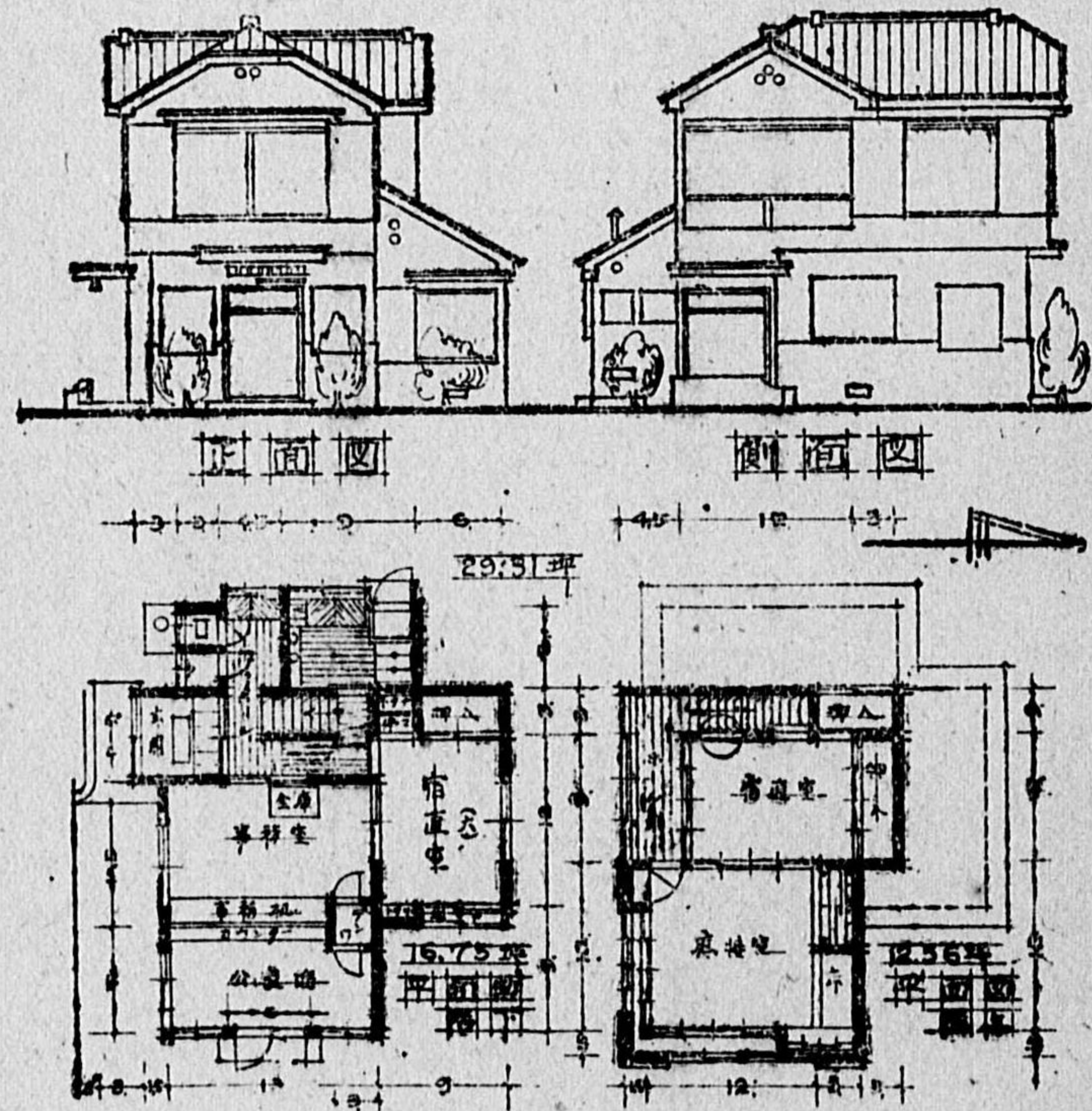


第四十五圖 郵便局舎設計圖

建坪 拾貳坪
建築費 約五萬圓

最小限度の局舎の設計圖である。
帝都の様に地上權の高價な所の復興局舎としては理想的な設計圖である。
局長住宅は別に増築するか、又は郊外の廣い私宅から通勤する様計畫されたものである。

④ 郵便局舎設計圖



第四十六圖 郵便局舎設計圖

建坪 拾六坪七合五勺 階上十二坪五合六勺

延坪 二十九坪三合一勺

建築費 約拾貳萬圓

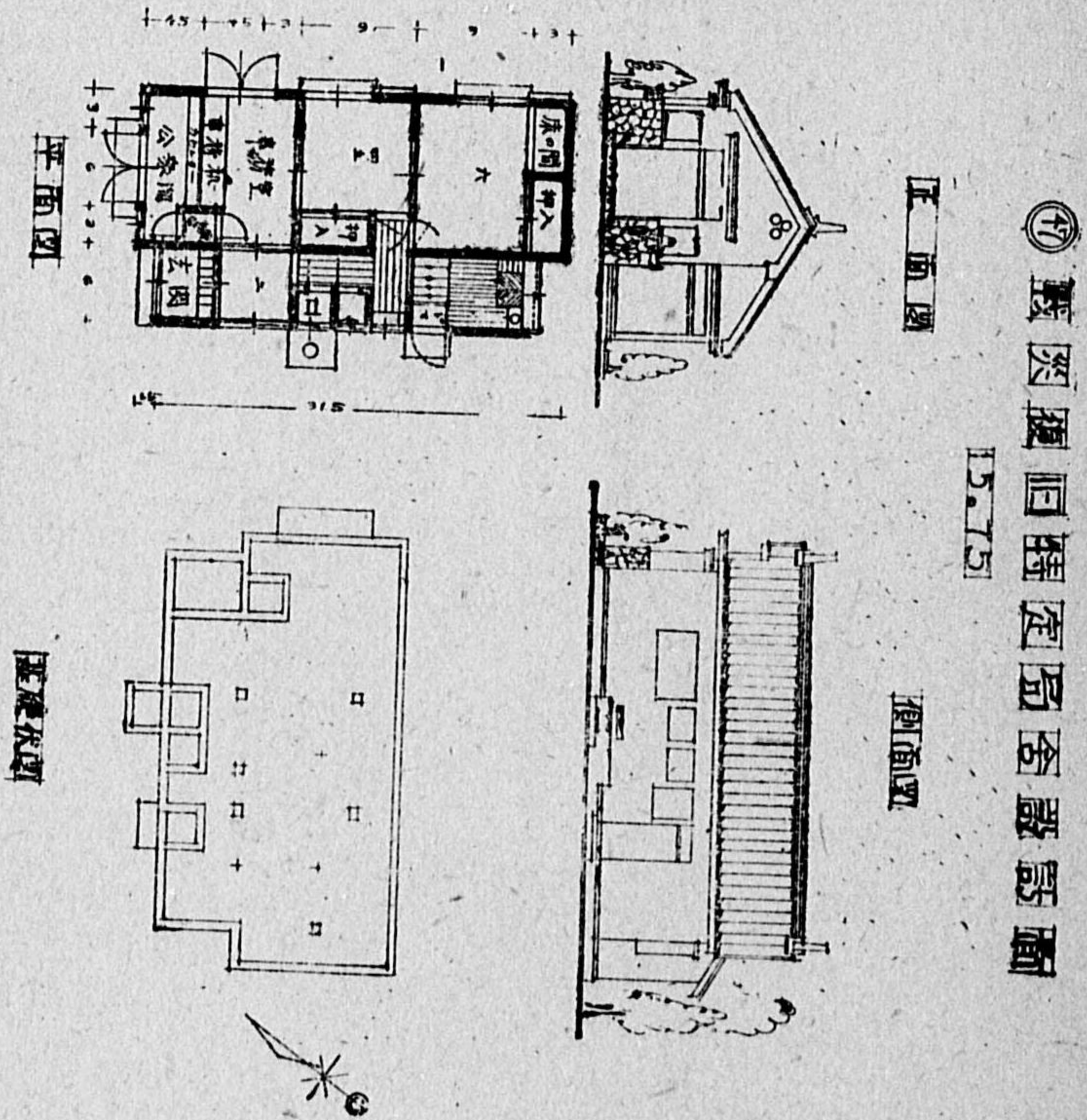
二階建 局長住宅を考慮した設計圖である。

帝都でも戦災前は特定局の局舎としては此の位の坪数は普通であつた。今日は建物の坪数の制限やら物資不足の折から思ふ様な建築は困難ではあるが、豫算さへ許せば本圖は事務所兼用の設計圖であるから使用上便利である。建築制限も普通の住宅建築とは違ふのである。

第四十七圖 戦災復舊特定郵便局舎設計圖

建坪 拾五坪七合五勺
 建築費 約 七 萬 圓

平家建、窓を言へば公衆溜は狹隘であるが應急復舊の事務所としては仕方がない。礎の間が四疊半と六疊の二間あるから、局長の住ひをもどうやら兼ねる事が出来る。



第四十八圖の(一) 郵便局舎設計圖

1圖 建坪 拾參坪二合五勺

建築費 六萬六千二百五拾圓

平家建、疊の間は四疊半三疊の二間

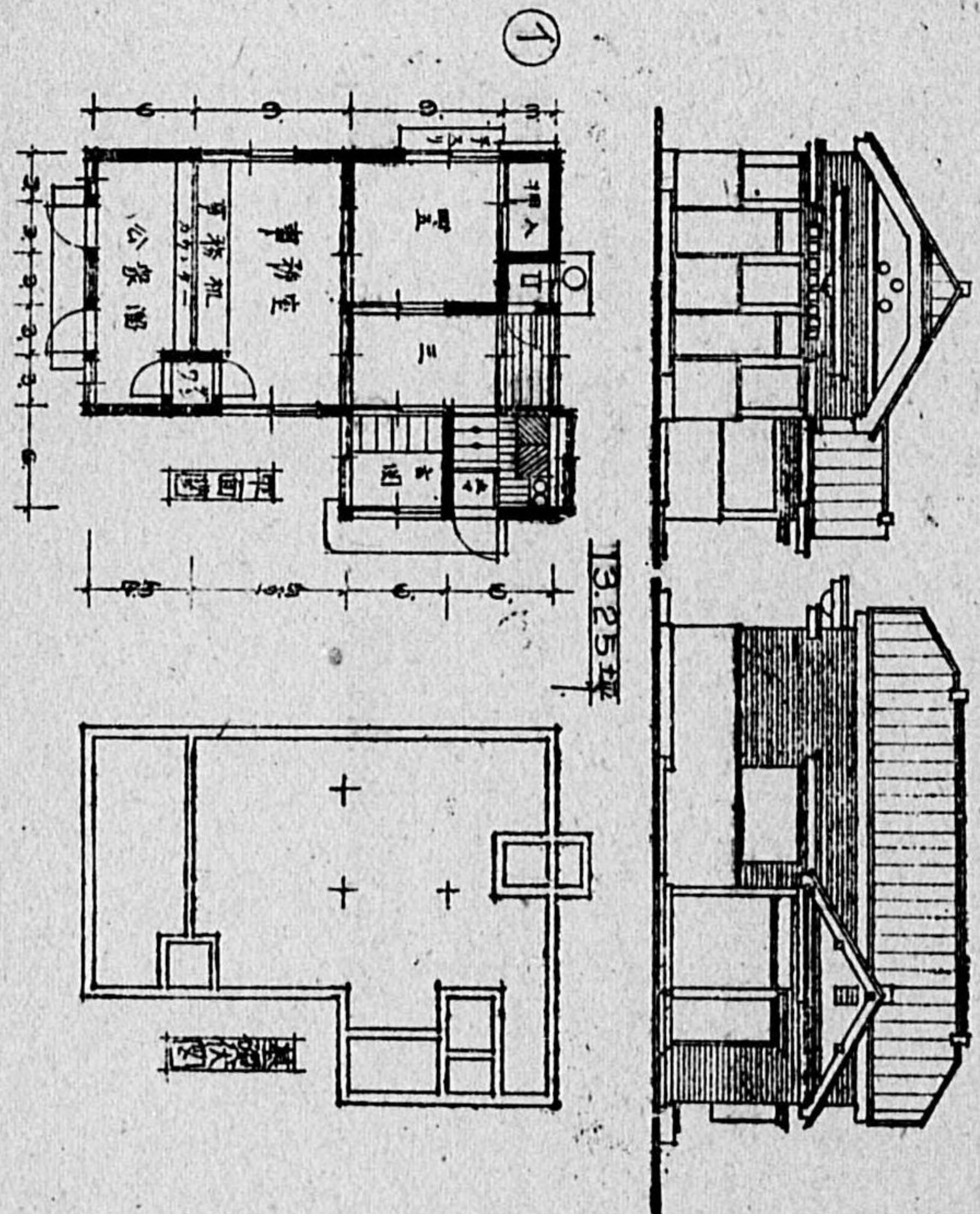
局長の住は別にある場合の設計圖である。

便所は一穴であるのが、物足らないが、帝都の下町方面の應急復舊局舎としては充分である。

④ 郵便局舎設計圖

正面圖

側面圖



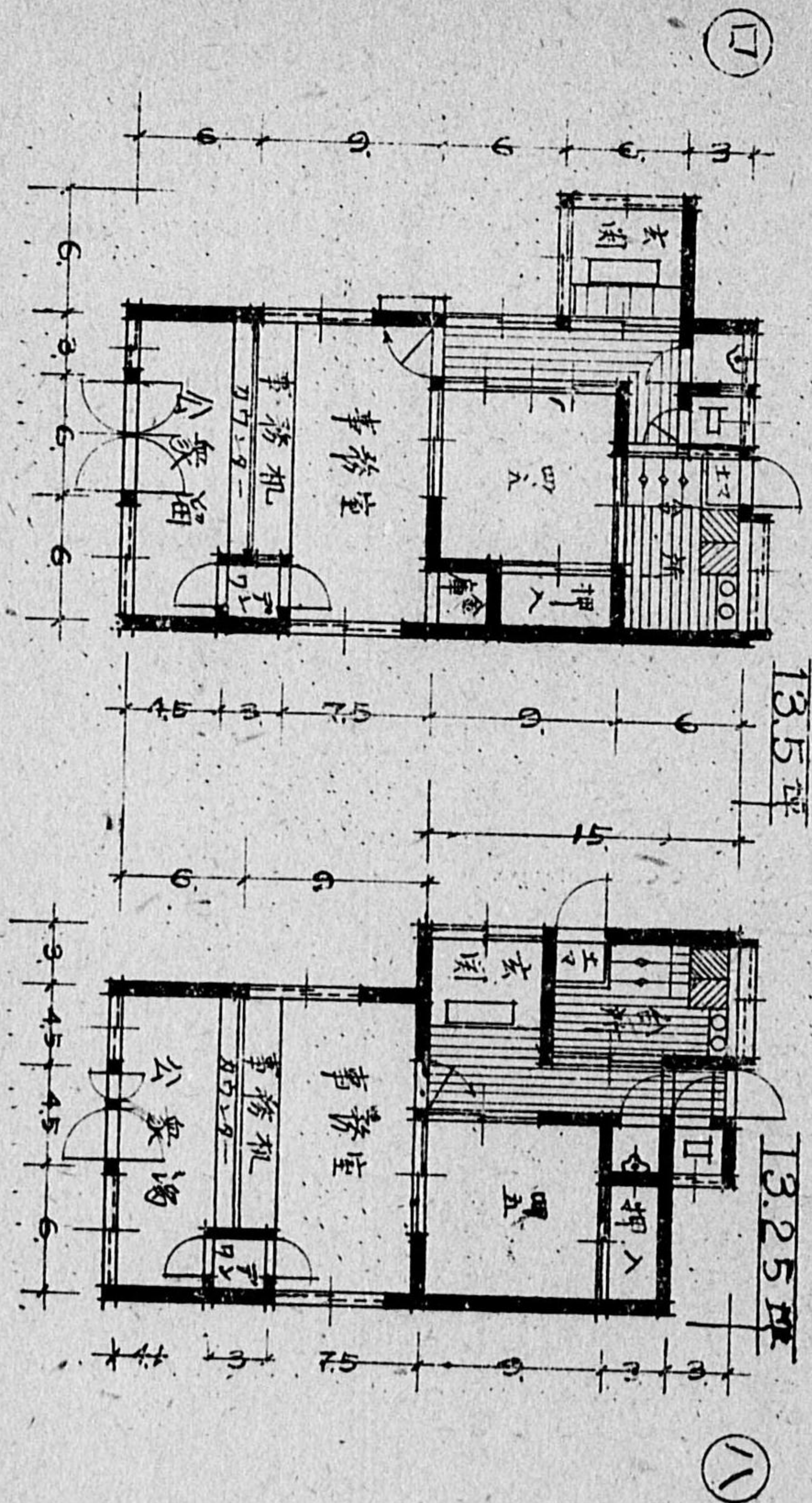
第四十八圖の(二) 郵便局舎設計圖

口圖及ハ圖共に 建坪 拾參坪二合五勺

建築費 六萬六千二百五拾圓

ハ圖便所前の廊下外部への出口は、將來廊下傳へに局長私宅へ連絡し得る様設計され
たのである。

48(二) 郵便局舎設計圖



第四十九圖 郵便局舎設計圖

A 建坪 拾六坪二合五勺

建築費 八萬壹千二百五拾圓

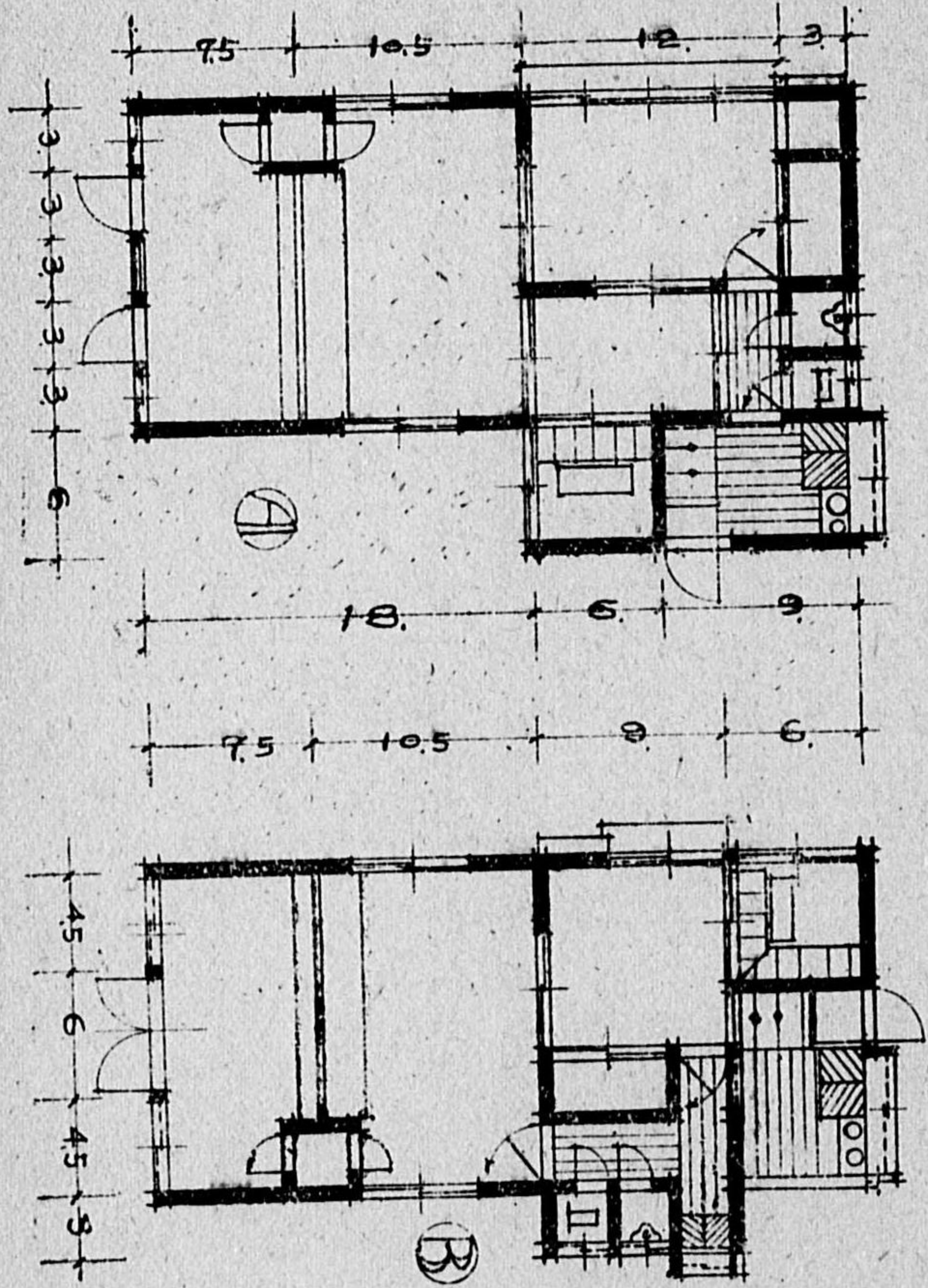
六樓、三樓の二間が疊敷の部屋であるから、小家族の局長であれば住
 いも兼ねる事が出来る。

B 建坪 拾四坪五合

建築費 七萬二千五百圓

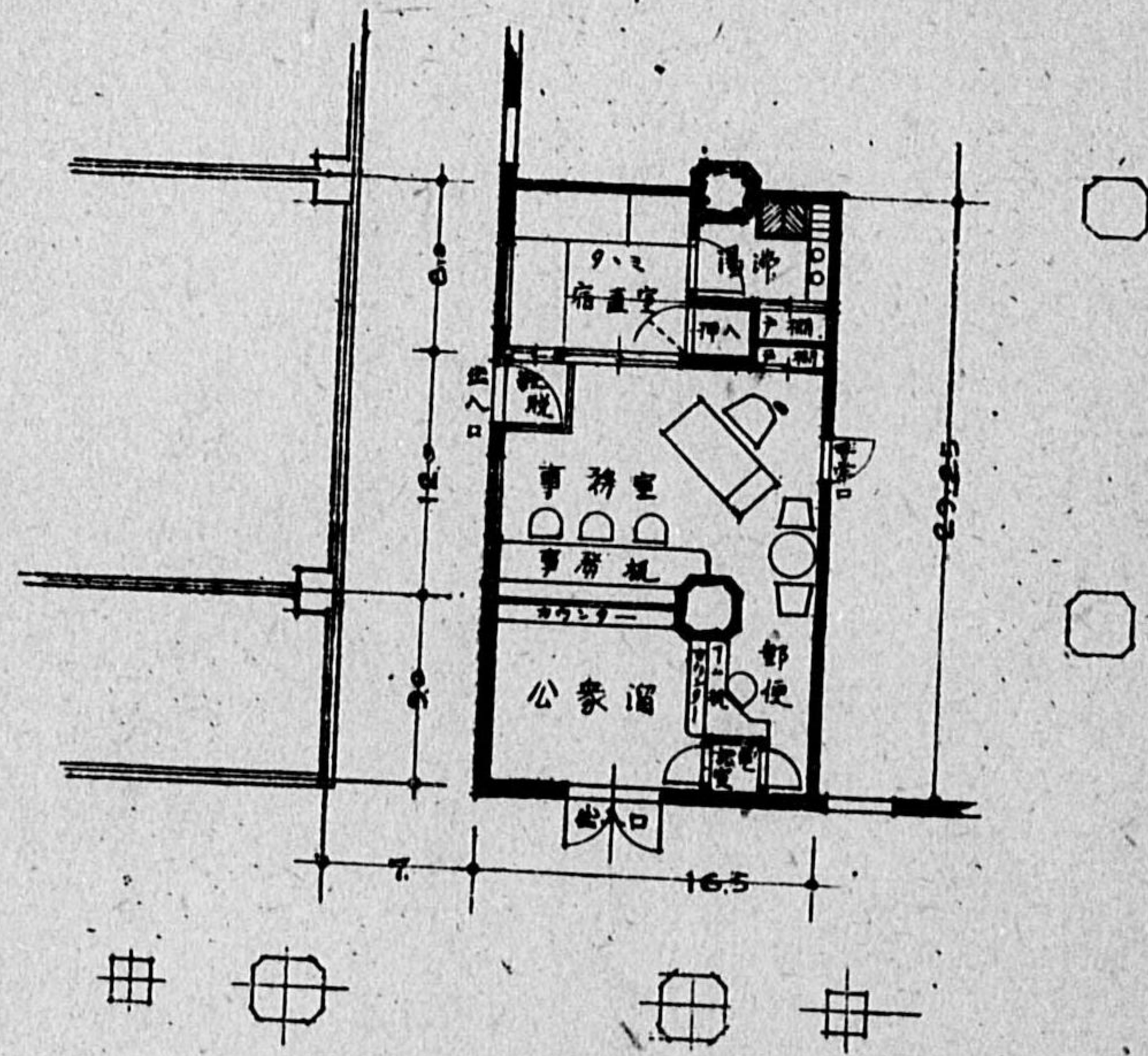
疊敷ヶ所は四樓半一間であるから、局長の住は別に考慮しなくてはならな
 5。

④ 郵便局舎設計圖



⑤〇 某ビル内の一部を局舎に改造した

平面図



13.365坪

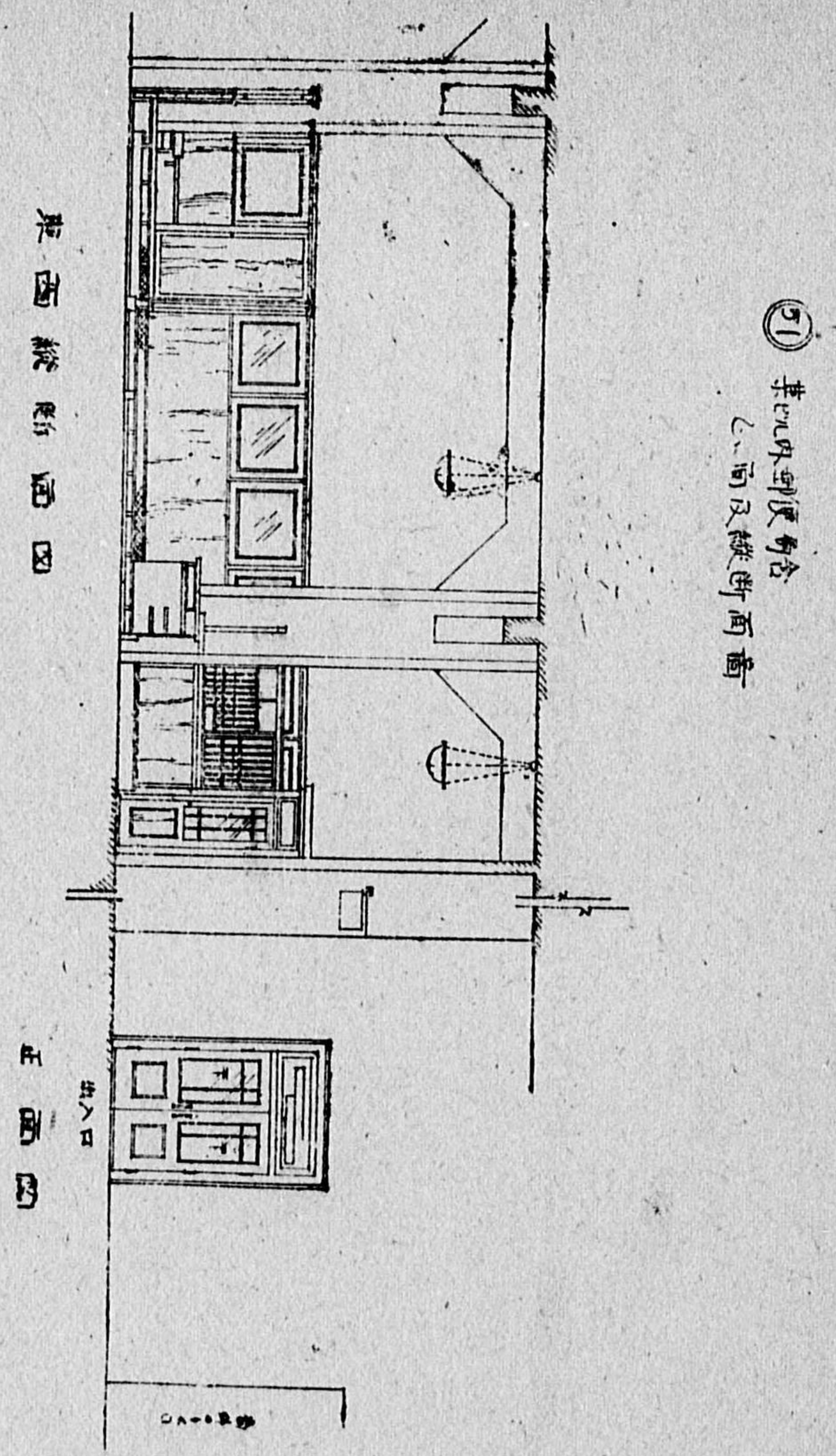
44.22 m²

第五拾圖 某ビル内の一部を局舎に改造した圖

局舎室部分、拾參坪三合六勺餘
 改造費、約五萬圓、事務机及びカウンターが造り付けとしたのである。
 宿直室は、四疊半疊敷で間仕切は檜硝子の二枚の引違、押入半分上は夜具入、下半分は金庫入れ。
 戸棚事務室向は式紙帳簿入れ湯沸場面は食器入れに造られたのである。
 天井を省略したのであるが、正面出入口は壁面を抜取り建具及び額縁を新規に加工取り付けたのである。

第五拾一圖 某ビル内郵便局舎

本圖は正面圖及び東西縦断面圖である。
 局以外の他の部屋との仕切「スクリーン」は既製品を使用した、腰はベニヤ板腰上は
 三耗厚艶消硝子の造りである。
 窓口柵には木製品、照明器具は新規に取り付けたのである。行囊の出入口は公衆電話
 室からであるが、年來其他物の多い場合は、靴脱のヶ所をも使用する事が出来るので
 ある。



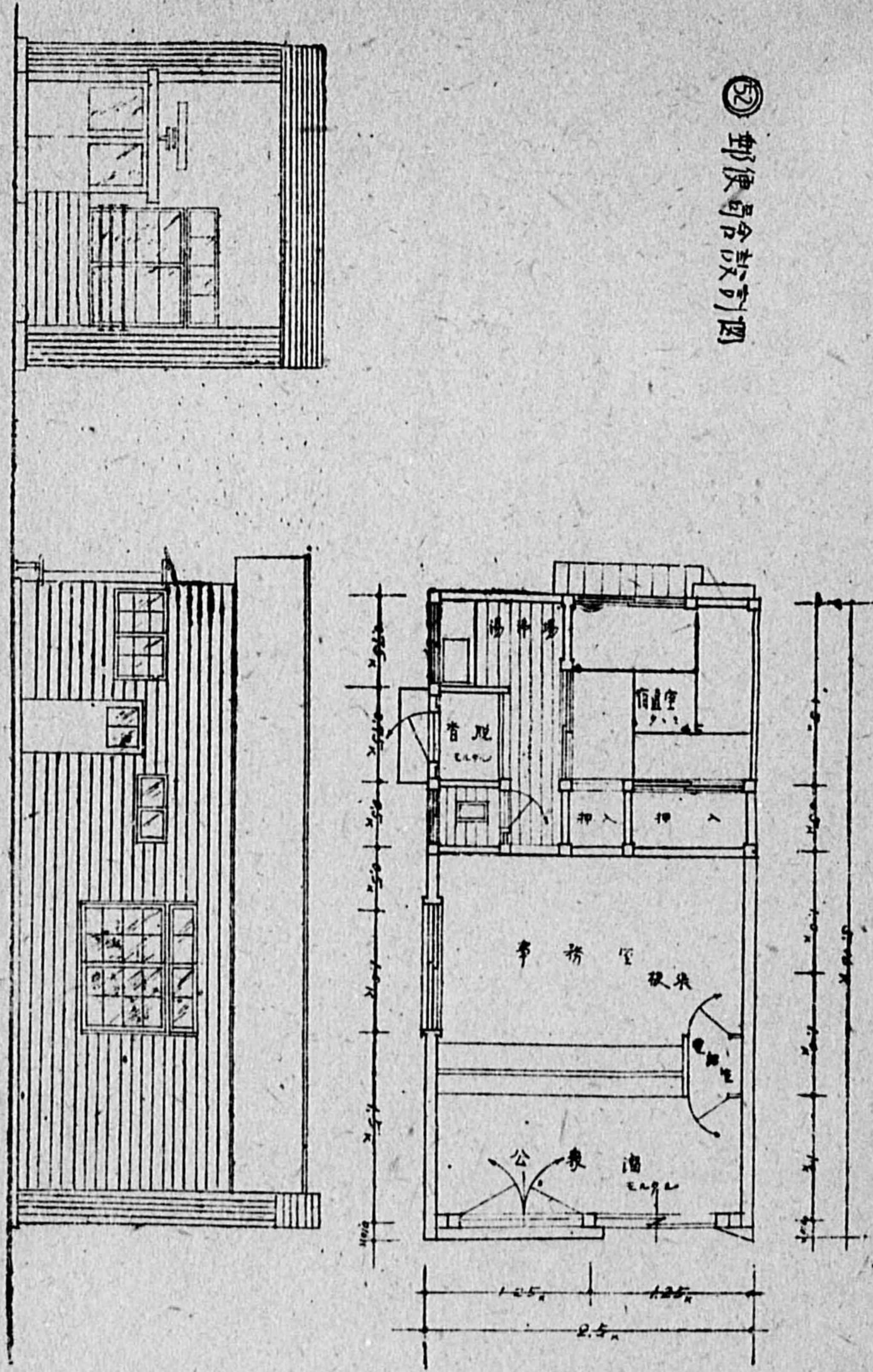
第五拾二圖 郵便局舎設計圖

建坪 拾貳坪八合、平家建

建築費 約五萬圓

宿直室四疊半、外壁下見板張、屋根鐵板葺外部全部ベニキ塗内壁腰ベニヤ板張腰上及び天井テツクス張。

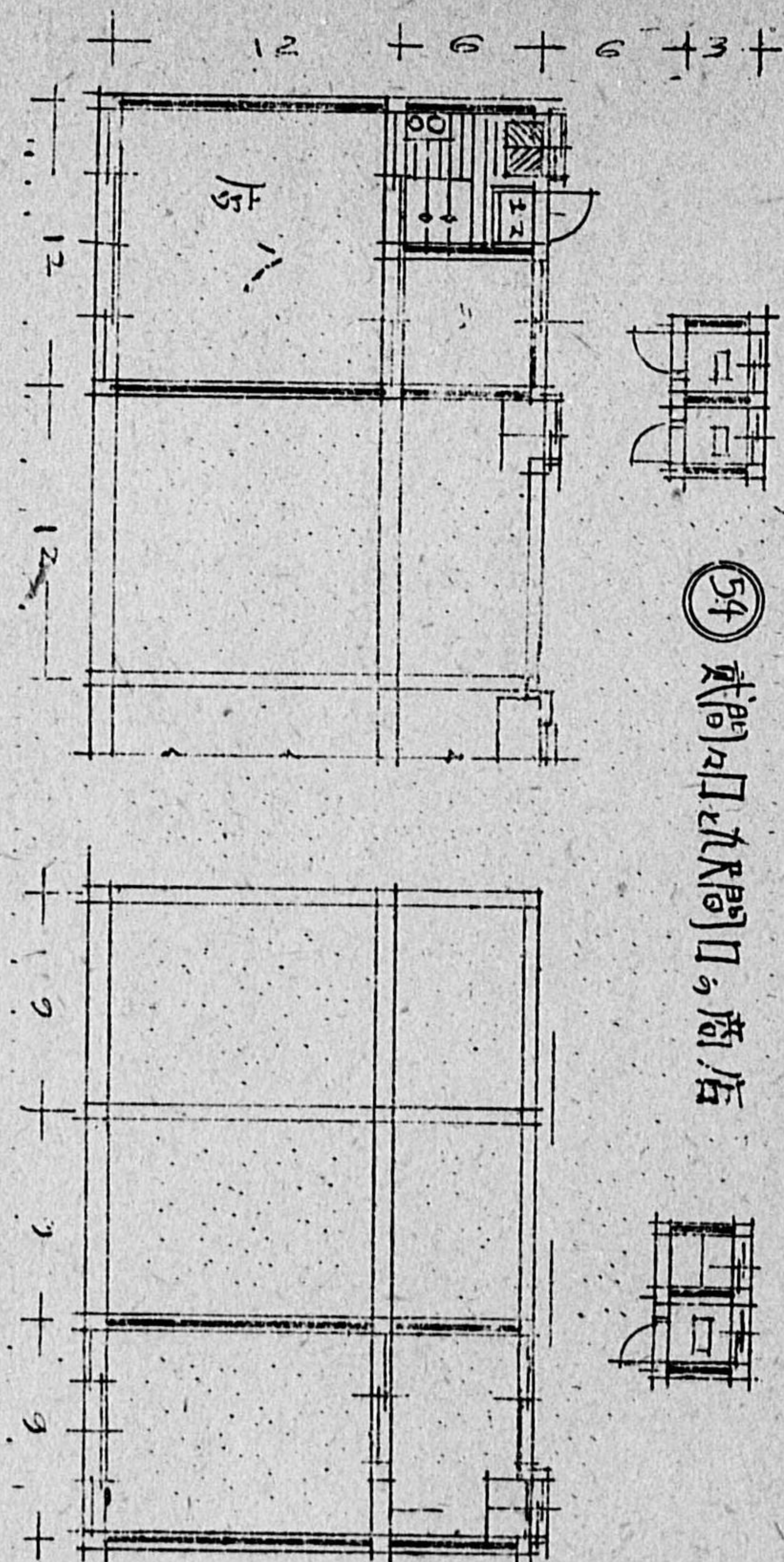
⑤ 郵便局舎設計圖



第五拾四圖 貳間々口と九尺間口の商店

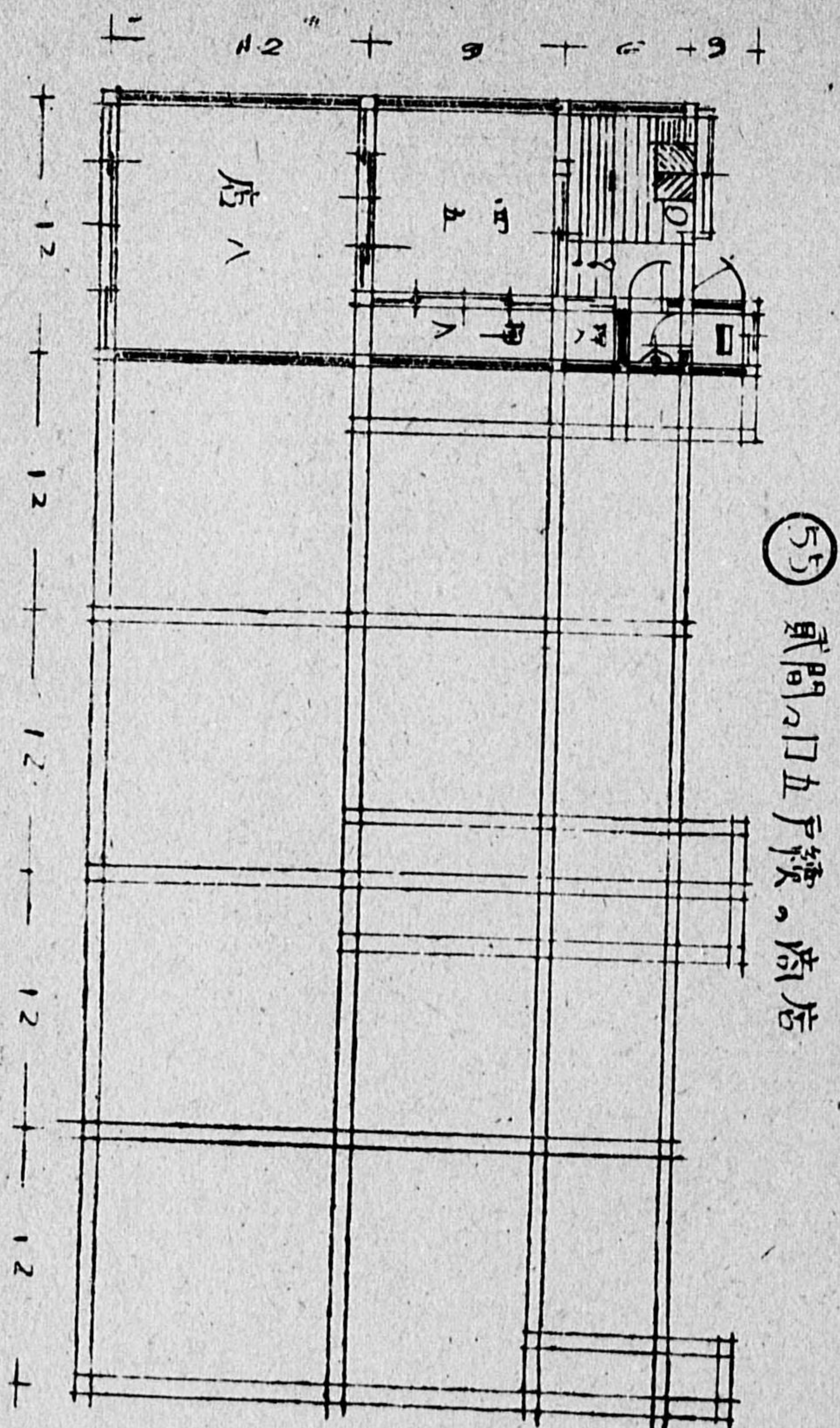
左圖は貳間間口、御店は八疊、控室は二疊、臺所は二疊。
 一戸六坪、一戸當り工費約壹萬圓。
 便所は屋外造り

右圖は一戸、間口九尺、奥行三間、四坪五合、工費約九千圓。
 便所は屋外造り。



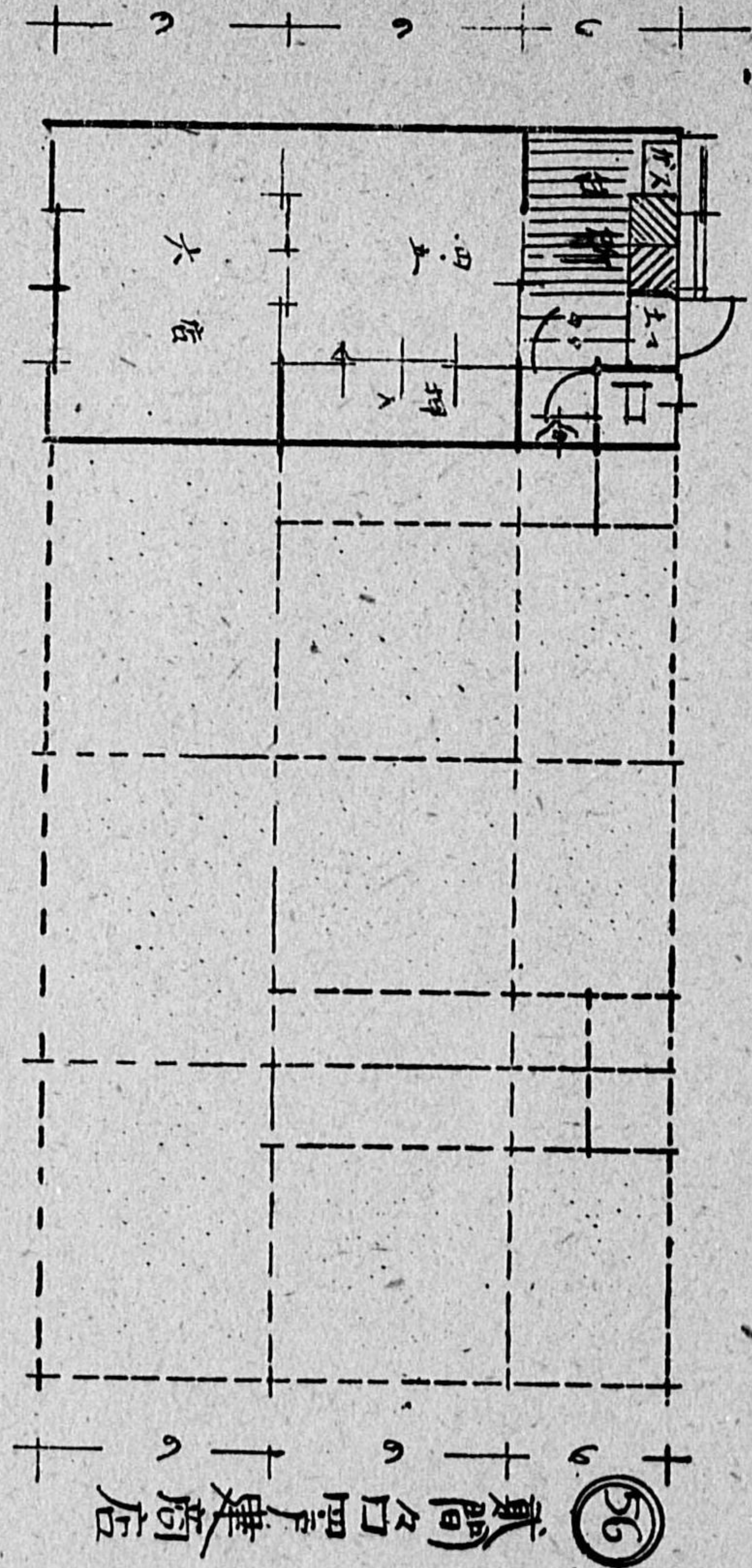
第五拾五圖 貳間々口五戸續の商店

一戸當り間口貳間、奥行四間半、九坪二合五勺
 建築費、一戸當、壹萬八千圓、店八疊、控室は四疊半
 臺所は三疊であるから住ひ兼用になる。



第五拾六圖 貳間間口四戸建商店

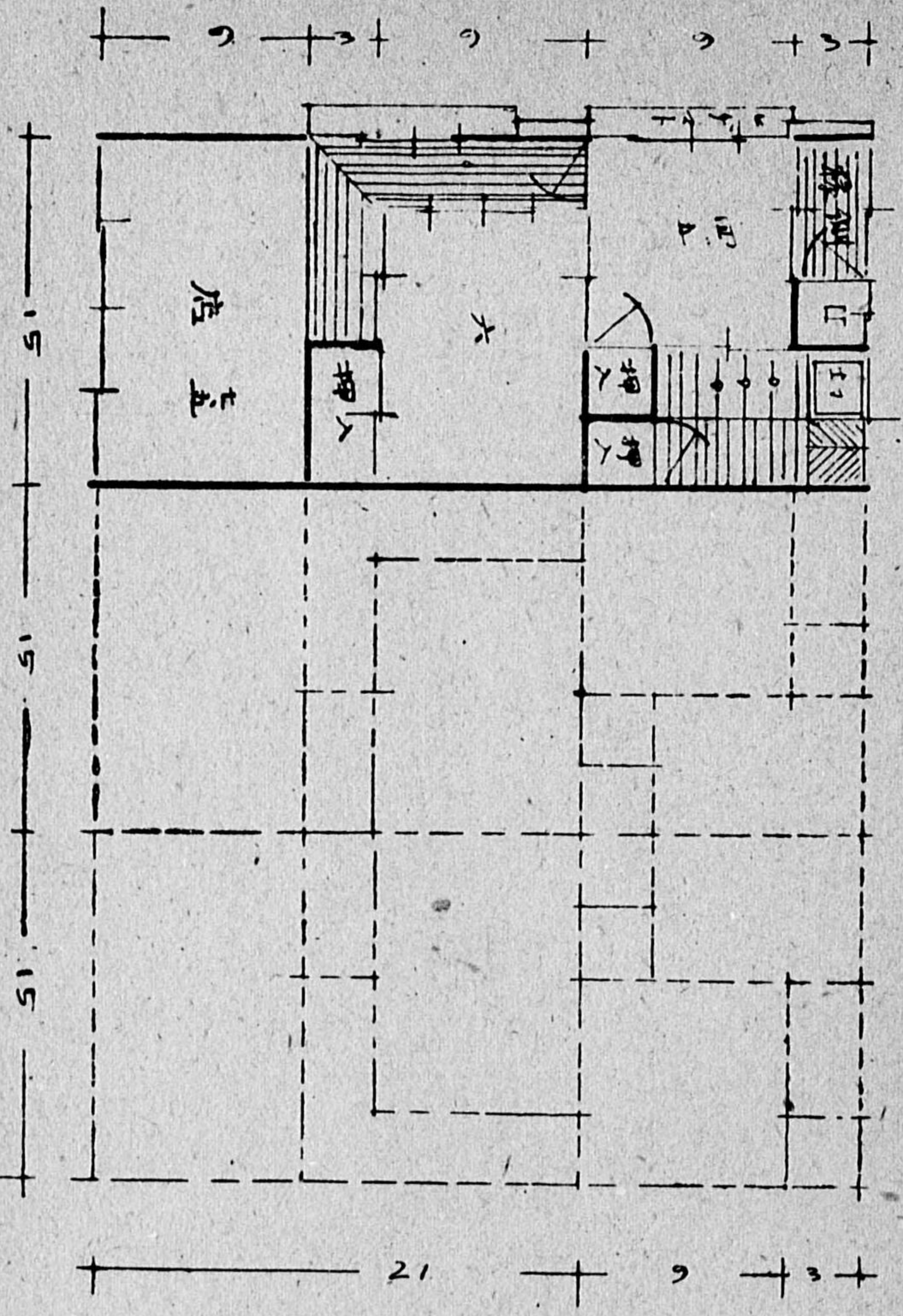
一戸當り間口、貳間奥行四間の八坪
 一戸當り建築費、一萬五千圓
 店は六帖、控室は四疊半、臺所は三疊
 四戸共同の様な造りである。



⑨ 貳間間口四戸建商店

第五十七圖 貳間半間口參戶建商店

一戸當り、間口貳間半、奥行五間半、拾參坪七合五勺
 建築費、一戸當り、參萬四千三百七十五圓
 御店は七疊半、御座敷は六疊、茶の間四疊半
 臺所は三疊、相當の坪數であるから、復興商店建築として理想的である。

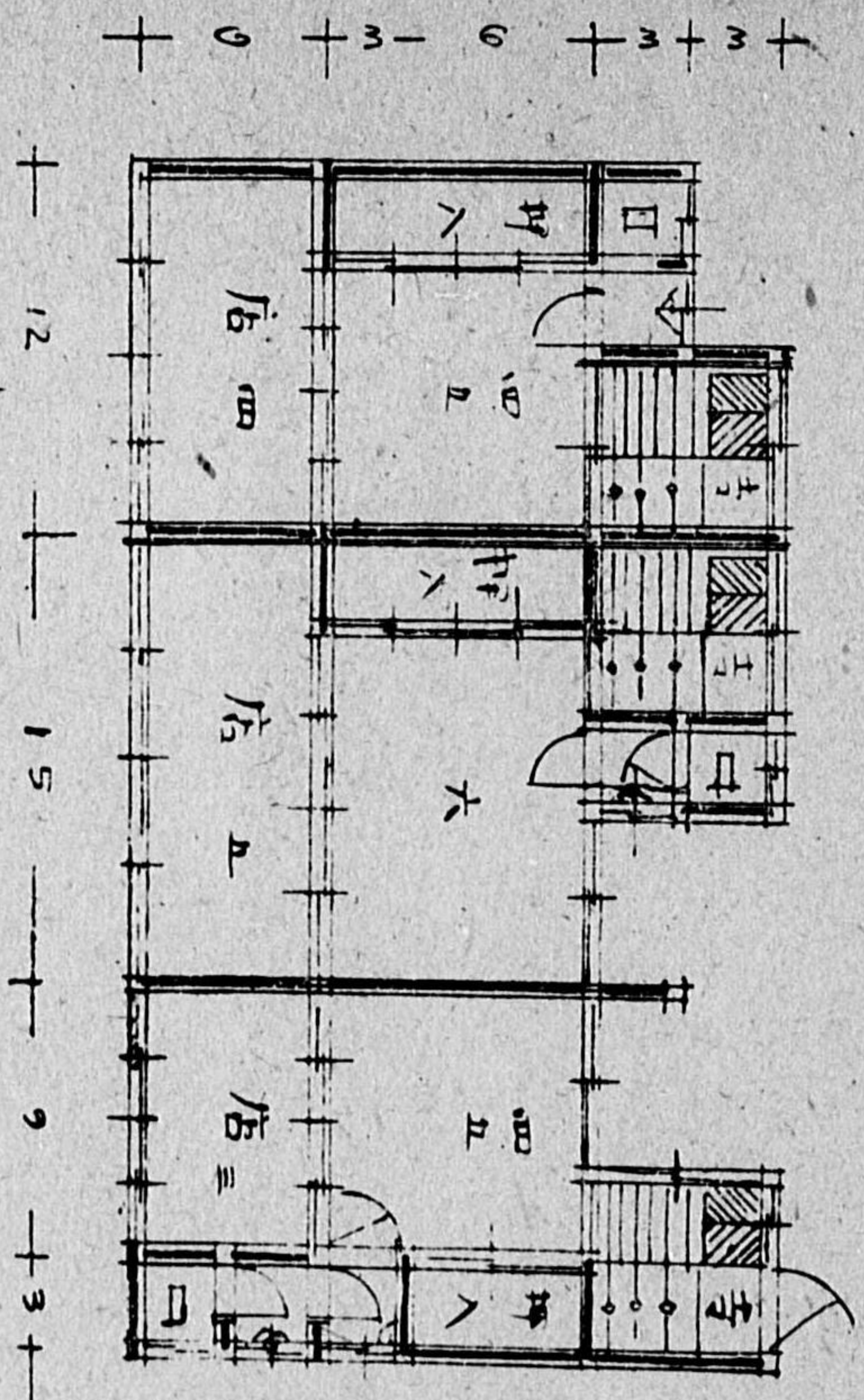


⑤ 貳間半間口參戶建商店

第五十八圖 六間半間口の敷地へ参戸建の商店

一戸當りの坪数は各々異つて居る。
 御店は、四疊、五疊、三疊の三種、控室も四畳半もあれば六疊もある。臺所は何れも二疊の造りである。

要は敷地の廣さと建築豫算によつて設計するのである。尙ほ方位によつて間取りを考
 究せねばならない。設計の良否は住宅として健康上に、商店の設計の良否は商賣の盛
 衰に影響するのである。



⑤⑧ 六間半間口敷地へ参戸建の商店




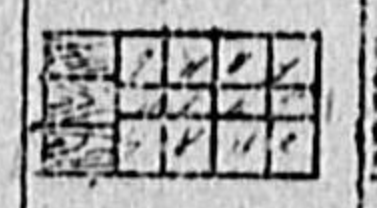
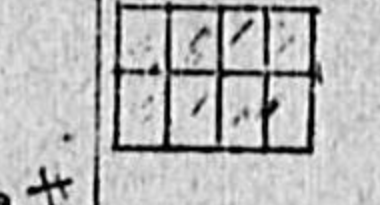
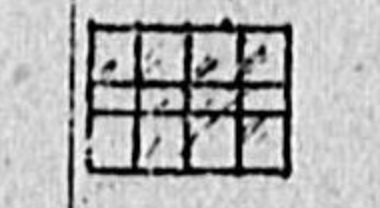
第五十九圖 硝子入建具の既製標準寸法

本圖は、關東、關西方面に一般既製品として市場に販賣されるものの寸法である。
硝子入以外に雨戸（板戸）紙張障子、襖等の既製品も今日漸く市場に現れてる様になつた。復興建築の爲めに慶賀に思ふ。

本書の末尾の言葉として著者一言を申し添へます。讀者各位の御隆盛と一日も早く住良し住宅の御復興と御健康を祈る。

終り

㊦ 硝子入建具の既製標準寸法

型式	寸法	符号	寸法	符号	型式	寸法	符号
 高牌 六板入 七字型 窓用 四板入 田字型	1間 2本引	ト 1	5尺7寸 x 2尺9寸	シ 1	 高牌 六板入 七字型 窓用 四板入 田字型	5尺8寸 x 3尺6分5厘	カ 11
	2間 4本引	ト 1 1	5尺7寸 x 2尺9寸 x 2尺9寸	シ 1 1		5尺8寸 x 3尺6分5厘	カ 11
	1間 2本引	ト 1 1	5尺7寸 x 2尺9寸	シ 1 1		5尺8寸 x 3尺6分5厘	カ 11
	2間 4本引	ト 1 1	5尺7寸 x 2尺9寸 x 2尺9寸	シ 1 1		5尺8寸 x 3尺6分5厘	カ 11
 中腰 六板入 七字型 窓用	1間 2本引	ハ	4尺8寸 x 2尺9寸	ハ	 中腰 六板入 七字型 窓用	4尺2寸 x 3尺1分5厘	カ 10
	2間 4本引	ハ	4尺8寸 x 2尺9寸 x 2尺9寸	ハ		4尺2寸 x 3尺1分5厘	カ 10
	1間 2本引	ハ	4尺8寸 x 2尺9寸	ハ		4尺2寸 x 3尺1分5厘	カ 10
	2間 4本引	ハ	4尺8寸 x 2尺9寸 x 2尺9寸	ハ		4尺2寸 x 3尺1分5厘	カ 10
 低腰 六板入 七字型 窓用	1間 2本引	ハ	2尺8寸 x 2尺9寸	ハ	 低腰 六板入 七字型 窓用	2尺8寸 x 3尺1分5厘	カ 9
	2間 4本引	ハ	2尺8寸 x 2尺9寸 x 2尺9寸	ハ		2尺8寸 x 3尺1分5厘	カ 9
	1間 2本引	ハ	2尺8寸 x 2尺9寸	ハ		2尺8寸 x 3尺1分5厘	カ 9
	2間 4本引	ハ	2尺8寸 x 2尺9寸 x 2尺9寸	ハ		2尺8寸 x 3尺1分5厘	カ 9

硝子入建具の既製標準寸法
 硝子入建具の既製標準寸法
 硝子入建具の既製標準寸法

5718

昭和二十二年七月十日印刷
昭和二十二年七月十五日發行

複製不許



住宅建築設計圖

定價 六十圓

著者 佐藤 巳之吉

發行人 中村 仁太郎

東京都北多摩郡
吉祥寺一九三八

印刷人 小泉 輝章

印刷所 小泉印刷所

東京都文京區
戸崎町七一

發行所

中村書店

東京都北多摩郡
吉祥寺一九三八
電話 三三九八
振替 東京 五〇一一

終